SHARP

電子辞書 Brain（ブレーン）

形名 PW-A1



操作ガイド（使い方）

21BSC80J1
(スマートフォン用)

はじめに

■ご使用前のおことわり

●この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店またはシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
●お客様または第三者がこの製品および付属品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
●この製品は付属品を含め、改良のため予告なく変更することがあります。
●アフターサービスなどについては、製品に付属の取扱説明書をご確認ください。
●記載されている画面例やアイコンなどは説明用のため、実際の製品での表示と異なる場合があります（例、表示文字サイズ）。また画面例では画面右（縦表示のときは画面下）に表示される操作タッチキーを省略している場合があります。
●本説明書では、microSDメモリーカードとmicroSDHCメモリーカードの総称として、microSDメモリーカード（またはメモリーカードやカード）と表示しています。microSDXCカードは使用できません。

■記憶内容保存のお願い

この製品は、市販のmicroSDメモリーカードの使用時を含め、使用誤りや静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき、また、故障・修理のときは、お客様が記憶させた内容などが変化・消失する場合があります。

重要な内容は必ず紙などに控えておいてください。単語帳・ボイスメモ・旅ノートなどの本体で作成した重要なデータは市販のmicroSDメモリーカードにバックアップしておいてください。万一、お客様が記憶させた内容などが変化・消失してしまうことがあっても、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■TFTカラー液晶パネルについて

TFTカラー液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しない画素や常時点灯する画素がある場合があります。また、見る角度によって色むらや明るさむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

■本製品の説明書について

本製品には、この「操作ガイド」と「コンテンツ一覧」の他に、「取扱説明書」が添付されています。

■「使い方」画面のQRコードについて

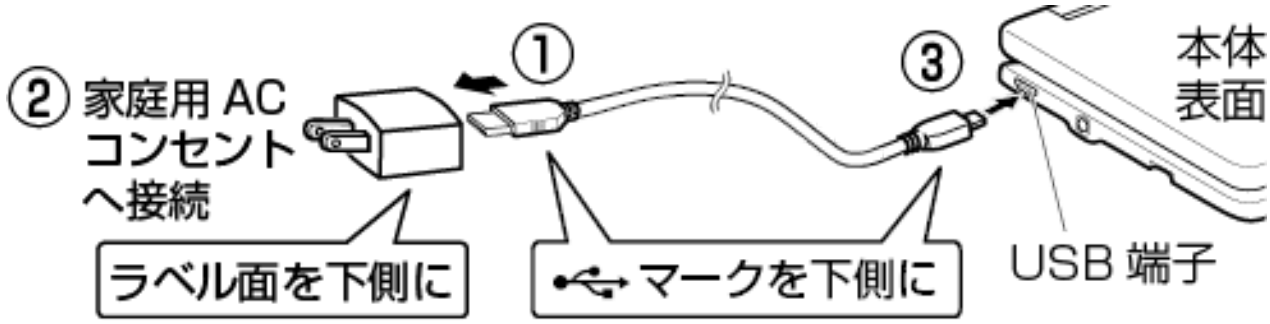
● 「使い方」画面のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると「操作ガイド」(PDFファイル）がダウンロードできます。
なお、シャープサポートページ(https://jp.sharp/support/)の「取扱説明書」からダウンロードすることもできます。
● 誘導されるサイトおよび「操作ガイド」(PDFファイル）のダウンロードは無料ですが、通信料金はお客様のご負担になります。QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

● QRコードを読み取るときは、表示画面の明るさを「明るさ3」以上に設定してください。画面が暗いと読み取れない場合があります。ホーム画面で「設定」－「明るさ調整」を選んで調整してください。

初めてお使いになるときは

■充電をする

①、②、③ の順番でACアダプターを接続し充電してください。
充電が始まると"ピピッ"と鳴ります。



本体を開いて画面右上の電池マークが（満充電）になっていることを確認したら、microUSBケーブルを電子辞書から抜き、ACアダプターをコンセントから抜きます。

二参考二

ホーム画面の「設定」－「充電開始音設定」で、充電の開始音を鳴らないように設定できます。

■ACアダプターで使用する

ACアダプターを接続して本製品を使用することができます。

★注意★

●ACアダプターやmicroUSBケーブルは必ず付属品をご使用ください。付属品以外を使用された場合は、エラーが表示され充電ができないことがあります。

●充電は約6時間（使用温度25℃のとき）かかりますが、使用温度、充電池の残量や使用状況によって変わります。

●長時間使用しなかった充電池の充電には、通常より長く時間がかかります。

●本製品を使用しているときは、充電に長い時間がかかります。電源を切っておいたほうが早く充電できます。

●充電は途中で止めないで、満充電になるまで充電してください。

●充電中にACアダプターや充電池が温かくなりますが、故障ではありません。

●充電は、周囲の温度が0℃～40℃の場所で行ってください。
0℃～40℃以外の環境では温度異常と見なして充電を行わないことがあります。

●温度異常を除き、ACアダプターで正しく充電できないときは異常メッセージが出ますので付属の取扱説明書の『アフターサービスについて』をご覧のうえ、修理を依頼してください。

●ACアダプターを市販の電子変圧器などに接続しないでください。
ACアダプターが故障することがあります。

■日時の設定

はじめて電源を入れると、日付と時刻の設定画面が表示されます。

「年」「月」「日」「時」「分」「AM（午前）／PM（午後）」を設定してください。
＜例＞2021年4月16日 →「21 04 16」を入力
PM(午後）3時45分 →「15 45」を入力
●13～23時の入力の時は、AM/PMの設定を省略できます。
●数字はキーボードで入力します。
●カーソル移動は［▲］［▼］［◀］［▶］で行います。

二参考二

● 日付と時刻の設定のあとに、バックアップ機能についての説明画面が表示されますので確認ください。
● 市販のmicroSDメモリーカードに単語帳などのデータを一括してバックアップすることができます。またバックアップしたデータは一括して電子辞書本体に戻すことができます。詳しくは、『ユーザーデータバックアップ』を参照してください。

■充電池の残量の目安

充電池の残量は、画面右上に表示される電池マークを目安にしてください。
：良好です。
：すこし少なくなりました。
：少なくなりました。充電することをお勧めします。
：少なくなりました。速やかに充電してください（このときは、画面が暗くなります)。
：残量がなくなりました。すぐに充電してください（このときは、電源が切れます)。
：充電中です。
：満充電です。

ニ参考ニ

充電池の残量が少なくなると、次のような動作ができなくなります。

- 音声の入力、音声の再生（ステップリスニングなどを含む）
- 全部の単語帳を削除、カードの初期化
- 本製品の初期化など

■市販のストラップを取り付けるときは

市販のストラップをストラップホールに通して取り付けることができます。

★注意★

ストラップを取り付けてストラップを持って振り回したり、強く引っぱるなど、ストラップに過重がかかる行為は行わないでください。故障や破損の原因となります。

基本の操作

■キーなどの表記のしかた

- キーボード上のキー、表示部右（縦表示のときは表示部下）の操作タッチキー、電卓画面のキーなどは［　］で囲んで表します。画面中の選択項目、メニュー、タブなどは「　」で表します。

例1



：[削除]と記載。または［シフト］［クリア］と記載。

例2



：［W］または［２］と記載。



：［決定］と記載。

例3



：「一覧から選ぶ」と記載。（ホーム画面のアイコン）

● 2種類の機能が表示されているキーの枠で囲まれた（クリア、～、？、文字小、文字大、🔊+、🔊ー）機能は［シフト］を押して離したあと（画面左上にシフトを表示）、それぞれのキーを押します。

例：［シフト］［文字大］と記載。

● 他の見出しや文書の参照は『　』で囲んで表します。

記号（注意・参考）について

★注意★

故障の原因になる注意事項および注意していただきたいことを記載しています。

ニ参考ニ

参考情報や関連事項、操作上の制限事項などを記載しています。

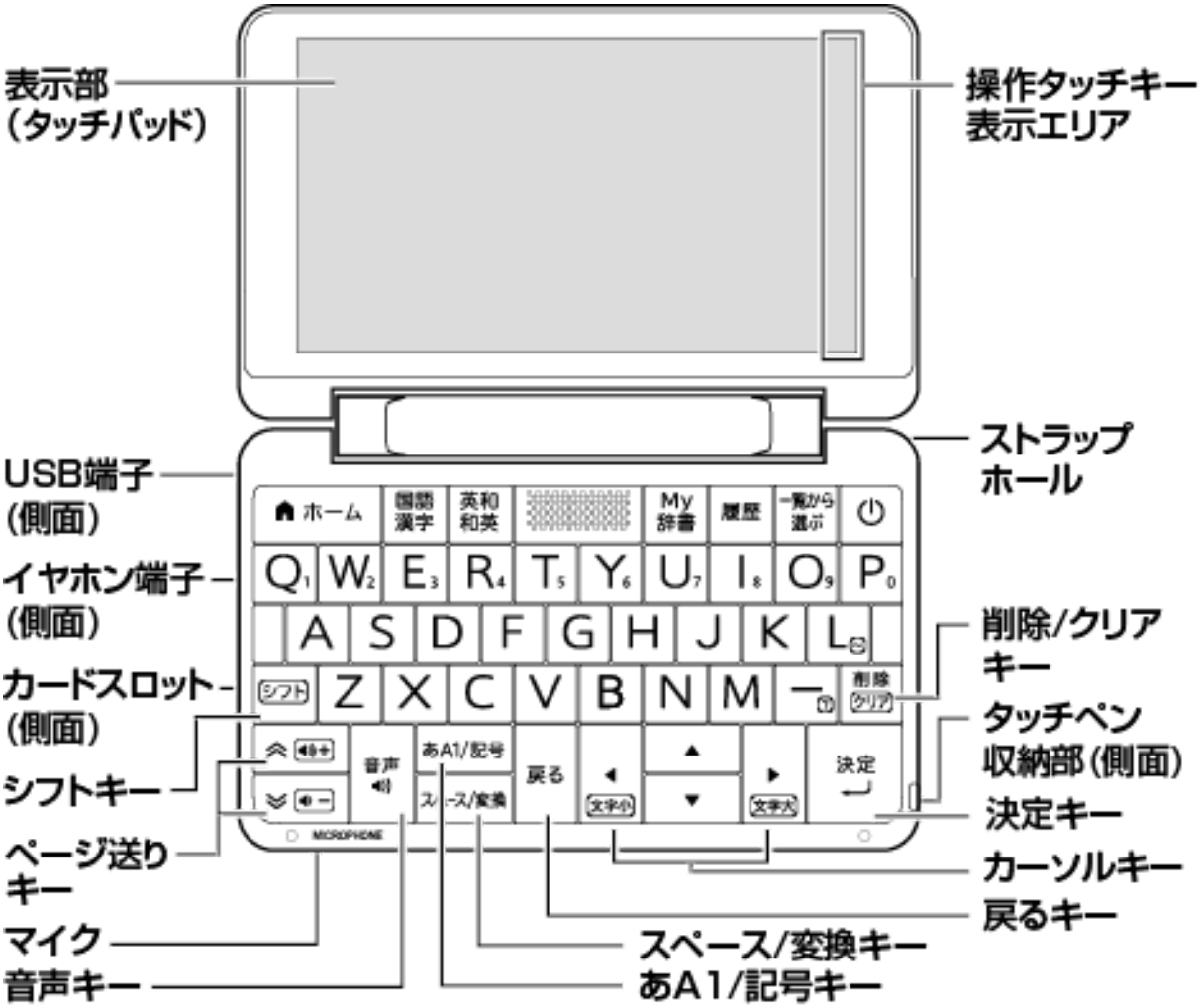
説明方法について

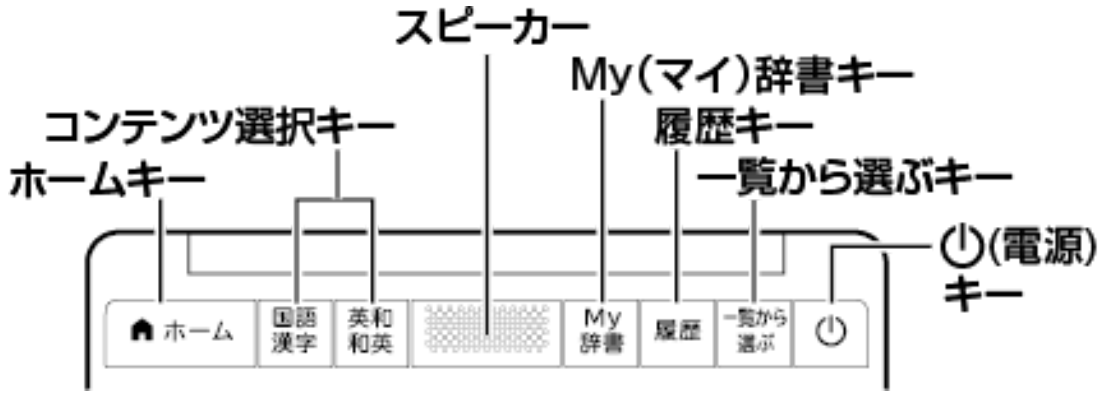
● 本製品の操作は、キーによる操作、画面でのタッチ操作と、複数の方法が使用できます。本説明書では、基本的にキーによる

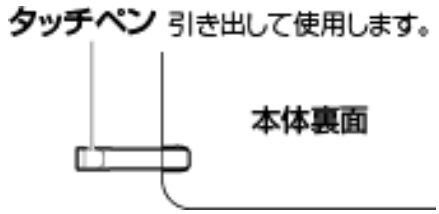
操作(画面例は横表示)で説明し、必要な場合は適宜、タッチ操作などで説明します。

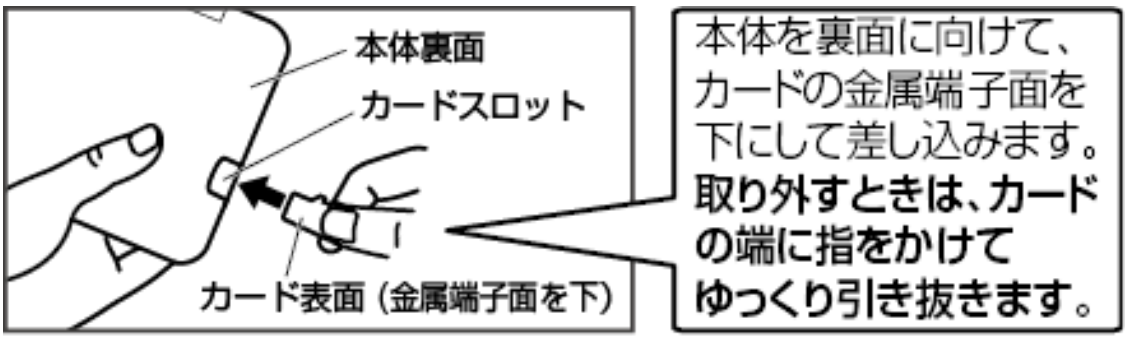
● 本製品では追加コンテンツなどによって中国語（簡体字）、韓国語コンテンツを使うことができます。ここではそれらコンテンツが使えるものとして説明を行います。

■各部のなまえとはたらき









※本製品ではmicroSDメモリーカードが使用できます。

ホーム(ホーム)キー

ホーム画面やお気に入り画面を表示します。押すたびに画面が切り替わります。

コンテンツ選択キー

各コンテンツの初期画面を表示します。押すたびに二つのコンテンツが交互に表示されます。

My（マイ）辞書キー

よく使うコンテンツを自分で指定して、直接開くことができます。ホーム画面の「設定」－「ダイレクトキー設定」から設定できます。

履歴キー

検索（詳細画面表示）履歴または電子書籍のしおりを表示します。

一覧から選ぶキー

辞書一覧画面（コンテンツ等選択画面）を表示します。

⏻(電源)キー

電源を入れたり、切ったりするときに押します。

シフトキー

2種類の機能が書かれているキーの、枠で囲まれた機能を使うときに押します。

ページ送りキー

1画面ずつ送るときになどに使います。

音声キー

音声マーク（  ）などの音声を再生するときに押します。

あA1/記号キー

調べる画面（ホーム画面－「言葉を調べる」にタッチして表示）の検索入力や、各コンテンツの検索入力で、入力する文字種を指定するときに押します。また、「英作ボード スピーキングプラス」で記号を入力するときに押します。

スペース/変換キー

スペースを入力するときや、入力した文字を漢字変換するときに押します。詳しくは、『かな漢字変換をして入力する』を参照してください。

戻るキー

前の画面などに戻ります。

決定キー

メニュー選択や文字入力などを確定します。

カーソルキー

１行ずつ画面を送るときや、カーソルを動かすときなどに使います。

文字小（[シフト]+[◀]）/ 文字大（[シフト]+[▶]）キー

文字サイズを変えるときに押します。

🔊+（[シフト]+[≪]）/ 🔉ー（[シフト]+[≫]）キー

音量を調整するときに押します。

（🔊+ ：音量大、🔉ー：音量小）

削除キー

入力した文字を1文字ずつ削除するときに押します。

クリア（[シフト]+[削除]）キー

各コンテンツの入力画面や最初の画面などに戻ります。

～（[シフト]+[L]）/？（[シフト]+[－]）キー

“～”（ブランクワード）/“？”（ワイルドカード）を入力するときに押します。詳しくは、『読みやスペリングの一部を省略して検索する』を参照してください。

操作タッチキー表示エリア

画面に応じた機能（手書き入力画面表示、単語帳など）や、カーソル、決定や戻るなどの操作タッチキーが表示されます。[開く]にタッチすると操作タッチキー表示エリアが拡大し、その画面で使用できる操作タッチキーがすべて表示され選択できるようになります。[閉じる]にタッチすると元の表示に戻ります。

★注意★

キーなどの動作は、コンテンツにより異なる場合があります。

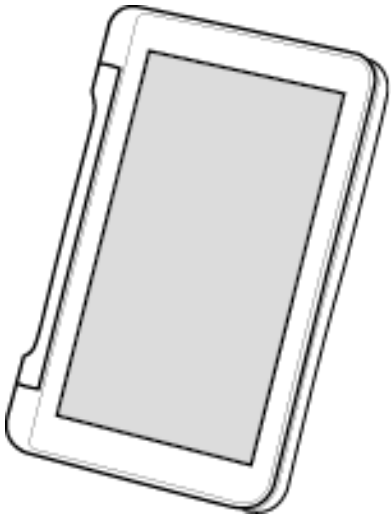
■調べるスタイル／学習スタイル

本製品は、“調べるスタイル”（キーボード操作方式）と“学習スタイル”（タッチ操作方式）の2通りの使用方法が可能です。

調べるスタイル（キーボード操作方式）



学習スタイル（タッチ操作方式）



★注意★

学習スタイル（タッチ操作方式）で使用しているときは、キー（⏻キーによる電源ONを除く）による操作はできません。

■電源の入れかた／切りかた

電源を入れる

本体を閉じた状態から開いたときに電源が自動的に入るようになっています。
また電源が切れているときに[⏻]を押すと電源が入り、電源が切れる前の画面が表示されます（レジューム機能）。
なお、オープニング設定によっては、オープニング画面が表示されます。オープニング設定については、『設定』をご覧ください。

電源を切る

電源が入っているときに[⏻]を押すと電源が切れます。ただし、画面が暗くなっているときは、[⏻]を押すと画面が明るくなります。
操作タッチキーの[電源]でも電源を切ることができます。

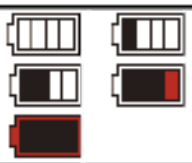
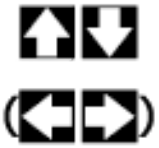
自動的に電源が切れる場合

追加音声（MP3）再生中、ボイスメモ再生／録音中などを除いて、本体を閉じると電源が切れ、動作している機能がすべて終了します。
また、一定時間（初期値は約5分間）キー操作などがないと自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。ただし、次のような場合は電源が切れませんので、電源の切り忘れなどに注意してください。
●追加音声（MP3）再生中　●連続読み上げ中　●ステップリスニング再生中

●ACアダプター接続時に、フォトスライドのスライドショーを行っているときや、オープニング画面でオートデモ（商品紹介）を行っているとき
●ボイスメモ（再生・録音）　●タイマー（カウント中）
オートパワーオフ時間は、ホーム画面の「設定」－「オートパワーオフ時間設定」を選んで変更できます。

■画面表示について

画面に表示される表示シンボルやマークは、製品の状態などを示します。

シンボル	意　味
	電池充電中を示します。
	電池が満充電であることを示します。
	電池の残量（目安）を示します。
	画面の右上に表示され、矢印の方向に表示されていないデータがあることを示します。 [▼]、[▲]：１行ずつ画面を送ります。 [⩔]、[⩓]：１画面ずつ画面を送ります。 このシンボルにタッチすると１画面ずつ画面を送ります。 縦書きのコンテンツでは横向きの矢印が表示される場合があり、その場合は[◀]、[▶]でも１行ずつ画面を送ります。
	このシンボルは画面の左上に表示されます。 [シフト]が押されたことを示し、キーボード上の枠で囲まれた機能を選択できます。 （状況により選択できない機能があります。）

マーク	意　味
例 解説 図 NOTE 表	関連する例文や解説、図、コラム(NOTE)、表が収録されていることを示します。 マークにタッチすると、収録内容を表示または再生します。 ※本製品に収録されているコンテンツでは表示されないマークがあります。
	音声データが収録されていることを示します。 マークにタッチすると、音声を再生します。
	ジャンプして参照することを示します。 マークまたはマークが示す用語にタッチするとジャンプ機能が働きます。

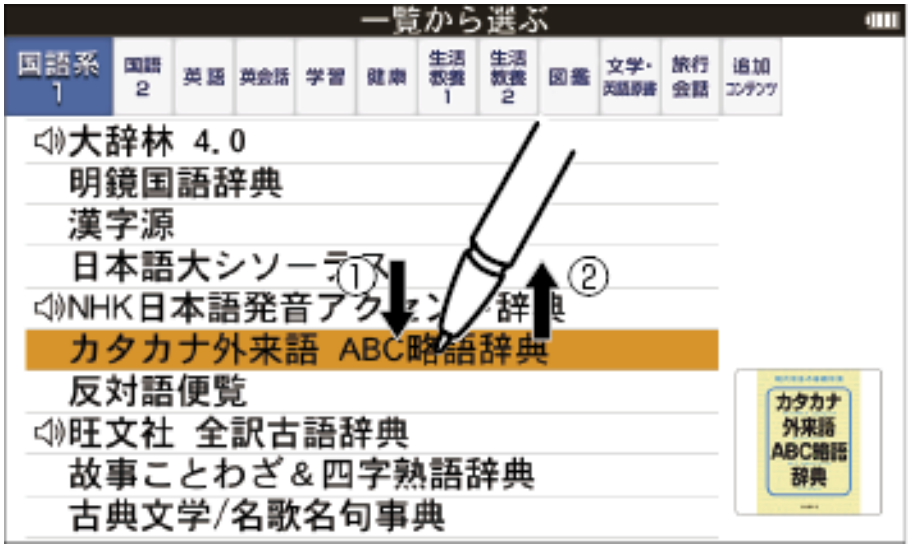
■画面タッチ操作のしかた

画面をタッチペンでタッチして操作できます。

タッチ操作の種類

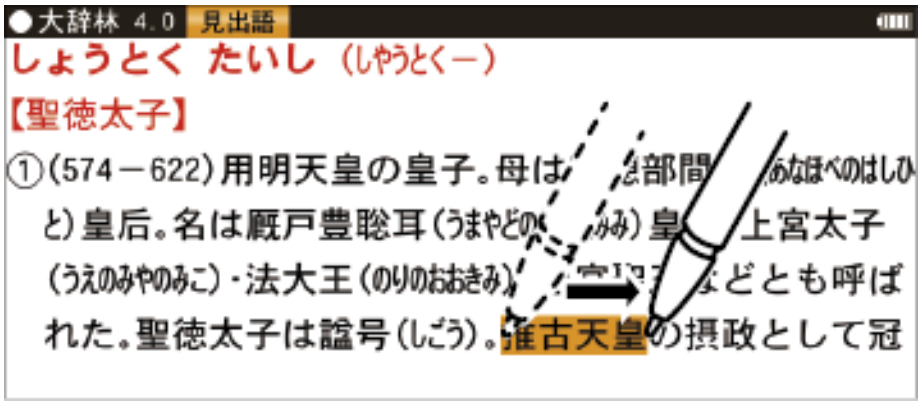
タッチ：

画面に①軽く触れ（軽く押し）、②離す操作です。メニューの項目を選んだり、画面のボタン、型マーク、・の操作など、多くの操作に使用します。



ドラッグ：

タッチペンで画面にタッチしたままペンを別の点まで移動させます。文字の範囲指定などに使います。



★注意★

画面を強く押さえたり、たたいたりしないで軽く操作してください。

強い力やショックを加えると傷がつき、破損の原因になります。

ドラッグによる画面送り

タッチペンで画面を上下にドラッグすると、画面を送ることができます。

詳しくは、『ドラッグによるスクロール』を参照してください。

■使いたいコンテンツ（辞書）の選びかた

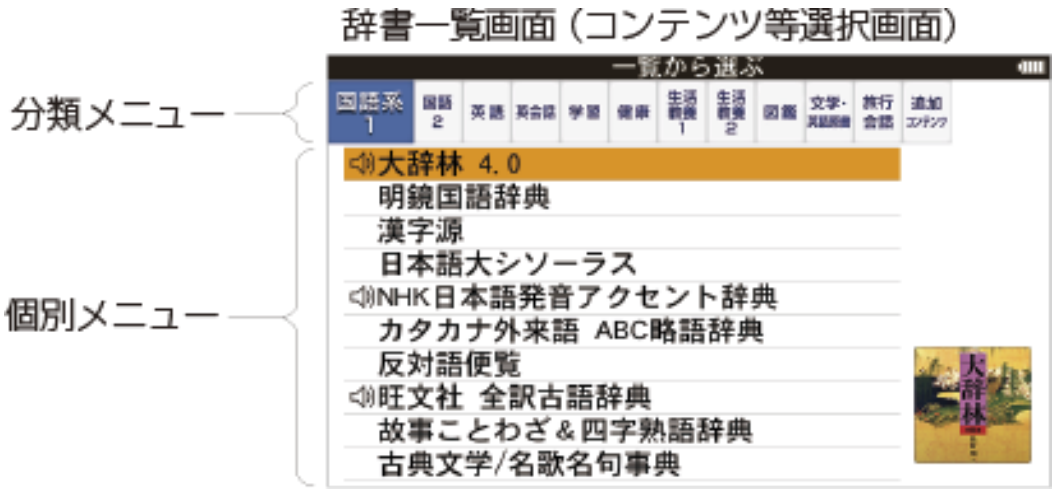
ホーム／お気に入り画面で選ぶ

[ホーム]を押すたびにホーム画面やお気に入り画面が表示されます。ホーム画面からアイコンをタッチしていきます。またお気に入り画面からコンテンツを選ぶこともできます。

詳しくは、『ホーム画面について』、『お気に入り画面について』を参照してください。

辞書一覧画面で選ぶ

[一覧から選ぶ]を押して、またはホーム画面の「一覧から選ぶ」にタッチして表示される辞書一覧画面で、まず分類メニューを選び、次に個別メニューから使いたいコンテンツを選びます。



分類メニューの選択

［▶］や［◀］で選びます。それぞれ、画面にタッチして選ぶこともできます。

個別メニューの選択

［▼］や［▲］で選んで［決定］を押します。それぞれ、画面にタッチして選ぶこともできます。

その他の方法で選ぶ

●コンテンツ選択キーを押して選びます。押すたびに二つのコンテンツが交互に表示されます。

[国語/漢字]：大辞林4.0※/漢字源

[英和/和英]：ジーニアス英和辞典/ジーニアス和英辞典

※ホーム画面の「設定」－「ダイレクトキー設定」からコンテンツ登録を変更できます。

●［My辞書］を押します。

ホーム画面の「設定」－「ダイレクトキー設定」から［My辞書］の設定を変更できます。

■ホーム画面について

［ホーム］を押してホーム画面を表示します（押すたびにホーム画面／お気に入り画面が切り替わります）。
表示されているアイコン（絵記号）にタッチして選択します。あるいはカーソルキーでアイコンを選択し[決定]を押します。選択されているアイコンは色が変わったりマークがついたりします。



「言葉を調べる」
　調べる画面が表示され、調べたい語句を入力し検索することができます。詳しくは『調べる画面について』、『調べる画面から検索する』を参照してください。
「一覧から選ぶ」
　辞書一覧画面を表示します。
「履歴表示エリア」

辞書一覧画面などから利用したコンテンツやツールなどのアイコンが、履歴として表示されます（4個まで）。ここからアイコンをタッチしてコンテンツやツールなどを利用することができます。なお初期状態は既定のアイコンが表示されていますが、利用したコンテンツやツールなどに順次入れ替わります。カーソルキー操作でアイコンを選択して[削除]を押すと削除できます。

「メニューアイコンエリア」

分類アイコン

「行楽・旅ノート」、「語学・辞書」、「趣味・教養」、「健康」の各分類(大分類)からコンテンツなどを利用するためのアイコンです。アイコンをタッチすると分類(中分類)別の画面が表示されます。コンテンツが複数のページに分かれているときは、  や  をタッチするとページが切り替わります。

アクセサリー

追加コンテンツ、ツール、パソコン接続、カラー図鑑、すべての単語帳を見る、すべてのマーカーテストを見る、コンテンツの説明を見るを利用するためのアイコンです。

使い方

使い方の画面を表示します。

設定

設定メニュー画面を表示します。

「切り替えボタン」

ここをタッチして「ホーム画面」「お気に入り画面」を切り替えることができます。詳しくは『ホーム／お気に入り画面切り替え』を参照してください。

「操作タッチキー」

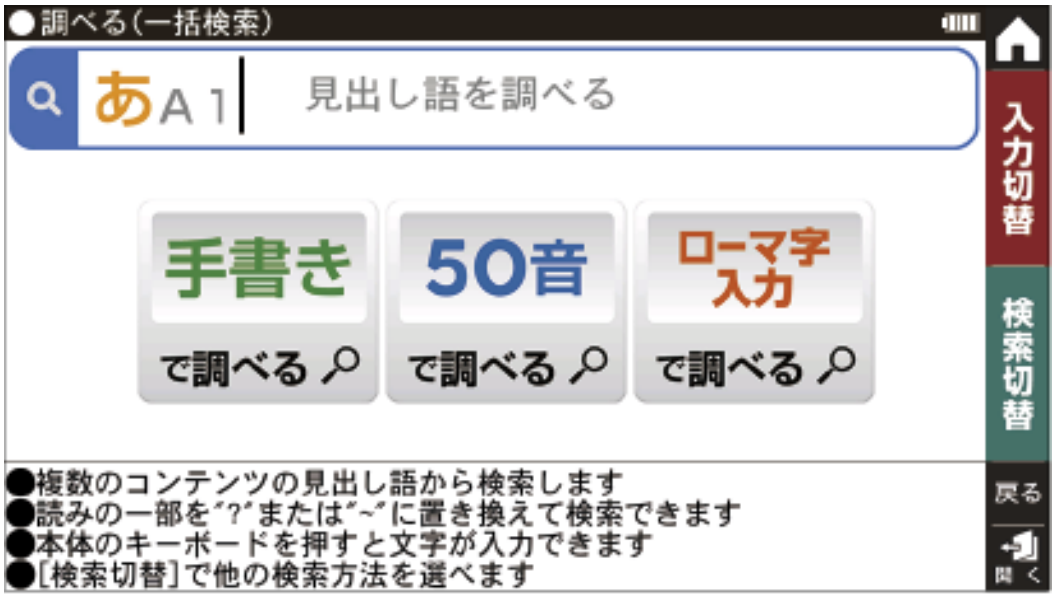
ここに表示される操作タッチキーから様々な操作ができます。詳しくは『操作タッチキーの使いかた』を参照してください。

「背景写真」

ホーム画面／お気に入り画面の背景に写真や名前を表示することができます。詳しくは『ホーム背景設定』を参照してください。

調べる画面について

ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチすると、調べる画面が表示されます。



調べる画面(一括検索)

この画面から文字を入力して調べることができます。

調べるときの操作の流れ（一括検索）

1. 入力文字種を選択します。入力欄左の「あA1」表示を画面タッチして次のメニューから選択します。

または、入力欄にカーソル表示“｜”があるときや文字入力中に［あA1/記号］を押して選択することもできます。

「あいう」：日本語（かな、漢字）を入力します。（「あA1」の「あ」が強調表示）

「ABC」：英語（小文字）を入力します。（「あA1」の「A」が強調表示）

「123」：数字（アラビア数字）を入力します。（「あA1」の「1」が強調表示）

「中国語」「ピンイン」：中国語コンテンツ（別売）で中国語やピンインを入力します。

「韓国語」：韓国語コンテンツ（別売）で韓国語を入力します。

2. キーボードまたは画面タッチで文字を入力します。

画面タッチで日本語を入力：「手書きで調べる」、「50音で調べる」または「ローマ字入力で調べる」にタッチしてから入力します。

画面タッチで英語を入力：「手書きで調べる」または「ソフトキーボードで調べる」にタッチしてから入力します。

画面タッチで数字を入力：「ソフトキーボードで調べる」にタッチしてから入力します。

3. 1文字入力ごとに候補が絞り込まれて表示されます。目的の語を選び[決定]を押します。

詳しくは『調べる画面から検索する』を参照してください。

二参考二

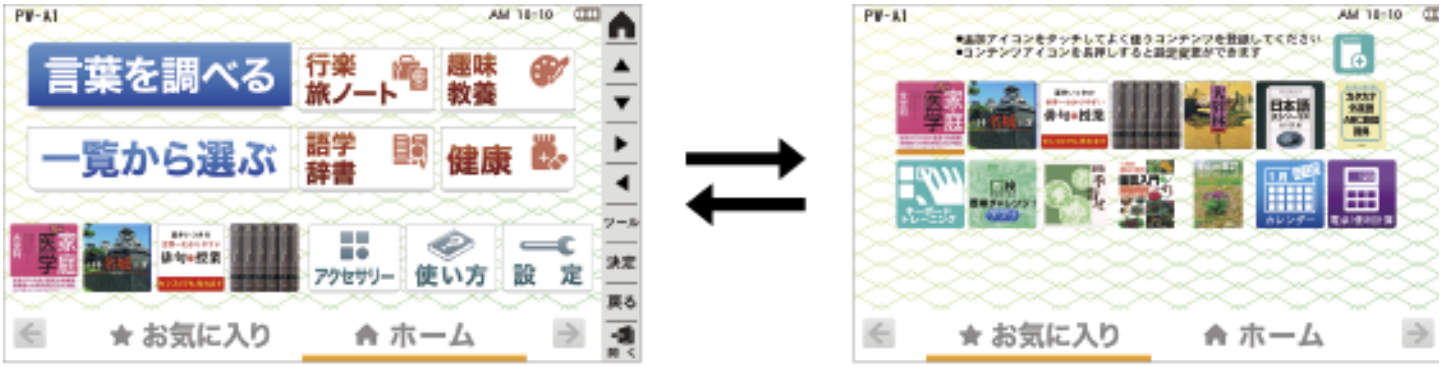
● 漢字の読みを調べるときは、手書き入力で漢字を書いて調べると便利です。詳しくは『漢字を調べる』を参照してください。

● 調べる画面からは複数のコンテンツ（辞書）を対象に調べます。個々のコンテンツで調べるときは、コンテンツを選択してから文字を入力してください。
コンテンツの選択は『使いたいコンテンツ（辞書）の選びかた』を参照してください。

ホーム／お気に入り画面切り替え

ホーム画面から、お気に入り画面に切り替えることができます。
次の操作で切り替えます。

・［ホーム］を押す。
・画面下部の切り替えボタン（「お気に入り」/「ホーム」、/）にタッチする。
・タッチペンで左右にドラッグする。
・操作タッチキーの[]にタッチする。



ホーム画面　　お気に入り画面

お気に入り画面については『お気に入り画面について』を参照してください。

「分類アイコン」について

各分類からコンテンツを利用することができます。

【例】「英語原書」のコンテンツを利用する。
1. ホーム画面から「語学・辞書」アイコンをタッチします。
「語学・辞書」の画面が表示されます。



2. 画面右の分類(中分類)で「英語原書」にタッチし、コンテンツを選びます。

■お気に入り画面について

よく使うコンテンツなどを、お気に入り画面に、アイコンとして登録できます。
アイコンをタッチするだけの簡単な操作でコンテンツなどが利用できるので便利です。

お気に入りコンテンツを登録する

［ホーム］を押してお気に入り画面を表示します（押すたびにホーム画面／お気に入り画面が切り替わります）。



初期状態で既定のコンテンツが登録されていますが、次の方法でお気に入りのコンテンツへ変更できます。

追加アイコンにタッチする

1. 画面右上の（追加アイコン）にタッチします。
2. コンテンツを選択する画面が表示されます。
分類を選択し、登録するコンテンツを選び［決定］を押します。
3. 選択したコンテンツのアイコンが新規登録されます。お気に入りエリアの空きスペース左上から表示されます。

コンテンツアイコンを約2秒タッチする

1. コンテンツアイコンを約2秒タッチします。
    ・お気に入り画面の設定画面が表示されます。
2. この画面から次の変更ができます。
    ・変更したいアイコンをタッチすると、コンテンツを選択する画面が表示されますので、分類を選択し、登録するコンテ

ンツにタッチします。アイコンが変更されます。
・アイコンをタッチしたまま移動（ドラッグ）すると、お気に入りエリア内でアイコンの位置を変更できます。
・アイコンをタッチしたまま（ゴミ箱）まで移動（ドラッグ）すると削除できます。
・"＋"（未登録状態）をタッチすると、コンテンツを選択する画面が表示されますので、分類を選択し、登録するコンテンツにタッチします。アイコンが登録されます。

3. ［戻る］を押して終了します。

■操作タッチキーの使いかた

画面右（縦表示のときは画面下）に表示される操作タッチキーから様々な操作ができます。以下に操作タッチキーの一例を説明します。操作タッチキーの内容は各機能やコンテンツにより異なり、画面により色などが変わることがあります。

[閉く]をタッチすると、操作タッチキー表示エリアの幅が広がり、その画面で使用できる操作タッチキーがすべて表示されます。

「調べる画面」の操作タッチキーは『調べる画面の操作タッチキー』を参照してください。

［▲］、［▼］、[▶]、[◀]、[≪]、[≫]、[決定]、[戻る]、[履歴]など

操作タッチキーから、本体キーボードのキーと同じ操作ができます。

[]

ホーム画面やお気に入り画面を表示します。タッチすると画面が切り替わります。

[（カーソル）]

カーソルやページ送りなどの操作ができるメニューに切り替わります。操作タッチキーを元に戻すときは[↩]にタッチします。

[手書き]

手書き入力画面を表示します。

[50音]

50音かな入力のソフトキーボードを表示します。

[abc]

QWERTY配列のソフトキーボードを表示します。

[123]

数字入力のソフトキーボードを表示します。

[ツール]

ツールジャンプメニューを表示します。

[文字サイズ]（[文字大]、[文字小]）

文字サイズを大きく、小さく切り替えることができます。コンテンツや画面によっては切り替えられない場合や、切り替えるサイズの範囲が異なる場合があります。

[英作ボード]

英語の文章を入力できる「英作ボード スピーキングプラス」を呼び出すことができます。詳しくは『英作ボード スピーキングプラスを使う』を参照してください。

[連続読上]

コンテンツの詳細画面にて、TTS音声（Text To Speech：合成音声）で文章を連続して読み上げることができます。詳しくは、『英語、日本語、中国語（簡体字）の読み上げ（TTSでの音声読み上げ）』を参照してください。

[単語帳]

単語帳に登録されている単語を表示します。

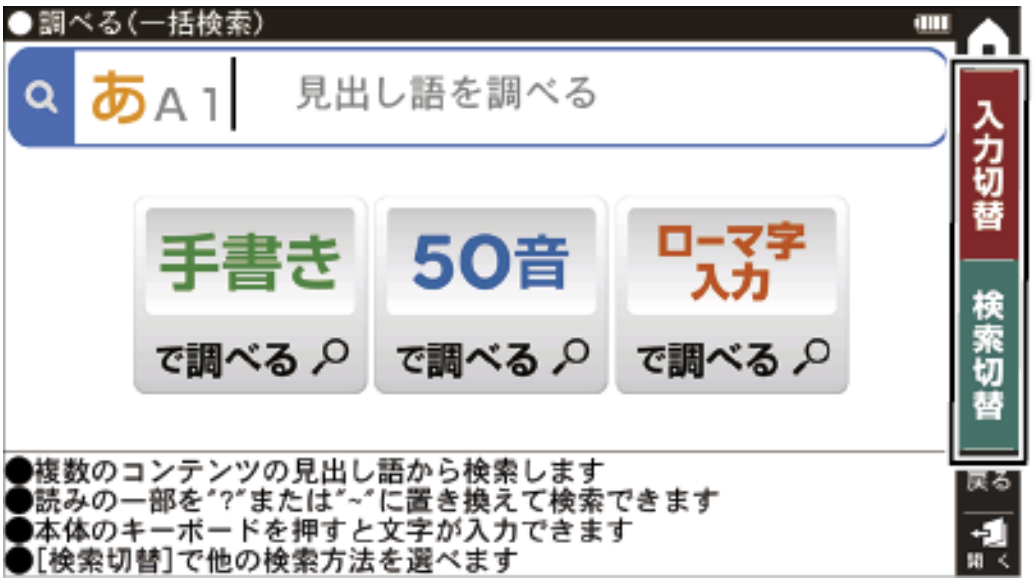
[単語帳登録]
　単語帳に登録します。
[２画面検索]
　詳細画面に別のウィンドウを開いて、別の語を調べることができます。
[暗記メモ作成]
　手書きでコメントなどを書き込んだ画面のコピーを保存することができます。
[設定]
　設定メニュー画面を表示します。
[音量]
　音量を調整します。
[再生速度]
　音声の再生速度を設定します。
[プレビュー]
　プレビューの表示/非表示および表示する位置を選択します。
[早見]
　コンテンツの詳細画面の例文や補足説明などを省略し、意味などを箇条書きで表示します。
[縦⇔横切替]
　画面の縦表示と横表示を切り替えます。
　※一部の画面では縦横切替が機能しません。
[電源]
　電源を切ります。
[

]
　操作タッチキー表示エリアの幅が広がり、その画面で使用できる操作タッチキーがすべて表示されます。[

]にタッチすると元の表示に戻ります。

調べる画面の操作タッチキー

ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチしたときに表示される「調べる画面」では、次の操作タッチキーが表示されます。



[入力切替]

タッチするたびに入力方法が切り替わります（入力文字種が日本語のときは、手書き入力→50音入力→ローマ字入力→本体キーボード入力→手書き入力・・・）。入力方法について、詳しくは『手書き入力画面で文字を手書き入力する』、『ソフトキーボードで文字を入力する』などを参照してください。

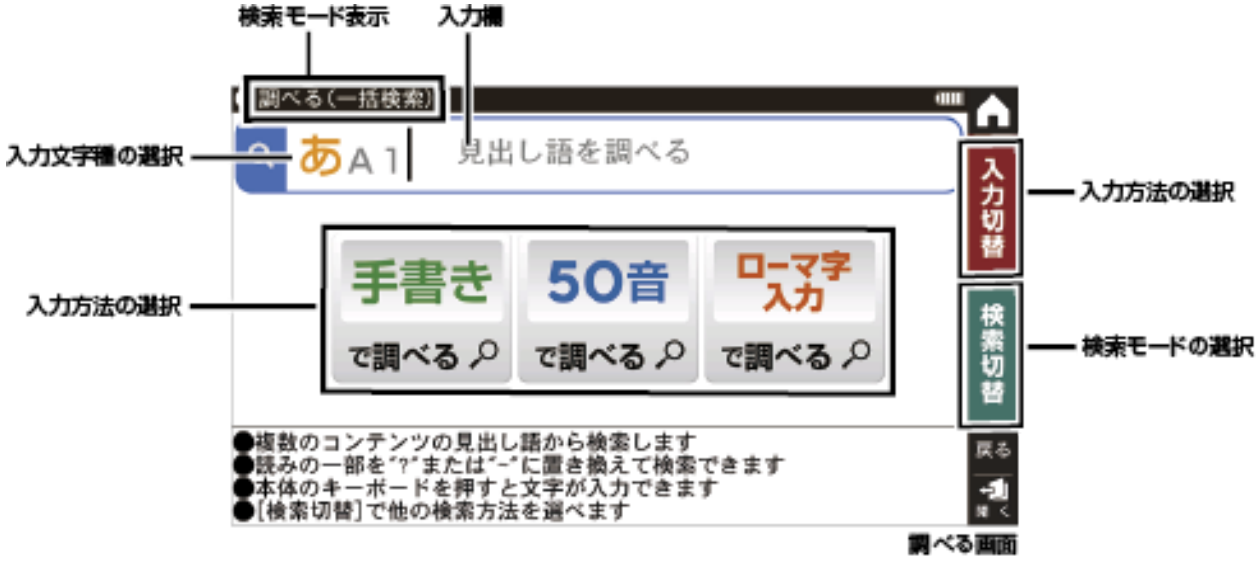
[検索切替]

タッチするたびに検索モードが切り替わります（全文検索→例文検索→成句検索→一括検索→全文検索・・・）。詳しくは『調べる画面から検索する』を参照してください。

調べる画面から検索する

ホーム画面から「言葉を調べる」にタッチして、調べる画面を表示します。調べる画面からは複数のコンテンツ（辞書）を対象に調べることができます。

■基本操作



検索モードの選択：操作タッチキーの[検索切替]にタッチして検索モードを切り替えます。タッチするたびに、「全文検索」→「例文検索」→「成句検索」→「一括検索」・・・と切り替わります。画面左上に選択した検索モードが表示されます。下記の『検索モードの種類』、『検索モードの選択（切り替え）』も参照してください。

入力文字種の選択：入力欄左の「あA1」表示を画面タッチして次のメニューから選択します。

または、入力欄にカーソル表示“｜”があるときや文字入力中に［あA1/記号］を押して選択することもできます。

「あいう」：日本語（かな、漢字）を入力します。（「あA1」の「あ」が強調表示）

「ABC」：英語（小文字）を入力します。（「あA1」の「A」が強調表示）
「123」：数字（アラビア数字）を入力します。（「あA1」の「1」が強調表示）
「中国語」「ピンイン」：中国語コンテンツ（別売）で中国語やピンインを入力します。
「韓国語」：韓国語コンテンツ（別売）で韓国語を入力します。

入力方法の選択：キーボード以外で入力するときは、「手書きで調べる」、「50音で調べる」、「ローマ字入力で調べる」（または「ソフトキーボードで調べる」）それぞれにタッチして選択します。操作タッチキーから切り替えることもできます。入力方法については『手書き入力画面で文字を手書き入力する』、『ソフトキーボードで文字を入力する』などを参照してください。

二参考二

ホーム画面から「言葉を調べる」にタッチして、調べる画面を表示したときは、前回の検索モードにかかわらず、一括検索モードになります。

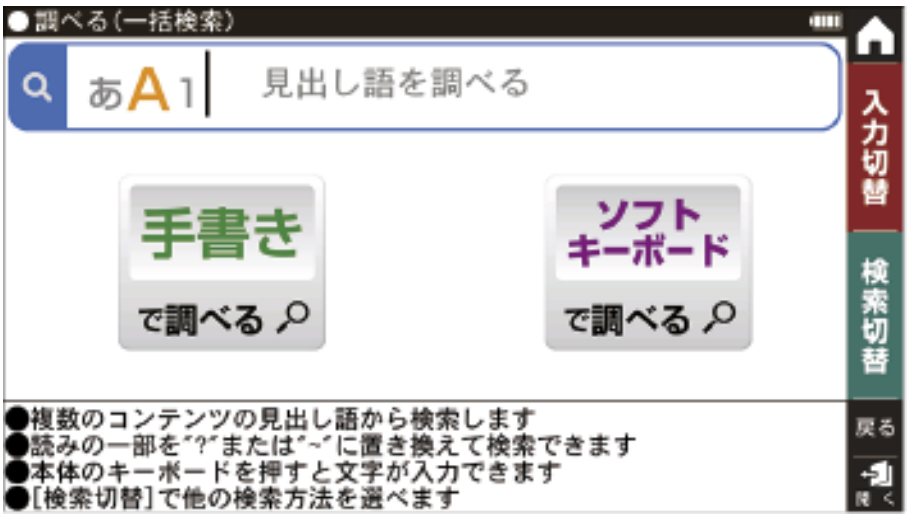
操作の流れ

文字種が組み合わされた見出し語の検索で、操作の流れを説明します。

【例】「IPアドレス」を検索します。

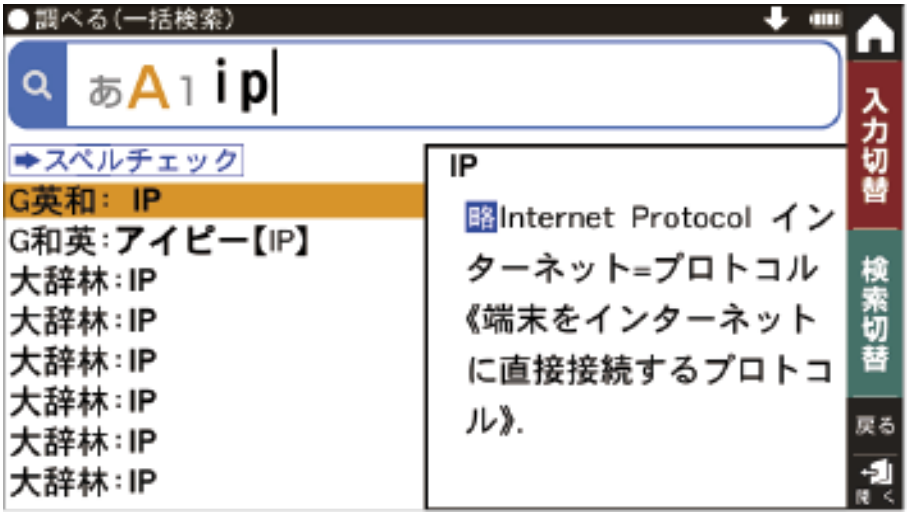
1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。

2. 「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「ABC」をタッチします。



・「あA1」の「A」が強調表示され、英語が入力できるようになります。

3. 「ip」を入力します(英語は小文字の入力になります。)

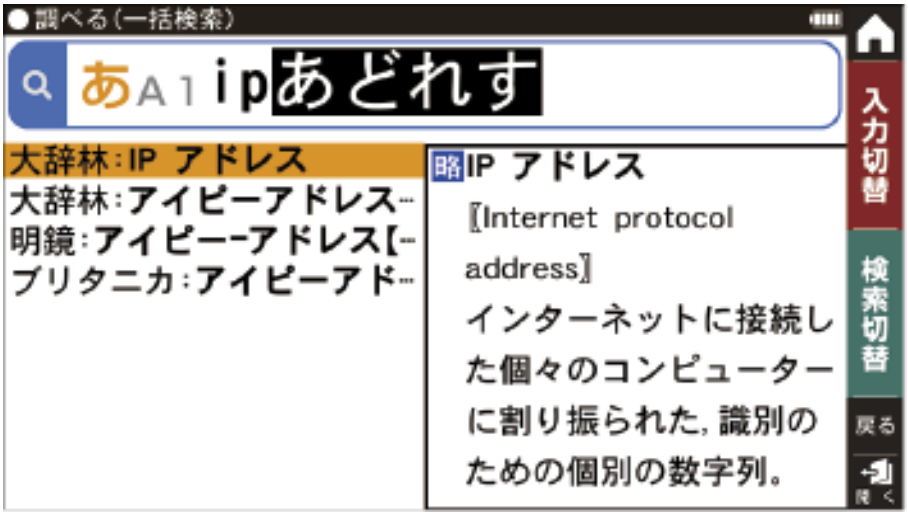


・「ip」の入力を始めると、絞り込み検索が始まります。

4. 「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「あいう」をタッチします。

・「あA1」の「あ」が強調表示され、かなや漢字が入力できるようになります。

5. 「あどれす」を入力します。



・「ipあどれす」で絞り込み検索され、検索結果が表示されます。

6. ［▼］や［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。
辞書などの詳細画面が表示され、意味などが表示されます。

二参考二

● コンテンツによっては「あいぴーあどれす」と、すべてかなで入力しても検索できます。

● 文字の入力について、詳しくは『文字入力と修正』を参照してください。

● 調べる画面を表示したときは、前回の入力文字種が選択されます。

● キーで漢字を入力するときは、かなで入力後[スペース/変換]を押してください。候補が表示されますので選択してください。詳しくは『かな漢字変換をして入力する』を参照してください。

● 各辞書コンテンツの文字入力や入力文字種の切り替えなどについては、『文字入力と修正』の『入力文字種を指定する』などを参照してください。

■検索モードの種類

調べる画面から次の検索ができます。
ただし、一括検索以外は、検索モードの選択（切り替え）が必要になります。詳しくは次の『検索モードの選択（切り替え）』をご覧ください。

一括検索

複数のコンテンツの見出し語から検索します。
単語の意味を調べたい場合などに使用します。

全文検索

入力した文字列が含まれる文章（項目）を、国語系などの複数コンテンツから検索します。
関連する情報を調べる場合などに使用します。

例文検索

入力した文字列が含まれる例文を、英語系の複数コンテンツから検索します。
指定の単語が含まれる例文を、まとめて参照する場合などに使用します。

成句検索

入力した文字列が含まれる成句（イディオム）を、英語系の複数コンテンツから検索します。
様々な成句の意味や例文を確認する場合などに使用します。

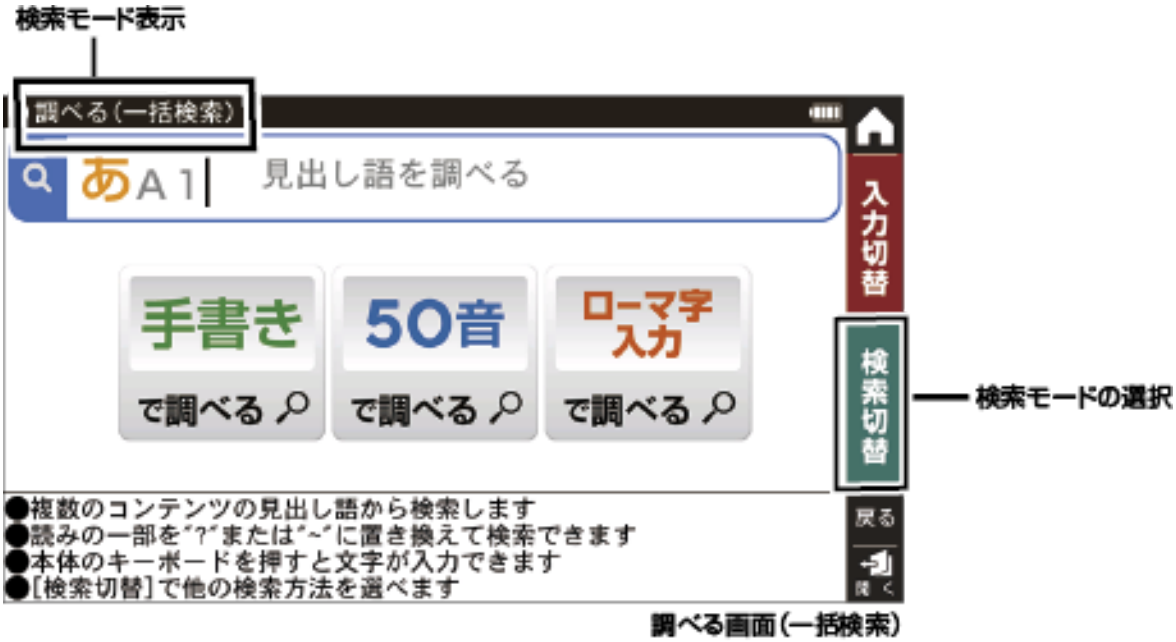
ニ参考ニ

個々のコンテンツで調べるときは、コンテンツを選択してから入力してください。コンテンツの選択は『使いたいコンテンツ（辞

書）の選びかた』を参照してください。

■検索モードの選択（切り替え）

操作タッチキーの[検索切替]にタッチして検索モードを切り替えます。



操作タッチキーの[検索切替]にタッチするたびに、「全文検索」→「例文検索」→「成句検索」→「一括検索」・・・と切り替わります。
各検索モードについてはそれぞれの説明を参照してください。

二参考二

文字を入力後[決定]を押す代わりに、画面の🔍をタッチしても検索が始まります（一括検索を除く）。

■一括検索をする

複数のコンテンツ（辞書など）の見出し語から言葉を調べることができます。

【例】「かいけい」を一括検索します。

1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
   ・入力文字種は「あA1」の「あ」が強調表示されていることを確認します。もし違うときはタッチして（または［あA1/記号］を押して）変更してください。
2. 日本語入力欄に「かいけい」を入力します。
   ・キーで「か」を入力すると、絞り込み検索が始まります。続けて「いけい」を入力してください。
3. ［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。
   辞書などの詳細画面が表示され、意味などが表示されます。

二参考二

● 漢字（例、会計）で検索するときは、上記手順2で「かいけい」を入力後、[スペース/変換]を押して漢字に変換してください。漢字で絞り込み検索が始まります。

● ピンインを除き、入力中は1字ごとに候補を絞り込む絞り込み検索で探します。

● かなのみや英語のみで検索するときに、“～”（[シフト][～]）や“？”（[シフト][？]）を使用して、ブランクワードやワイルドカードの検索ができます。詳しくは『読みやスペリングの一部を省略して検索する』を参照してください。

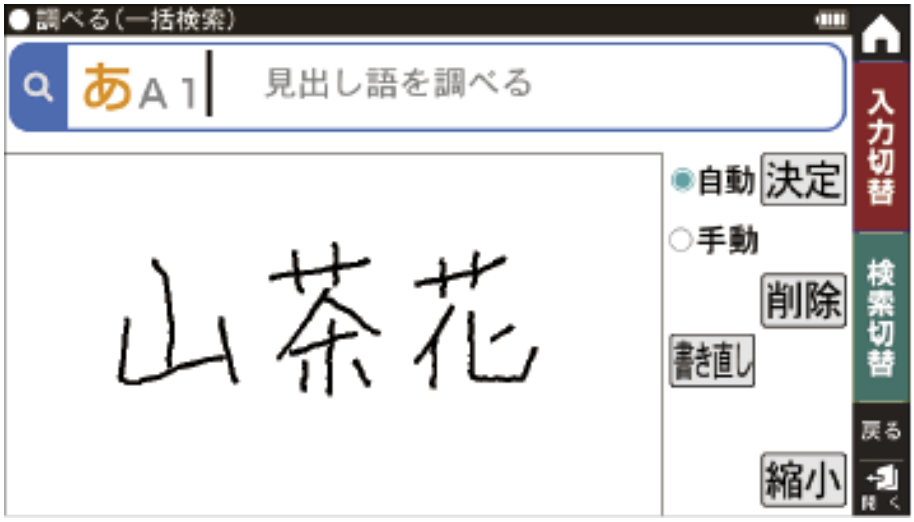
● 一括検索の対象コンテンツを変更できます。『設定』の『一括検索対象コンテンツ設定』を参照してください。

漢字を調べる

一括検索で読みのわからない漢字を調べてみましょう。

【例】「山茶花」を一括検索で調べます。

1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
    ・入力文字種は「あA1」の「あ」が強調表示されていることを確認します。もし違うときはタッチして（または［あA1/記号］を押して）変更してください。
2. 「手書きで調べる」にタッチします。手書き入力画面が表示されます。
3. 付属のタッチペンで、枠の中に「山茶花」と手書きします。
    ・書き直したいときは「書き直し」にタッチします。
    ・「縮小」にタッチすると手書きエリアが小さくなります。



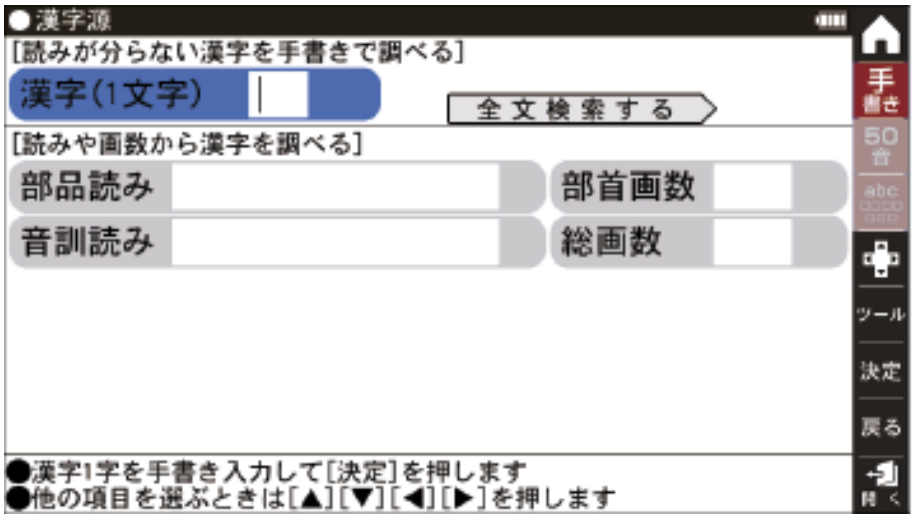
4. 自動で文字認識されて入力欄に「山茶花」と表示されます。
    ・手動認識のときは「認識」にタッチします。
    ・入力欄に違う文字が表示されたときは「削除」にタッチして削除し、再度手書きしてください。入力欄の文字にタッチすると別の候補が表示されますのでタッチして入れ替えることもできます。

5. ［決定］を押すと検索が始まります。
　・手書きエリアを小さくして（「縮小」にタッチ）入力したときは、自動で検索が始まります。

6. 見出し語の候補が表示されるので、［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。
　詳細画面が表示され、意味などが表示されます。

二参考二

● 「漢字源」で漢字1文字を調べることもできます。辞書一覧画面から「漢字源」を選び、操作タッチキーの[手書き]にタッチして、漢字を手書き入力します。なお、[国語/漢字]を2回押して「漢字源」を選ぶこともできます。

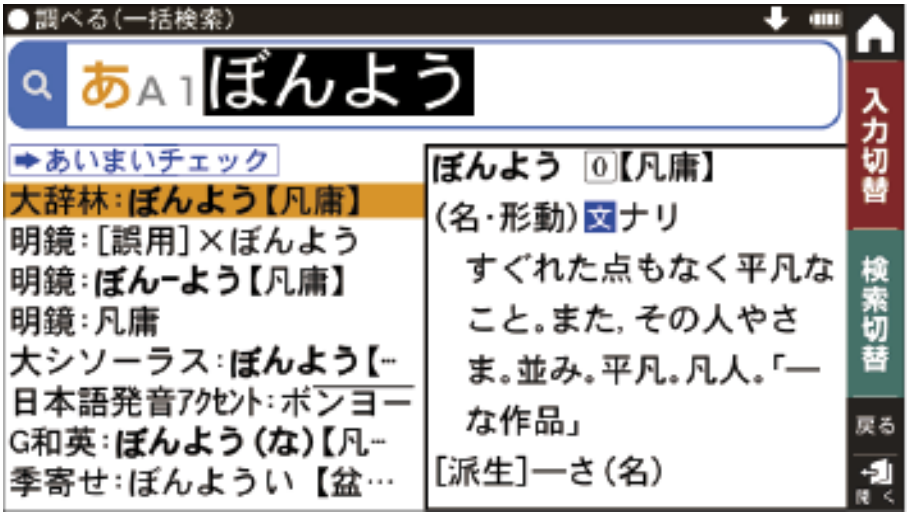


● 手書き入力については、『手書き入力画面で文字を手書き入力する』を参照してください。

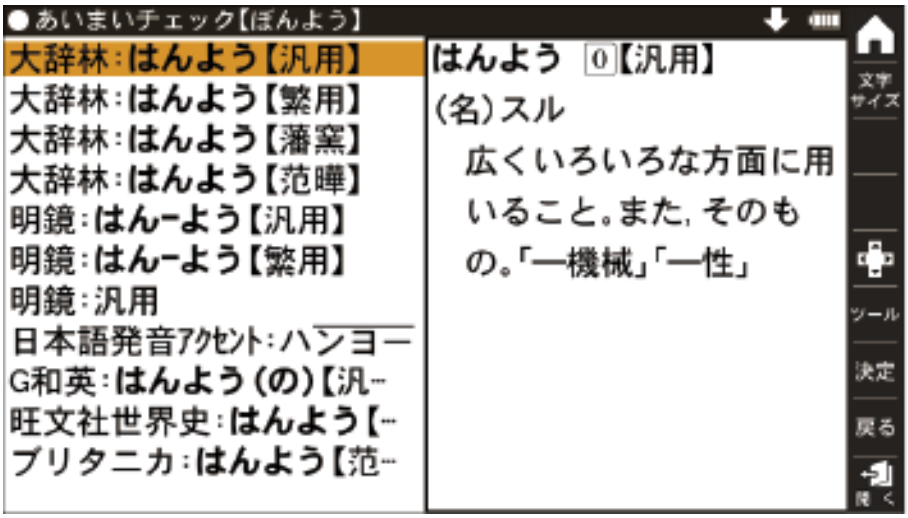
■あいまいチェックやスペルチェックを使う（一括検索）

正しい読みかたや英語のスペルがはっきりわからないときなど、うろ覚えの言葉を調べたいときに使います。
かなのみや英語のみで入力したときに使うことができます。

【例】「ぼんよう」をあいまいチェックします。
1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 入力欄に「ぼんよう」を入力します。
    ・入力文字種は「あA1」の「あ」が強調表示されていることを確認します。もし違うときはタッチして（または［あA1/記号］を押して）変更してください。
    ・英語のスペルを入力するときは、入力文字種は「あA1」の「A」が強調表示されていることを確認します。



3. 検索結果リストを確認し、目的の語がない場合は➡あいまいチェックをタッチします。
    ・英語のときは➡スペルチェックをタッチします。



4. ［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。

二参考二

スペルチェック機能のあるコンテンツでスペルチェックをすることもできます。詳しくは『便利な使いかた』の『スペルチェックをする』を参照してください。

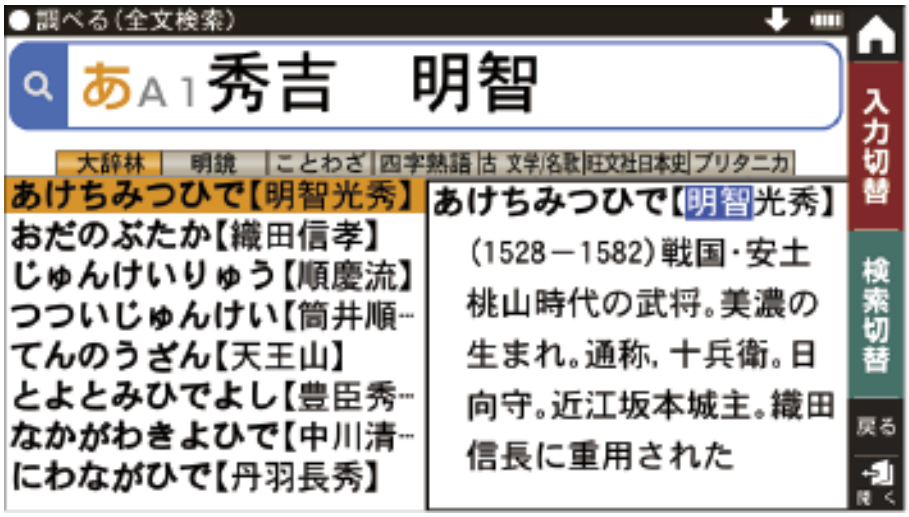
■複数の辞書で全文検索をする

入力した文字列が含まれる項目（文章）を国語系などの対象コンテンツから検索することができます。

・入力欄に最大64文字入力できます。その範囲で最大５つの文字列をスペースでつないで入力し、それらの文字列がすべて含まれる項目を検索することもできます（１つの文字列は32文字以下）。

【例】「秀吉」と「明智」が含まれる項目を全文検索で調べます。

1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 操作タッチキーの[検索切替]にタッチして、全文検索に切り替えます。
    ・ 画面左上に「調べる（全文検索）」と表示されます。
3. 入力欄に漢字で「秀吉」を入力します。
    ・「ひでよし」を入力後、[スペース/変換]を押して漢字に変換してください。または漢字を手書き入力してください。
4. [スペース/変換]を押して「秀吉」のあとにスペースを入力します。続けて「明智」を入力し［決定］を押します。



・入力した文字列（この例では「秀吉」と「明智」）すべてを含む項目がリスト表示されます。
・リスト表示上部のコンテンツ名のタブを切り替えて各コンテンツの検索結果を確認してください。タブは、タッチまたは［◀］、［▶］で切り替えます。
・タブの左右に［«］、［»］があり、濃く表示されているときは、そのボタンにタッチすると隠れているタブ（コンテンツ）が表示されます。

5. ［▼］、［▲］で表示させたい項目を選び［決定］を押すと詳細画面が表示されます。
　検索対象とした文字列が反転表示されます。

二参考二

● 漢字変換について、詳しくは『文字入力と修正』の『かな漢字変換をして入力する』を参照してください。
● 本製品は、全文検索を実現するためのデータ管理基盤として（株）日立ソリューションズの組み込みデータベースEntier（エンティア）を利用しています。
● 全文検索では、基本的に入力した文字列やなぞった文字列と一致した文字列を探しますが、外来語などの一部や大文字・小文字などの表記の違いを許容して検索する場合があります。

【例】（外来語） バイオリン ⇔ ヴァイオリン
ヒュージョン ⇔ フュージョン
ライブ ⇔ ライヴ
（英字）
A ⇔ a　B ⇔ b　C ⇔ c
（かな）
あ ⇔ ぁ　や ⇔ ゃ　つ ⇔ っ　わ ⇔ ゎ
ア ⇔ ァ　ヤ ⇔ ャ　ツ ⇔ ッ　ワ ⇔ ヮ

■英語の例文を検索する

最大３つの英語のスペリングをスペースでつないで入力し、それらのスペリングがすべて含まれる例文を、複数の英和辞典などから検索することができます。

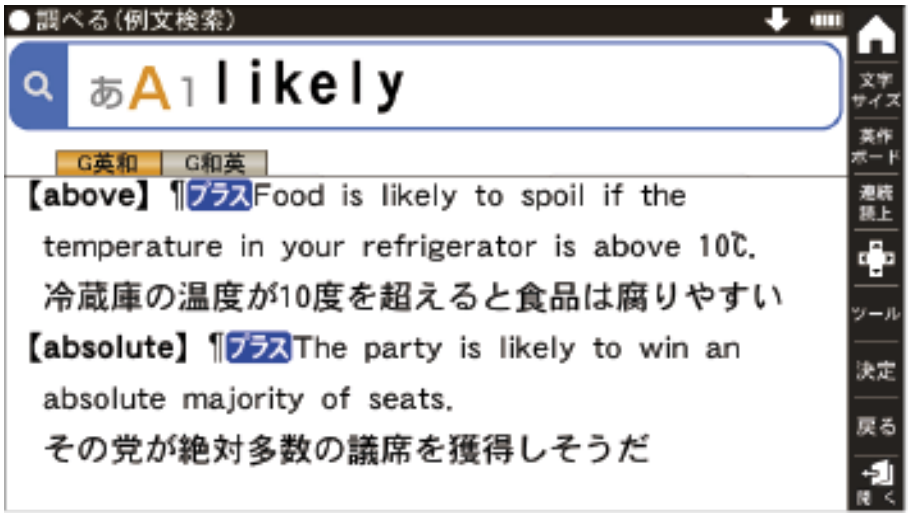
または日本語を１語入力し、その日本語が含まれる例文を和英辞典などから検索することができます。

・入力欄は最大64文字入力できます。

【例】「likely」を使った例文を調べます。

1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 操作タッチキーの[検索切替]に2回タッチして、例文検索に切り替えます。
   ・ 画面左上に「調べる（例文検索）」と表示されます。
3. 入力欄左の「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「ABC」をタッチします。「あA1」の「A」が強調表示され、英語が入力できるようになります。（日本語で検索するときはメニューから「あいう」をタッチします。）
4. 入力欄に「likely」を入力します。
5. ［決定］を押すと例文検索が開始され、「likely」を使った例文がリスト表示されます。

・英語のスペリングで検索したときは、リスト表示上部のタブで例文が検出されたコンテンツが示されます。

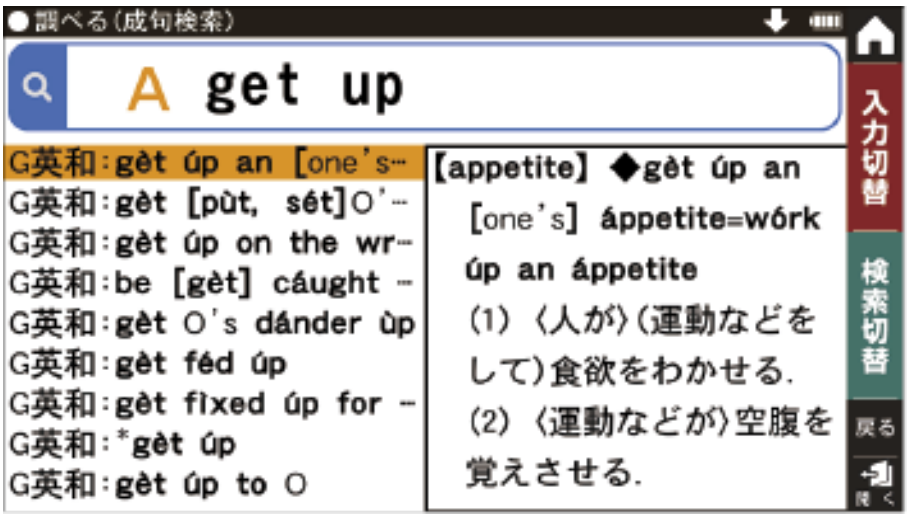


・タブを切り替えて各コンテンツの例文を確認してください。タブは、タッチまたは［◀］、［▶］で切り替えます。
・複数の語で検索するときは、１つの語を入力後、スペースでつないで（[スペース/変換]を押して）別の語を入力し[決定]を押してください。

■英語の成句を検索する

最大３つの英語のスペリングをスペースでつないで入力し、それらのスペリングがすべて含まれる成句を、複数の英和辞典などから検索することができます。
・入力欄は最大64文字入力できます。

【例】「get up」を成句検索で調べます。
1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 操作タッチキーの[検索切替]に3回タッチして、成句検索に切り替えます。
・ 画面左上に「調べる（成句検索）」と表示されます。
3. 入力欄に「get up」を入力します。
[スペース/変換]を押して「get」のあとにスペースを入れ、「up」を入力し［決定］を押します。



文字入力と修正

■入力文字種を指定する

調べる画面での指定

入力欄左の「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）入力文字種を指定します。

詳しくは『調べる画面から検索する』の『基本操作』を参照してください。

辞書コンテンツでの指定

複数の文字種が入力できるコンテンツでは、入力欄左の文字種表示にタッチして（または［あA1/記号］を押して）文字種を切り替えて指定します。指定された文字種は強調表示になります。

「あ」：日本語（かな、漢字）を入力します。
「A」：英語（小文字）を入力します。
「1」：数字（アラビア数字）を入力します。

二参考二

● 一部のコンテンツでは複数の文字種入力に対応していないものがあります。
● 各辞書コンテンツでは、入力できる文字種のみ表示されます。たとえば、日本語と英語が入力できる場合は「あA」と表示されます。

■キーによる文字の入力と修正のしかた

日本語の入力方法

キーによる日本語の入力方式は、“ローマ字かな入力”です。

【例1】調べる画面の入力欄に「じゅんぷう」と入力しましょう。
1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 入力欄左の「あA1」の「あ」が強調表示されていることを確認します。
　・「あ」が強調表示されていないときは、「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「あいう」をタッチします。
3. ［J］［U］［N］（［N］）［P］［U］［U］とキーを押します。
　・入れ間違えたときは[削除]で消して入れ直してください。
　・漢字を入力するときは、かなを入力後に[スペース/変換]を押します。詳しくは『かな漢字変換をして入力する』を参照してください。

【例2】大辞林の入力欄に「uたーん」と入力しましょう。
1. 辞書一覧画面から「大辞林4.0」を選びます。

入力欄にカーソルが表示されます。

2. 入力欄左の「あA1」にタッチして（または［あA1/記号］を押して）入力文字種を英語に切り替えます（「A」が強調表示されていることを確認します)。

［U］キーを押して、英語の"u"を入力します。

3. 入力欄左の「あA1」にタッチして（または［あA1/記号］を押して）入力文字種を日本語に切り替えます（「あ」が強調表示されていることを確認します)。

［T］［A］［－］［N］［N］とキーを押して、日本語の"たーん"を入力します。

ローマ字かな入力方式での入力

ローマ字のつづりでひらがなを入力する方法は、『ローマ字→かな変換表』を参照してください。

記号の入力

Σ（シグマ）などは、読みを入力してください。

スペースやアポストロフィ（’）、ハイフン(-)の入力

スペースやアポストロフィ（’）、ハイフン（-）、中点（・）などは入力できません。探したい語にこれらの文字がある場合は、省いて入力してください。

ひらがな、カタカナを切り替えての入力

キーで入力する場合、コンテンツによってひらがなが入力されるかカタカナが入力されるか決まっていて、切り替えることはできません。

手書き入力では、ひらがな、カタカナの両方を入れることができます。
ただし、検索はひらがな、カタカナを区別せずに行いますので、どちらを入れて検索しても同じ言葉が探し出されます。

二参考二

● 日本語入力時に長音符（ー）を入力するときは[ー]を押します。
● [スペース/変換]は、かな漢字変換のときや、全文検索で文字列の区切りとしてスペースを入力するときに使用します。
● 各コンテンツの入力画面では、入力可能な文字種が表示されます。たとえば、「あA」の表示のときは、かな、漢字および英語が入力できます。

英語の入力方法

【例】調べる画面の入力欄に「clean」と入力しましょう。
1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。
2. 入力欄左の「あA1」の「A」が強調表示されていることを確認します。
    ・「A」が強調表示されていないときは、「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「ABC」をタッチします。
3. ［C］［L］［E］［A］［N］とキーを押します。
    ・入れ間違えたときは[削除]で消して入れ直してください。

英語入力時の注意

1. 見出し語にスペース、ハイフン（-）、アポストロフィ（’）、スラッシュ（/）、ピリオド（.）などがある場合、これらは省いて入力し、検索します。

（例）

fast food → fastfood

weak-kneed → weakkneed

let's → lets

2. キー入力では大文字と小文字は切り替えられません。検索は大文字と小文字を区別せずに行われます。

3. 「＆」は「and」と入力します。

二参考二

● [スペース/変換]は、例文検索や成句検索で文字列の区切りとしてスペースを入力するときに使用します。

● 各コンテンツの入力画面では、入力可能な文字種が表示されます。たとえば、「A1」の表示のときは、英語および数字が入力できます。

● 「英作ボード スピーキングプラス」での英語入力については、『英作ボード スピーキングプラスを使う』を参照してください。

数字の入力方法

【例】調べる画面の入力欄に「24」と入力しましょう。

1. ホーム画面で「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されます。

2. 入力欄左の「あA1」の「1」が強調表示されていることを確認します。

・「1」が強調表示されていないときは、「あA1」をタッチして（または［あA1/記号］を押して）、メニューから「123」をタッチします。

3. ［W](2) ［R](4)とキーを押します。
・入れ間違えたときは[削除]で消して入れ直してください。

二参考二

英語のスペリング入力（例、twentyfour)で数字を検索できる場合があります。

ブランクワード／ワイルドカードの入力方法（～／？）

入力欄で［シフト］［～］または［シフト］［？］を押すと、ブランクワード（～）またはワイルドカード（？）を入力できます。
ブランクワード（～）／ワイルドカード（？）については、『読みやスペリングの一部を省略して検索する』を参照してください。

文字種を組み合わせた語の入力方法

入力中に文字種を切り替えて入力します。
詳しくは『調べる画面から検索する』の『基本操作』－『操作の流れ』を参照してください。

二参考二

コンテンツによっては、文字種を組み合わせた入力の検索結果が表示されない場合があります。その場合はひとつの文字種で検索してください。

ピンイン（中国語発音表記）の入力方法

ピンイン(pinyin）は中国語の発音をローマ字表記する方法です。ローマ字はアルファベットで表しますが、母音に四声を表すマークが付く場合は下記の方法で指定します（四声の指定をしなくても検索することはできます）。

【例】「zǎofàn」(早饭)と入れてみましょう。
カーソルをピンインの入力欄に移し「zǎofàn」と入れます。

［Z］［A］［A］［A］［A］［O］［F］［A］［A］
［A］［A］［A］［N］

二参考二

ピンインの入力欄があるコンテンツにてピンイン入力が可能です。ピンイン入力が可能なコンテンツは、弊社電子辞書専用販売サイト「ブレーンライブラリー」からダウンロードしてご購入できます。

ピンインの入力について

ピンインで使用する、通常のアルファベット以外の文字の入力および四声の指定のしかたを説明します。

四声の指定

中国語の声調は、軽声、1 声、2 声、3 声、4 声があり、母音(a､o､e､i､u､ü)に声調記号（ˉ ˊ ˇ ˋ）を付けて表します。
なお、1 声～ 4 声をまとめて四声と呼びます。
四声の指定（入力）は次の操作で行います。
例えば［A］を1回押すと“a”が表示されます。続けて［A］を押していくと次の順で表示が変わります。

a→ā→á→ǎ→à→a
入力したい文字を表示させて、次の文字を入れるか、［▶］を押すと入力文字が確定されます。
同じ種類の文字が続くときは、前の文字を入れ［▶］で確定させてから次の文字を入れます。
dá'àn→[D][A][A][A][▶][A][A][A][A][A][N]
　('などの記号は省略して入れます。)
＊声調記号（¯ ´ ˇ ˋ）は、母音の上に付きます。
üの入力： üは[Ｖ]を押すと入力されます。

中国語や日本語の漢字、韓国語の入力

中国語の漢字（簡体字）は手書き入力します。韓国語（ハングル）は手書き入力とソフトキーボードで入力します。日本語の漢字は手書き入力と、キーなどで入力した仮名からの漢字変換で入力します。『手書き入力画面で文字を手書き入力する』をお読みのうえ、手書き入力をしてください。

入力した文字の修正のしかた

余分な文字を削除する

1. ［◀］、［▶］で削除したい文字の左に“｜”カーソルを移します。



2. [削除]を押します。“｜”カーソルの右の文字が削除されます。



・“｜”カーソルが末尾にあるときに[削除]を押すと直前の文字が削除されます。

入力した文字をすべて削除する

［シフト］［クリア］と押すと入力した文字がすべて削除されます。

文字を追加する

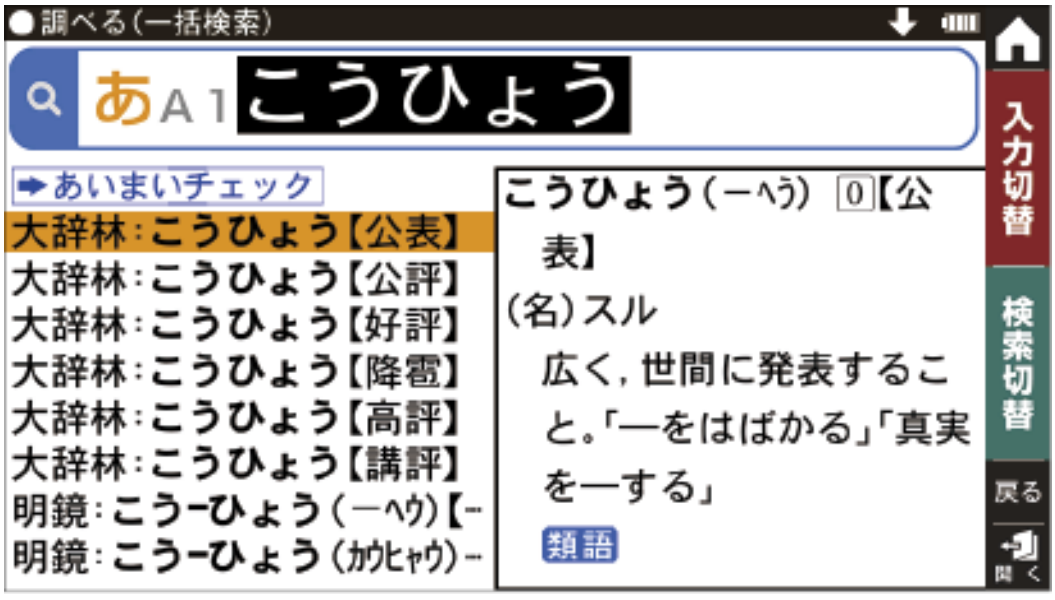
［◀］、［▶］で文字を追加したい位置に“｜”カーソルを移し、文字を入力します。

■かな漢字変換をして入力する

キーボードから日本語のかな（仮名）を入力し、［スペース/変換］を押すと、可能な範囲で漢字に変換されます。

【例】調べる画面で「こうひょう」を「好評」に漢字変換して検索します。

1. キーボードから「こうひょう」を入力します。
   「こうひょう」で絞り込み検索され、検索結果がリスト表示されます。



2. 「こうひょう」が反転表示している状態で、［スペース/変換］を押すと、漢字の候補がリスト表示されます。
3. 候補の中から「好評」にタッチします。
4. 「好評」が入力欄に入力されて、「好評」で絞り込み検索されます。

漢字を入力して検索すると、検索結果リスト表示から目的の語を探しやすくなります。

二参考二

● 手順３で、［▼］（または［スペース/変換］）、［▲］（または[シフト]［スペース/変換］）を押して、選択表示を移動させ［決定］を押して選択することもできます。
● 漢字は手書き入力で直接入力することもできます。手書き入力については『手書き入力画面で文字を手書き入力する』を参照してください。
● かな漢字変換は、キーボードやソフトキーボード(50音やabc)で入力するときに使用できます。手書き入力（手書き）のときは使用できませんので、漢字を手書きで入力してください。
● 日本語のかな（仮名）が入力できるコンテンツ（国語系コンテンツなど）も、同じように漢字変換が可能です。
● 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）をもとに、漢字変換時の候補を使用頻度の高い順に並べています。

■手書き入力画面で文字を手書き入力する

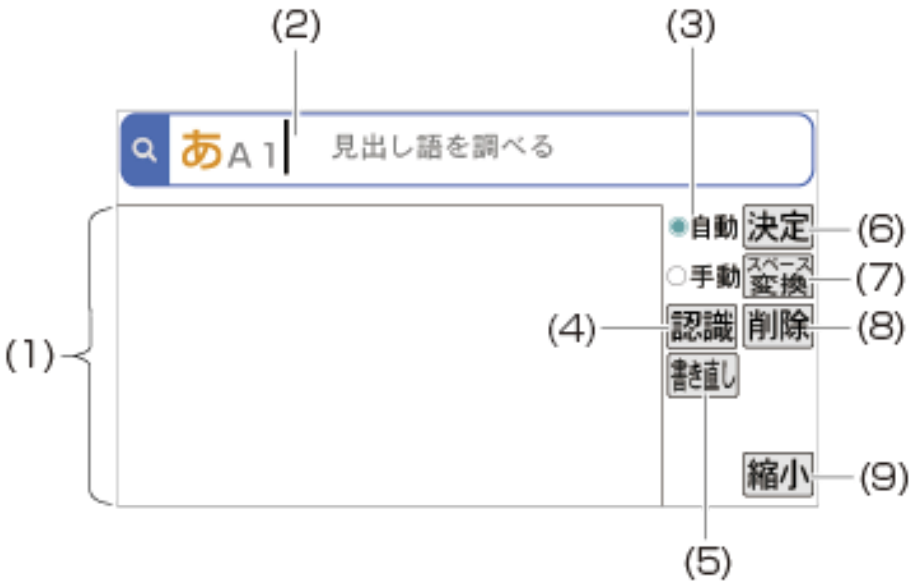
調べる画面（ホーム画面－「言葉を調べる」にタッチして表示）や各コンテンツの入力画面などで、手書き入力画面を表示して、文字などを手書き入力することができます。(ピンインは除く)

★注意★

文字を書くときは、強く押さえないで軽く書いてください。
画面の表面やペン先にゴミが付着している状態で強く押さえると、タッチパネルに傷がついたり、破損の原因になります。

手書き入力画面の各部のはたらき

調べる画面で「手書きで調べる」にタッチ、または操作タッチキーの[入力切替]から、手書き入力画面を表示します。



(1)手書きエリア：
　タッチペンで文字を手書きします。
(2)入力欄：
　手書きした文字が認識されると、ここに入力されます。入力欄の文字にタッチすると別の候補が表示されますのでタッチして入れ替えることもできます。
(3)［自動］／［手動］（認識方法切替）：
　手書きした文字の認識方法を示します。ラジオボタン（○）にタッチすると認識方法が切り替わります。

◉自動
○手動 ：
自動認識に設定されています。（初期設定）
○自動
◉手動 ：
手動認識に設定されています。

(4)［認識］：
手書きした文字を認識させたいときにタッチします。
（手動認識のときに表示されます。）

(5)［書き直し］：
手書きの軌跡を消します。

(6)［決定］：
入力欄内容に従って検索結果がリスト表示されます。

(7)［スペース/変換］：
入力欄にスペースを挿入します。全文検索などで表示されます。

(8)［削除］：
入力欄に入力した文字を１字削除します。

(9)［縮小］：
手書きエリアを小さくします。絞り込み検索表示エリアが表示されます。手書きエリアを元の大きさに戻すときは[拡大]をタッチします。
絞り込み検索表示エリアには、入力欄内容に従って、自動的に絞り込み検索結果が表示されます（一括検索などの絞り込み検索のとき）。［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］をタッチします。

手書き入力のご注意

＊ 自動認識の場合、手書きエリアで文字を書いてペンを離すと、約2秒後に認識が行われます。文字は途中で止めないで速やかに書いてください。ただし、英字や漢字など、文字によって認識が行われる時間は異なります。
＊ 印刷している文字などを確認しながら書く場合は［手動］にタッチして手動認識にし、文字を書き終えてから［認識］をタッチして認識させてください。
＊ 漢字や仮名は楷書で1字ずつ、はねのある字は最後のはねまで丁寧に書いてください。行書など続け字は認識されない場合があります。
＊ 文字は手書きエリア（枠）内からはみ出さない範囲で、大きく書いてください。ただし、仮名の小さい文字は、小さく書いてください。
＊ なるべく正しい筆順で書いてください。
＊ 文字の1画（線）が途切れないように書いてください。
＊ 文字が傾きすぎないように書いてください。
＊ はねやかざりをつけすぎないように書いてください。
＊ 英字はブロック体で書き、線の端に飾りなどを付けないでください。
＊ 英字は1字ずつ離して書いてください。続けて書くと正しく認識されません。また、前の文字に戻って線や点を追加することはできません。
＊ 1行で書いてください。2行で書くことはできません。

二参考二

手書き入力で認識する文字について

＊ 日本語はJIS X 0213-2004に基づくJIS第1水準～第4水準、およびJIS X 0212-1990に基づく補助漢字を認識しま

す。JIS X0213の改定前の漢字と改定後の漢字の字形が異なる場合、どちらで書いても改定後の漢字と認識します（例：“祇”と書いても“祇”と認識します）。
ただし、コンテンツによってはJIS第3・第4水準に対応していないため、検索できない場合があります。
＊ 中国語は簡体字GB2312に準拠の漢字を認識します。ピンインを手書きで入力することはできません。
＊ ハングル（韓国語）はKSC5601に準拠の字を認識します。“○”（ieung）が認識されにくい場合は、○の部分を左回りで書いてください。

手書き認識について

手書き入力の際には、次のような点に気をつけていただくと認識されやすくなります。

●続け字にならないように（画数がはっきりとわかるように）書きます。



良い例　悪い例

●崩さず、ていねいに書きます。



良い例　悪い例

●あまり傾かないように書きます。



良い例　悪い例

●“C”と“c”など大文字と小文字が同じような文字は、区別がつきやすいように、小文字を小さく書きます。



小文字　　大文字

●“っ”などの小さい文字も小さく書きます。



小さい「っ」　　大きい「つ」

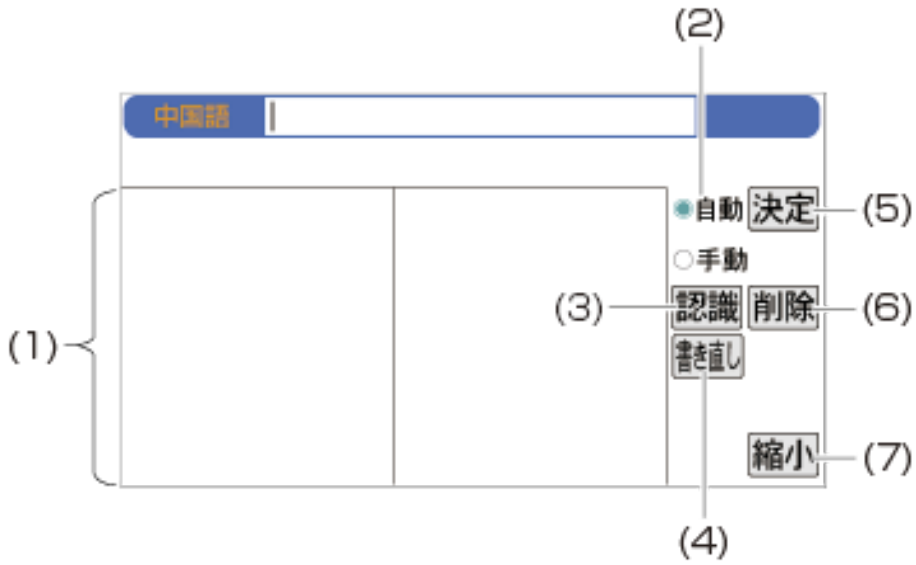
二参考二

● 手書きした仮名を漢字に変換する機能はありません。キーボード入力した仮名文字は漢字に変換することができます。

● 次の場合はタッチパッドの位置調整をしてみてください。
（ホーム画面の「設定」から「タッチパッド調整」を選んで、調整してください。）

- 手書きしている文字とペンの位置がずれている。
- 候補の文字にタッチしても、ずれた位置で選択される。
- ボタンが、タッチした位置とずれた位置で働く。

● 中国語または韓国語コンテンツの入力画面で操作タッチキーの[手書き]をタッチすると、簡体字またはハングルの2枠入力パッド(縦表示のときは1枠入力パッド)が表示され文字を手書き入力することができます。



(1)手書きエリア：
　タッチペンで文字を手書きします。
(2)［自動］／［手動］（認識方法切替）：
　手書きした文字の認識方法を示します。ラジオボタン（○）にタッチすると認識方法が切り替わります。
　◉自動
　○手動　：
　　自動認識に設定されています。（初期設定）
　○自動
　◉手動　：
　　手動認識に設定されています。
(3)［認識］：
　手書きした文字を認識させたいときにタッチします。
　（手動認識のときに表示されます。）
(4)［書き直し］：
　手書きの軌跡を消します。
(5)［決定］：
　手書き入力画面表示が閉じて、入力欄内容に従って検索結果がリスト表示されます。

(6)［削除］：

入力欄に入力した文字を１字削除します。

(7)［縮小］：

手書きエリアの枠サイズを小さくします。枠数が2から3になります（縦表示のときは1から2になります）。絞り込み検索表示エリアが表示されます。元の大きさに戻すときは[拡大]をタッチします。

絞り込み検索表示エリアには、入力欄内容に従って、自動的に絞り込み検索結果が表示されます。［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］をタッチします。

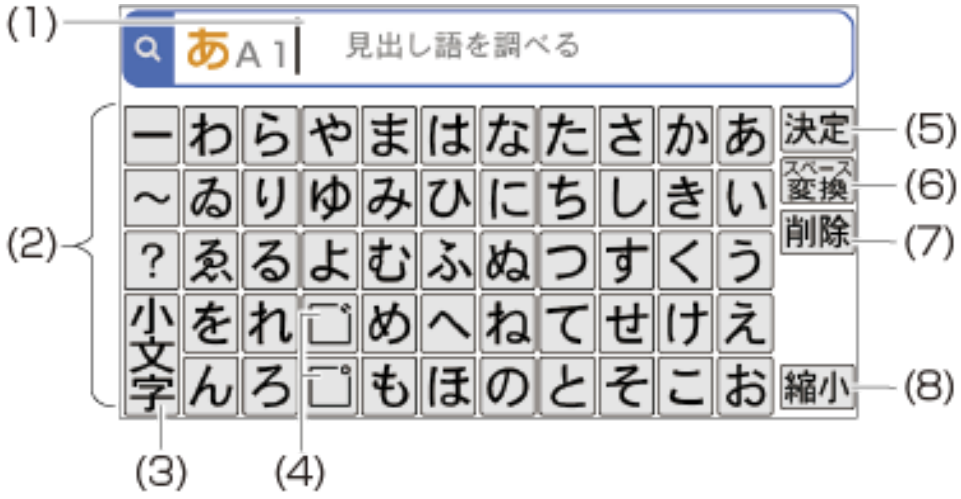
■ソフトキーボードで文字を入力する

50音かな入力をする

調べる画面で「50音で調べる」にタッチします。または操作タッチキーの[入力切替]にタッチして切り替えます。

各コンテンツの文字入力画面では操作タッチキーの[50音]をタッチします。

50音かな入力は、日本語入力時のみ使用できます。



(1) 入力欄：

タッチした内容はここに入力されます。

(2) 50音入力パッド：

入力したいキーをタッチします。

(3) ［小文字］：

かなの小さい文字を入れるとき、［や］、［ゆ］、［よ］など、対応する大きい文字を入れた直後にタッチします。

(4) ［◌゙］、［◌゚］：

“だ”、“ぱ”など濁音、半濁音を入れるとき、［た］、［は］などの清音を入れた直後に［◌゙］、［◌゚］をタッチします。

(5) ［決定］：

入力欄内容に従って検索結果がリスト表示されます。

(6) ［スペース/変換］：

可能な範囲でかなを漢字に変換します。全文検索でスペースを入力するときは、入力文字確定後（［▶］または漢字変換確定後）に、［スペース/変換］をタッチしてください。

(7) ［削除］：

入力欄に入力した文字を削除するときに使用します。

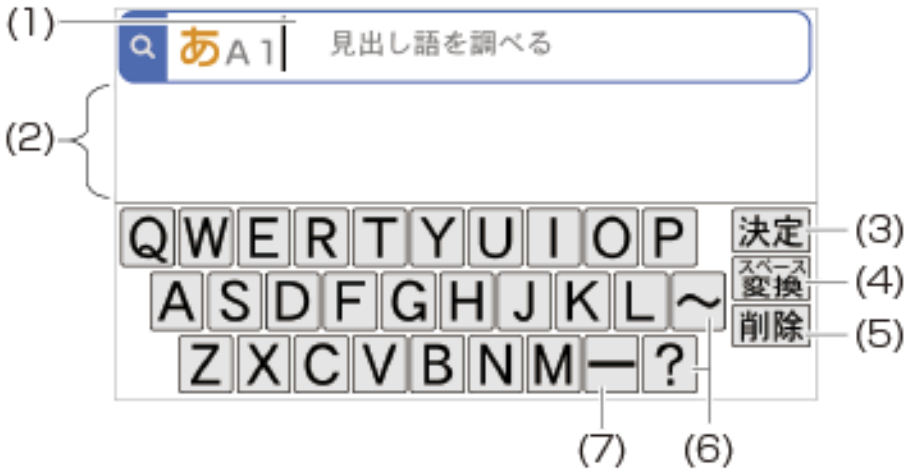
(8)［縮小］：

50音入力パッドを小さく表示します。絞り込み検索表示エリアが表示されます。50音入力パッドを元の大きさに戻すときは[拡大]をタッチします。

絞り込み検索表示エリアには、入力欄内容に従って、自動的に絞り込み検索結果が表示されます（一括検索などの絞り込み検索のとき）。［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］をタッチします。

QWERTY配列のソフトキーボードで入力する

調べる画面で「ローマ字入力で調べる」または「ソフトキーボードで調べる」にタッチします。または操作タッチキーの[入力切替]にタッチして切り替えます。
各コンテンツの文字入力画面では操作タッチキーの[abc]をタッチします。
ローマ字かな入力(日本語）や英語を入力するときに使います。



(1) 入力欄：
　ソフトキーボードをタッチした内容はここに入力されます。
(2)絞り込み検索表示エリア：
　入力欄内容に従って絞り込み検索結果が表示されます（一括検索などの絞り込み検索のとき）。［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］をタッチします。
(3) ［決定］：
　入力欄内容に従って検索結果がリスト表示されます。一括検索などで絞り込み検索結果が表示されているときは選択している語の詳細画面が表示されます。
(4) ［スペース/変換］：
　・ローマ字かな入力（日本語入力）のときは、可能な範囲でかなを漢字に変換します。全文検索でスペースを入力すると

きは、入力文字確定後（［▶］または漢字変換確定後）に、［スペース/変換］をタッチしてください。
・英語入力のときは、スペースを入力します。

(5) ［削除］：
入力欄に入力した文字を削除するときに使用します。

(6) ［～］、［？］：
ブランクワード、ワイルドカード検索するときに使用します。

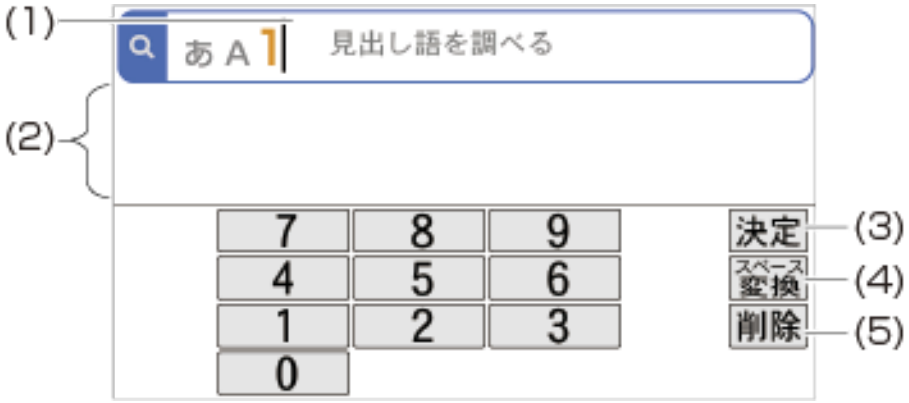
(7) ［ー］：
日本語入力時に長音符（ー）を入力します。

二参考二

中国語または韓国語コンテンツの入力画面で操作タッチキーの[abc]が使用できるときは、ピンインまたはハングル入力のソフトキーボードが表示され文字を入力することができます。

数字をソフトキーボードで入力する

調べる画面で数字を入力するときに「ソフトキーボードで調べる」をタッチします。各コンテンツの数字入力画面では操作タッチキーの[123]をタッチします。
数字（アラビア数字）を入力するときに使います。



(1) 入力欄：
　ソフトキーボードをタッチした内容はここに入力されます。
(2)絞り込み検索表示エリア：
　入力欄内容に従って絞り込み検索結果が表示されます（一括検索などの絞り込み検索のとき）。［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］をタッチします。
(3) ［決定］：
　入力欄内容に従って検索結果がリスト表示されます。一括検索などで絞り込み検索結果が表示されているときは選択している語の詳細画面が表示されます。
(4) ［スペース/変換］：
　スペースを入力します。
(5) ［削除］：
　入力欄に入力した文字を削除するときに使用します。

辞書コンテンツを引く

辞書コンテンツの引きかたは、大きく分けると 2 種類になります。

文字を入力して調べる

・ 見出し語や、その読み、スペリングなど、文字を入力して言葉を調べます。

多くの辞書コンテンツでは、文字を入力していくと、その文字が先頭に含まれる見出し語を検索してリスト（一覧）表示します。リストから目的の語を選んで、説明内容などを見ます。

・ 大辞林の逆引きや“？”“～”を用いた検索、複数の検索語を入力して行う検索などでは文字を入力した後［決定］を押して検索を行います。

リストの項目を選んで調べる

リストから項目を選んでいって目的の言葉などを調べます。

二参考二

テスト機能のあるコンテンツなどの場合は操作が異なりますので、それぞれのコンテンツを参照してください。

■文字を入力して調べる

【例1】大辞林で「あらわす」を調べる

1. 辞書一覧画面から「大辞林4.0」を選びます。
   入力欄にカーソルが表示されます。入力欄左で「あ」が強調表示なっていることを確認します。
2. 入力欄に「あらわす」とキーを押して入力します。
   入力した文字を先頭に持つ語が候補としてリスト表示されます（1字入力ごとに候補が絞りこまれます）。
   ・キーからの入力は『文字入力と修正』を参照してください。
   ・ 漢字は手書き入力で直接入力したり、キーなどで入力した仮名からの漢字変換で入力します。
3. ［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。
   詳細画面が表示され、意味などが表示されます。
   ・ 画面右上に“⬇”や“⬆”が表示されているときは、そこにタッチするか、または［≫］［≪］や［▼］［▲］で画面を送って隠れている内容を確認します。
   ・ ［戻る］を押すと前の画面に戻ります。

【例2】大辞林の逆引きで後ろに「ブルー」が付く語を調べる

1. 辞書一覧画面から「大辞林4.0」を選びます。
2. ［▼］で逆引き入力欄を選び、「ぶるー」とキーを押して入力します。
   （逆引き入力欄はタッチして選ぶこともできます。）
3. ［決定］を押します。「ブルー」を後ろに持つ語が候補としてリスト表示されます。
4. ［▼］、［▲］で目的の語を選び［決定］を押します。
   または目的の語にタッチします。
   詳細画面が表示され、意味などが表示されます。

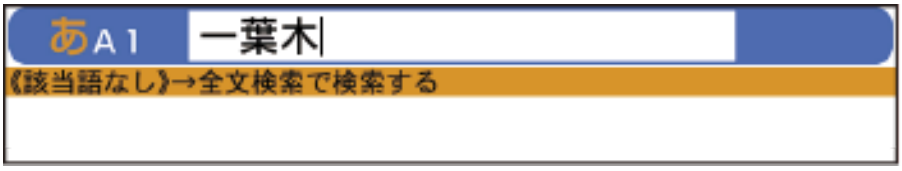
新しい言葉を引くときは

［シフト］［クリア］を押すと入力画面に戻りますので、新しい言葉を入力します。
また、詳細画面で、キーを操作し新しい言葉を入れて入力画面に戻る方法もあります。

文字を入力中に候補がなくなると

文字を入れていくと候補が絞り込まれていく検索では、該当する候補がなくなると次のような画面を表示します。

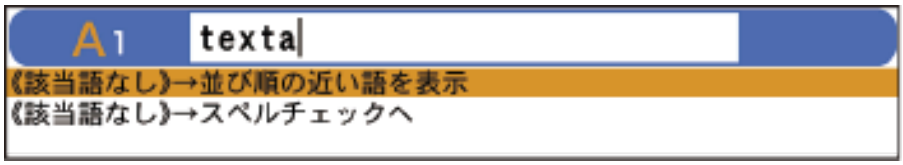
例(1)日本語の漢字入力時



例(2)仮名入力時



例(3)英語入力時



例(4)一括検索での仮名入力時



二参考二

● ［戻る］を押したときは、入力画面に戻ります。
● (2)、(3)の例で、［決定］を押すと、50音順またはアルファベット順で、入力した仮名（読み）またはスペルよりも後の語がリスト表示されます。
● (1)、(2)の例で、「《該当語なし》→全文検索で検索する」にタッチすると全文検索の画面が表示されます。
● (3)の例で、「《該当語なし》→スペルチェックへ」にタッチするとスペルチェックが実行されます。
● (4)の例で、「《該当語なし》➡あいまいチェック」にタッチするとあいまいチェック画面が表示されます。

検索の種類

検索には次の種類があり、コンテンツによって使い分けられています。

絞り込み検索：
　文字を1文字入力ごとに候補が絞り込まれていきます。

頭出し検索：
　入れた文字が先頭に含まれる語を探し、その語から始まる収録順リストを表示します。該当する語がないときは、並び順

で次の語から始まるリストを表示します。

キーワード検索：

入れた文字（単語）が含まれる語句を探します。

成句検索などで用いられます。

全文検索：

キーワード検索と同様、入れた文字列（単語など）やなぞった文字列が含まれる文、項目を探します。

キーワード検索は、見出し語などを探しますが、全文検索は、入力した文字列やなぞった文字列をコンテンツの文章の中から探します。したがって、入力した文字列が文章の中に含まれていれば、その項目が候補として表示されます。

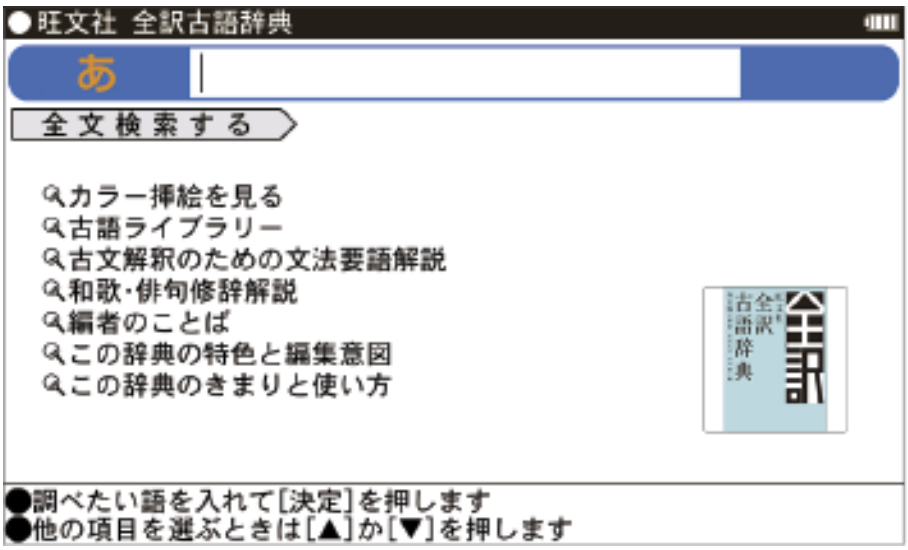
二参考二

検索する語によっては検索に時間がかかることがあります。

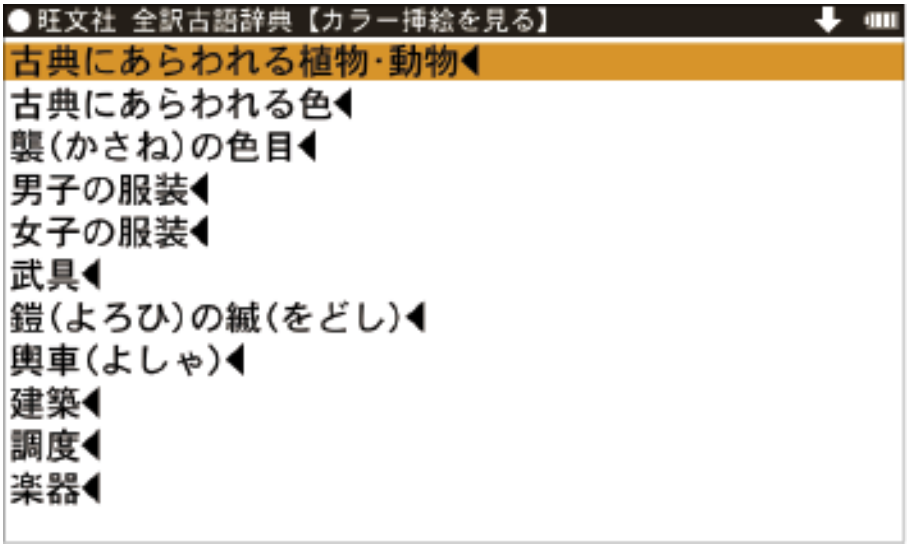
■リストの項目を選んで調べる

【例】旺文社 全訳古語辞典で調べる

1. ホーム画面の「一覧から選ぶ」にタッチして、辞書一覧から「旺文社 全訳古語辞典」を表示します。

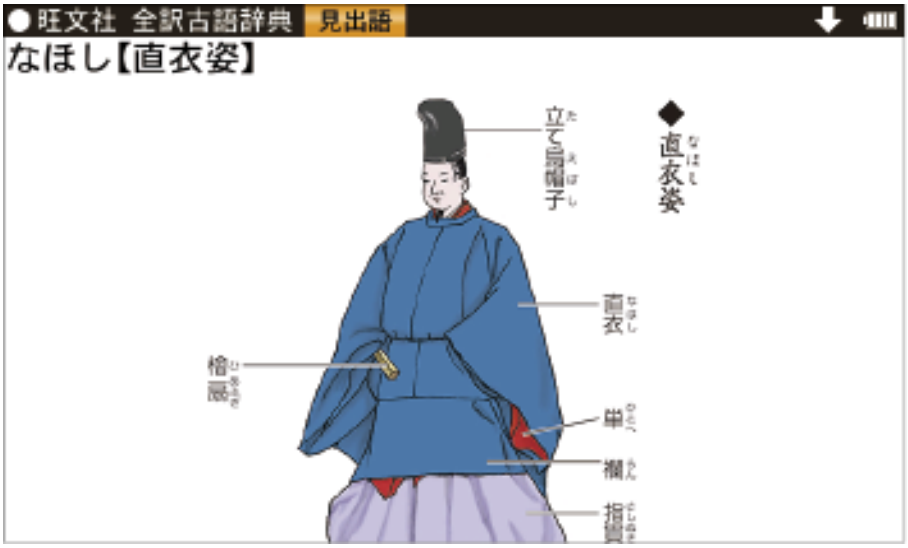


2. ［▼］、［▲］で項目（例えば「カラー挿絵を見る」）を選び［決定］を押します。
または選びたい項目にタッチします。リストが表示されます。



・ 後ろに◀がある項目を選ぶと、その項目に含まれるリストが表示されます。

3. 手順2と同様にリストの項目を選んでいき目的の言葉(ここでは「男子の服装」から「直衣姿」）を表示させます。



■タッチ操作で辞書を引く

画面のタッチ操作で辞書を引く場合の基本的な流れを示します。
【例】ジーニアス和英辞典で調べる

1. ホーム画面の「一覧から選ぶ」をタッチし、分類メニューの「英語」をタッチして選びます。
2. 個別メニューの「ジーニアス和英辞典」をタッチして選びます。
3. 入力欄に検索する文字を入力します。候補がリスト表示されます。
4. 表示させたい候補の語にタッチします。詳細画面に説明などが表示されます。

項目の選択と画面送り

■リスト画面などでの項目の選択と画面送り

大辞林などの辞書の最初の画面で何も入力せずに［決定］を押すと、リスト（一覧表示）画面が表示されます。

各項目（各語）を選択する方法

［▼］、［▲］でカーソルを目的の項目へ移動させて［決定］を押します。または目的の項目にタッチします。

画面を送って別の内容を見る方法

画面右上に“⬇”や“⬆”が表示されたときは画面外に隠れている内容があります。

1. ［▼］、［▲］でカーソルを１行ずつ移動させていくと、最下（上）行以降は画面が１行分ずつ送られます。
2. ［≫］、［≪］で１画面ずつ送られます。

二参考二

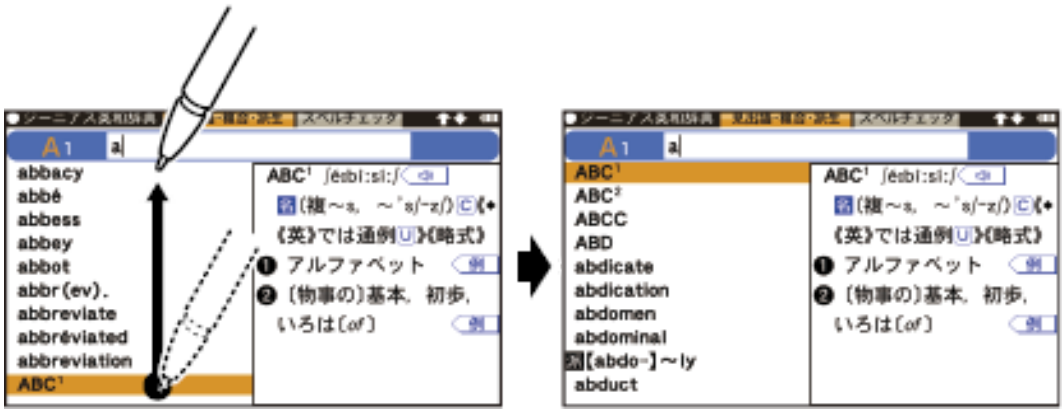
“⬇”や“⬆”にタッチして画面を送ることもできます。

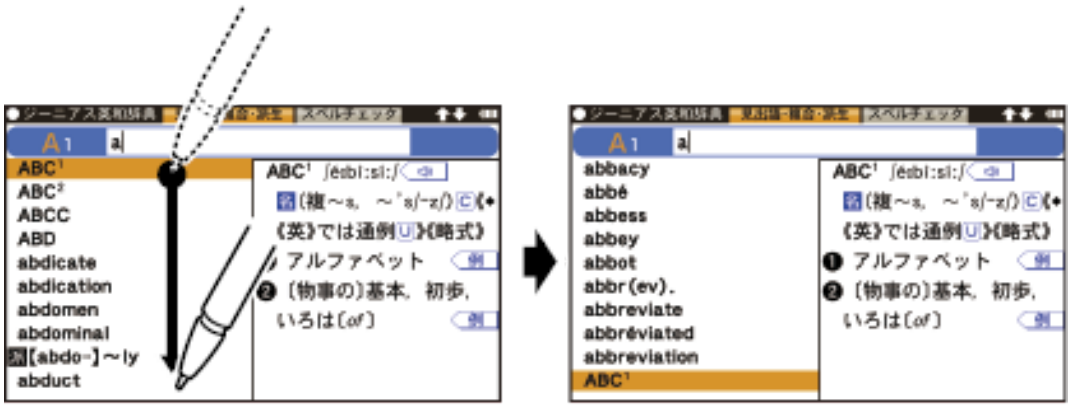
■ドラッグによるスクロール

右上に“⬇”や“⬆”が表示されている画面ではペンのドラッグによって、画面をスクロールすることができます。

リスト画面では、ペンを画面の見出し語がある行に置いて、そのまま上にドラッグすると、画面が上へスクロールします。

その逆に下にドラッグすると、画面は下へスクロールします。





詳細画面でのドラッグによる画面送り

画面右上に“⬇”や“⬆”が表示されているときには、ペンのドラッグによって、画面を送り、隠れた内容を表示させることができます（縦書きのコンテンツでは“➡”や“⬅”が表示され、左右にドラッグします。下記の上、下を右、左に読み替えてください）。画面の送りかたは、コンテンツによって異なります。

画面スクロール：

ペンを画面に置き、上や下に移動させると、それに従って画面がスクロール（1行単位で画面送り）します。

1画面送り：

ペンを画面に置き、上や下に移動させてペンを離すと1画面送り（1画面単位で画面送り）します。

※1画面送りされるコンテンツの例

- ●反対語便覧　●OXFORD BOOKWORMS　など
- ●文学作品（青空文庫）の各作品
- ●その他、「コンテンツの説明を見る」や「使い方」の画面
- ●コンテンツ購入サイトで購入した一部の書籍/辞書

ペンを斜めに移動させたときは、角度によって「画面送り」と判断される場合と「範囲指定」と判断される場合がありますので、できるだけ上下方向にペンを移動させてください。一度動作が判断されると、その後、ペンを離すまでは、その動作が継続されます。

二参考二

● 右上に“⬇”や“⬆”（縦書きのコンテンツでは“➡”や“⬅”）が表示されていない画面では、ペンを上下（縦書きのコンテンツでは左右）に移動させても範囲指定の動作を行います。
● 最も大きい文字サイズ（360ドット文字相当）で表示している画面ではドラッグによる画面送りはできません。
● Sジャンプやプレビューの画面内ではドラッグによる画面送りはできません。Sジャンプについては、『画面内の語を調べる（S ジャンプを使う）』を参照してください。
● 次の機能、画面ではドラッグによる画面送りはできません。
　マーカーテスト画面

画面表示を変える

■文字サイズを変える

リスト画面や詳細画面で、操作タッチキーの[文字サイズ]([文字大]、[文字小])にタッチすると表示される文字の大きさが、次のように切り替わります。
詳細画面：
　16←→24←→32←→48←→72←→128←→360ドット文字相当

リスト画面：
　16←→24←→32←→48←→72ドット文字相当

二参考二

● [シフト]を押した後に[◀]、[▶]を押して切り替えることもできます。
● アウトラインフォントであるため、ドット数では表せませんが、大きさの目安として“相当”を付けて表します。
● コンテンツや画面によっては、文字サイズを切り替えられない場合や、切り替えられるサイズ、範囲が異なる場合があります。

■詳細画面を箇条書きで見る（早見機能を使う）

早見機能は、コンテンツの詳細画面の例文や補足説明などを省略し、意味などを箇条書きで表示させることができます。
詳細画面で操作タッチキーの[]をタッチしてから[早見]にタッチします。

二参考二

● 早見機能を解除するときは、[戻る]を押します。
● コンテンツや画面によっては早見機能が使えない場合があります。

■候補の言葉の意味を一部見る（プレビュー表示）

用語（候補）のリスト画面で、説明などの一部を見る機能です。
例えば辞書一覧画面から「大辞林4.0」の入力画面を表示して［決定］を押すと辞書順リストが表示され、先頭の言葉の説明の

一部が右または下の窓（プレビューウィンドウ）に表示されます。

プレビュー表示なしに設定する

1. プレビュー表示の画面で操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[プレビュー]にタッチします。
2. [切]をタッチします。
3. プレビュー表示のない画面になります。

プレビュー表示ありに設定する

1. 用語（候補）のリスト画面で操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[プレビュー]にタッチします。
2. [入（右）]または[入（下）]をタッチします。
3. プレビュー表示のある画面になります。

二参考二

● 手書きやソフトキーボード入力のときの絞り込み検索表示エリアには、プレビューは表示されません。
● タイトルなどの項目を選んでいく形式のリスト画面などではプレビューは表示されません。

■詳細画面に複数のタブが表示されたとき

詳細画面の上部に マーク（タブ）が表示され、現在の表示の種類（見出語など）を示します。（例、見出語）
タブが複数表示されているときは、関連する内容があることを示し、 タブにタッチして切り替え、内容を見ることができます。

詳細画面で「見出語」、「複合・派生」、「成句」などのタブをタッチして切り替えます(［▶］や［◀］で切り替えができる場合があります)。

■画面に〈舟形〉マークが表示されたとき

〈舟形〉マークは下記の種類があり、関連する例文や解説、図、音声、コラム（NOTE）、表が収録されていることを示します。
このマークにタッチすると、それぞれの内容が表示されます。

・例や解説を表示させた後、［▶］や［◀］で違う例や解説を順番に表示させることができます（例や解説マークが複数あるとき）。

・図を表示させた後、違う図を表示させるときは［戻る］で図などを閉じて、マークを選び直します（図マークが複数あるとき）。

終了するときは［戻る］を2回押します。

マークの種類（本製品収録のコンテンツでは、表示されないマークがあります。）

〈例〉、〈解説〉：例や解説を表示します。
〈図〉：図を表示します。
〈音声〉：音声を再生します。
〈NOTE〉：NOTE（コラム）を表示します。
〈表〉：表を表示します。

【例】 例や解説を見る

1. 見たいマークをタッチして選びます。
   マークが反転表示され、例や解説などが表示されます。

画面右上に“⬇”や“⬆”が表示されたときはウィンドウ内に表示されていない部分があります。［⏬］、［⏫］などで送って確認します。

2. 別の例や解説があるときは［▶］や［◀］で表示させます。
3. 終了するときは［戻る］を2回押します。
   1回目でウィンドウが閉じ、2回目でマークの反転表示が解除されます。

-

■縦横表示切替について

本製品では、縦表示と横表示を切り替えることができます。表示を切り替えるには、操作タッチキーの[縦⇔横切替]をタッチしてください。

★注意★

● 本体を学習スタイル（タッチ操作方式）にすると、画面表示は横表示から縦表示に自動で切り替わります。調べるスタイル（キーボード操作方式）に戻すと、縦表示から横表示に自動で戻ります。
(ホーム画面の「設定」－「表示方向切替設定」にて、縦表示や横表示に自動で切り替わらないように設定することもできます。)

● 一部の画面では縦横切替が機能しません。

● 縦表示のときに、一部の画面表示が横表示と違うことがあります。

音声を聞く

はじめに適正な音量に調整してください（ホーム画面の「設定」－「音量設定」などで調整）。

■音声マークの音声を聞く

辞書一覧画面([一覧から選ぶ]を押す、またはホーム画面の「一覧から選ぶ」にタッチする）で🔊マーク付きのコンテンツはMP3形式の音声データが収録されています。音声データは🔊マーク（音声マーク）で示されます(ステップリスニングコンテンツなどを除く)。
🔊マークの表示のある音声データは各国のネイティブスピーカー（native speaker）の音声を収録しています。「大辞林4.0」はクラシック音楽（一部）や鳥の鳴き声、虫の鳴き声などを収録しています。

音声再生方法

1. 詳細画面にて🔊マークが、再生対象の語や文の後ろなどに表示されます。
2. マークにタッチする、または[音声]を押します。
   マークが反転表示（🔊）になり、音声が再生されます。
   ・反転表示時（🔊）は［決定］または[音声]を押すたびに音声が再生されます。
   ・音声マークが複数あるときに、[音声]を押したときは、画面表示の一番上のマークが反転表示になり音声が再生されます。
   ・再生を中止するときや、マークの反転を戻すときは［戻る］を押します。
   ・音量を上げすぎるとスピーカーや市販のイヤホンからの音が割れたり、歪んだりすることがありますので、聞きやすい

音になるように調整してください。

二参考二

● 英単語などが反転しているときは一度音声を再生した後、操作タッチキーの[]をタッチしてから[再生速度]をタッチしてください。
音声の再生速度を切り替えることができます。
● 市販のイヤホンを使用するときは『市販のイヤホンで音声を聞くときは』を参照してください。

■音量を調整する

［シフト］［🔉ー］、［シフト］［🔊+］で調整します。また以下の方法でも調整できます。

設定で調整

1. ホーム画面の「設定」－「音量設定」を選びます。
音量調整画面が表示されます。
2. [◀]、[▶]で音量を選び[決定]を押します（または画面のバーにタッチします）。
音量が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

マーク反転表示時の調整

マーク反転表示（  ）時は、操作タッチキーの[音量]をタッチして調整することもできます。

★注意★

● 音量を上げすぎるとスピーカーや市販のイヤホンからの音が割れたり、歪んだりすることがありますので、聞きやすい音になるように調整してください。
● コンテンツによって音声データの音の大きさは異なります。

■英単語をネイティブの発音で聞く

各コンテンツの詳細画面に表示されている英単語などを、音声データを利用して発音させることができます。

1. ジーニアス和英辞典などで詳細画面を表示させます。
   （例えば、たのしい【楽しい】の詳細画面にします。）
2. 発音させたい単語にタッチします。
   （例えば、“happy”にタッチします。）
   単語が選ばれ、機能の選択ウィンドウが表示されます。
3. 実行する機能「音声」にタッチするか、[音声]を押すと、音声が再生されます。
   ・音声データが収録された英単語などが1つだけ見つかったときは上の例のように、自動的に音声を再生します。英単語などが複数見つかったときは音声の選択ウィンドウに表示される候補を選び［決定］を押すと音声が再生されます。
   ・音声再生を途中で止めるときや、前の画面に戻るときは［戻る］を押します。
   ・選択ウィンドウの「TTS（英語）音声:」を選んで［決定］を押すとTTS音声で読み上げられます。

二参考二

● TTS音声により、単語などが読み上げられているときは、画面右上にTTSシンボルが表示されます。
● TTSについては、『英語、日本語、中国語（簡体字）の読み上げ（TTSでの音声読み上げ）』を参照してください。

■英語、日本語、中国語（簡体字）の読み上げ（TTSでの音声読み上げ）

多くの収録コンテンツで、表示される英単語や英語例文などの英語、日本語、中国語（簡体字）、数字をTTS（Text To Speech：合成音声）で読み上げることができます。

★注意★

音声読み上げ機能は、音声合成技術により英語・日本語や中国語（簡体字）を読み上げます。読み上げ機能には制限があります。詳しくは『TTSによる音声読み上げ機能について』をご覧ください。

連続読み上げ

コンテンツの詳細画面にて、TTS音声で文章を連続して読み上げることができます。また「英作ボード スピーキングプラス」でも入力した文章をTTSで連続して読み上げることができます。

1. 詳細画面で操作タッチキーの[連続読上]にタッチします。
下段に再生速度を選択するウィンドウが表示されます。



2. 再生速度を選んで、読み上げを開始したい文章をタッチします。
3. 連続読み上げが始まります。読み上げ中の文章は範囲指定表示されます。
    ・タッチした位置の文章の先頭から、連続読み上げが始まります。
    ・連続読み上げを中止するときは[戻る]を押してください。

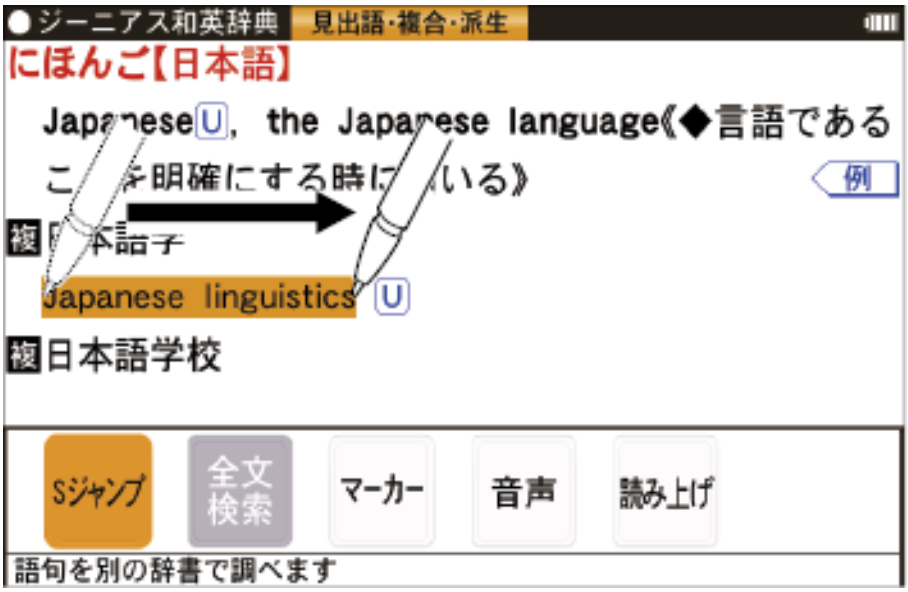
二参考二

● 連続読み上げ中は、自動でページが切り替わります。
● ページの最終行が文の途中となっているときなど、正しく読み上げられない場合があります。
● 詳細画面の最終行まで読み上げると、連続読み上げは終了します。

指定範囲や例文の読み上げ

1. 詳細画面で読み上げさせたい範囲の先頭から最後の単語までドラッグして、画面からペンを離します。英語例文などの例文を読み上げるときは、例文マークにタッチして指定します。（例文

マークは『例文での読み上げが可能な主な例文マーク』を参照してください。）
下段に機能選択ウィンドウが表示されます。



2. 機能選択ウィンドウ内の「読み上げ」にタッチします。
3. 指定範囲の文が読み上げられます。

二参考二

● 読み上げ可能な文字は、半角のアルファベット、数字、日本語、中国語（簡体字）です。範囲指定後に読み上げ可能な文字のみ発音します。また、文末の改行を超えて範囲を広げることはできません。
なお、文の途中にカッコで囲まれた部分がある場合、カッコで囲まれた部分を含んだ範囲を指定できる場合がありますが、カッコ内は発音しません。
● 指定範囲の先頭に読み上げができない文字がある場合、「読み上げ」は選択できません。範囲指定の先頭は読み上げ可能な文字を指定ください。

● 選択できる範囲は画面に表示されている内容のみです。必要な文全体を画面に表示させてから範囲を指定してください。
● 音声の再生速度は一度再生した後、操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[再生速度]で切り替えることができます。

例文での読み上げが可能な主な例文マーク

◆ 英語例文の読み上げ可能な主なコンテンツと、『 』内に例文マークを示します。

- 故事ことわざ辞典『英語』
- ジーニアス英和辞典『¶』
- ジーニアス和英辞典『¶』
- わがまま歩き旅行会話『英』

◆ 中国語例文の読み上げ可能な主なコンテンツと、『 』内に例文マークを示します。

- わがまま歩き旅行会話 中国語『中』

TTSによる音声読み上げ機能について

TTSによる音声読み上げ機能は音声合成技術により英語、日本語、中国語（簡体字）を読み上げます。

TTSによる音声読み上げ機能において、以下の点にご注意ください。
・TTSによる音声読み上げ機能が働かないコンテンツがあります(リトル・チャロなど)。
・音声読み上げ機能は、英語、日本語や中国語（簡体字）などを一切の誤りなく読み上げることを保証するものではありません。

・英語以外（ドイツ語など）を読み上げた場合、英語と見なして読み上げるため発音は正しいものではありません。
・同じつづりで意味合いにより発音が異なる語などは正しく発音されないことがあります。
・読み上げ可能な文字は、半角のアルファベット、数字、日本語、中国語（簡体字）です。中国語（簡体字）のピンインは読み上げできません。
・この読み上げ機能では、英語、日本語と中国語（簡体字）の3種類の言語を読み上げることができますが、複数言語を含む文章の読み上げはできません。一度に複数の言語を含む文字列を選択された場合には、先頭の文字の言語を優先して読み上げます。

なお、お客様または第三者が本機能の使用により生じた損害、逸失利益につきましては、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社および使用許諾権者は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

<u>オープンソースソフトウェアについて</u>
・本製品には、ライセンスに基づく以下のソフトウェアが含まれています。
【License】

```
/* ----------------------------------------------------------------- */
/*           The HMM-Based Speech Synthesis System (HTS)             */
/*           hts_engine API developed by HTS Working Group           */
/*           http://hts-engine.sourceforge.net/                      */
/* ----------------------------------------------------------------- */
/*                                                                   */
/*  Copyright (c) 2001-2010  Nagoya Institute of Technology          */
/*                           Department of Computer Science          */
/*                                                                   */
/*                2001-2008  Tokyo Institute of Technology           */
/*                           Interdisciplinary Graduate School of    */
/*                           Science and Engineering                 */
/*                                                                   */
/* All rights reserved.                                              */
/*                                                                   */
/* Redistribution and use in source and binary forms, with or        */
/* without modification, are permitted provided that the following   */
/* conditions are met:                                               */
/*                                                                   */
/* - Redistributions of source code must retain the above copyright  */
/*   notice, this list of conditions and the following disclaimer.   */
/* - Redistributions in binary form must reproduce the above         */
/*   copyright notice, this list of conditions and the following     */
/*   disclaimer in the documentation and/or other materials provided */
/*   with the distribution.                                          */
/* - Neither the name of the HTS working group nor the names of its  */
/*   contributors may be used to endorse or promote products derived */
/*   from this software without specific prior written permission.   */
/*                                                                   */
/* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND            */
/* CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES,       */
/* INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF          */
/* MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE          */
/* DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS */
/* BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL,          */
/* EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED   */
/* TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,     */
/* DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON */
/* ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,   */
/* OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY    */
/* OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE           */
/* POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.                                       */
/* ----------------------------------------------------------------- */
```

■市販のイヤホンで音声を聞くときは

市販のイヤホンで音声を聞くときは、イヤホンのプラグを本体左側面のイヤホン端子に接続します。

1. ［⏻］を押して電子辞書の電源を切り、イヤホンのプラグをイヤホン端子に接続します。
　・プラグは奥まで完全に差し込んでください。
　・プラグの抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張ると故障の原因になります。
2. 電子辞書の電源を入れ、音声を再生させます。
　［シフト］［🔉ー］、［シフト］［🔊+］で、適正な音量に調整してください。

二参考二

内蔵スピーカーで音声などを聞くときはイヤホンのプラグをイヤホン端子から抜いておいてください。

■鳥の声やクラシック音楽を聞く

次のコンテンツでは、クラシック音楽・鳥の鳴き声などを聞くことができます。
・スーパー大辞林：クラシック音楽、鳥の鳴き声、虫の鳴き声、その他
・新ヤマケイポケットガイド野鳥：鳥の鳴き声

【例】大辞林でクラシック音楽などを聞く
1. 辞書一覧画面から「大辞林4.0」を選んで入力画面を表示させます。
2. 「音を聞く」を選択し［決定］を押します。
3. 聞きたい分類を選択し［決定］を押します。クラシック音楽、鳥の鳴き声では更に分類を選択し［決定］を押します。

4. 聞きたい音を選択し［決定］を押すと再生されます。再生中に［決定］を押すと詳細画面が表示されます。

二参考二

● 「新ヤマケイポケットガイド野鳥」は、詳細画面の  マーク（音声マーク）をタッチして鳥の鳴き声を聞きます。
● 音声再生速度は「標準」に設定して再生してください。音声再生速度の設定は『音声再生速度設定』を参照してください。
● 途中で再生を止めたい場合は［戻る］を押します。

ステップリスニング機能で学習する

ステップリスニング機能は、「リスニング」「リピーティング」「シャドーイング」の３つのモードを使って、英語を聞いたり話したりしながら学習する機能です。
本機能対応コンテンツとして「NHK基礎英語」、「リトル・チャロ」などを収録しています。
ここでは「NHK基礎英語」を例に説明します。

二参考二

人が話す音声データの特性上、単語の切れ目に息継ぎや直前の単語の語尾の一部が入ることがあります。

■操作の流れ

1. ホーム画面の「一覧から選ぶ」にタッチして、「英会話」から「NHK基礎英語1 for Brain」をタッチします。再生ファイルの選択画面が表示されます。



-

前回のファイルを再生：前回再生していると濃く表示され、選択すると前回再生していた項目（ファイル）を前回のモードで再生します。
目次を表示：分類（フォルダ）、項目（ファイル）を選んで再生します。

2. ここでは「目次を表示」をタッチします。
3. 画面上部のタブをタッチしてモードを指定します。
   ・「リスニング」「リピーティング」「シャドーイング」から選択します。
4. 再生したい項目（ファイル）をタッチします。
   ・コンテンツによっては、分類（フォルダ）の選択画面が表示されますので、分類をタッチしてから項目をタッチします。
5. 指定したモードで項目（ファイル）が再生され、学習します。
   ・各モードの説明を参照してください。
6. 終了するときは、操作タッチキーの[戻る]をタッチします。

★注意★

再生中に本体を閉じても、「繰り返し再生設定」に従い再生されますので、本体を閉じた状態で音声を聞くことができます。
ただし、再生中はオートパワーオフ機能が働かないため、再生中のままで放置すると、充電池の残量が少なくなりますのでご注意

ください。
なお「繰り返し再生設定」は『ステップリスニング設定メニュー』を参照してください。

■リスニングモードで学習する

会話文などが連続で再生され、リスニング（聞き取り）の学習ができます。画面表示（文章を表示しないなど）や表示する言語（日本語表示など）を変更できますのでお好みの表示で学習できます。
なお画面に文章を表示しているときは、再生中の文章は色を変えて表示されます。



(1)表示切替ボタン：
　タッチして切り替えます。
　「イラスト」：画像のみ表示
　「イラスト/文章」：画像とテキストを表示（初期設定）
　「文章」：テキストのみ表示

・［◀］、［▶］で切り替えることもできます。

(2)言語切替ボタン：

テキスト表示中にタッチして切り替えます。表示切替が「イラスト」（画像のみ表示）のときは言語の切り替えはできません。

「原語」：元の言語（英語や中国語）のみ表示（初期設定）

「日本語」：日本語のみ表示

「原語と日本語」：元の言語と日本語を同時表示（テキストのみ表示のとき選択可）

(3)再生操作ボタン：

再生に関する操作ボタンです。詳しくは『再生の操作』を参照してください。

(4)再生速度切替ボタン：

タッチして切り替えます。

二参考二

イラスト（画像）が無いコンテンツでは、文章のみの表示となります。表示切替（イラストと文章の切り替え）はできません。

■リピーティングモードで学習する

会話文などの再生が１文ごとに一時停止しますので、再生されたお手本の音声をまねて発声することで、聞き取りや発声の練習ができます。リスニングモード同様に、画面表示（文章を表示しないなど）や表示する言語（日本語表示など）を変更できます。

なお画面に文章を表示しているときは、再生中の文章は色を変えて表示されます。



(1)表示切替ボタン：
(2)言語切替ボタン：
(3)再生操作ボタン：
(4)再生速度切替ボタン：
　(1)～(4)は『リスニングモードで学習する』の各説明を参照してください。
(5)「もう一度聞く」ボタン：
　再生された文章をもう一度聞いて確認できます。文章が再生されたあとに表示されます。
(6)「次へ」ボタン：
　次の文章の再生へ進みます。文章が再生されたあとに表示されます。

■シャドーイングモードで学習する

文章を見ずに音声だけを聞きながら少し遅れて（ほぼ同時進行で）復唱するシャドーイングの学習ができます。リスニング、発声に加えてリズム感などの練習ができます。



(1)テキスト一時表示ボタン：

タッチして切り替えます。

「文章を見る」：流れている音声のテキスト（英語や中国語）が表示され、音声の内容を確認できます。

「文章を隠す」：テキストを非表示にします。

(2)自動送り/手動送り切替ボタン：

タッチして切り替えます。

「自動送りにする」：自動で次の音声再生へ進みます。

「手動送りにする」：ひとまとまりの再生で一時停止します。「やり直す」、「次へ」、▶などにタッチして続けます。

(3)再生操作ボタン：

再生に関する操作ボタンです。詳しくは『再生の操作』を参照してください。

(4)再生速度切替ボタン：

タッチして切り替えます。

(5)「やり直す」ボタン：

再生された文章をもう一度練習できます。「手動送りにする」のとき、再生されたあとに表示されます。

(6)「次へ」ボタン：
次の音声再生へ進みます。「手動送りにする」のとき、再生されたあとに表示されます。

二参考二

シャドーイングモードのときは、表示切替（イラストと文章の切り替え）はできません。

■再生の操作

画面下部にある次のボタンで再生時の操作をします。
⏮（[⋀]）：再生中のデータ（ファイル）の先頭へ戻って再生します。先頭から3秒以内に押すと同じフォルダ内で並びが前のデータ※1を再生します。
⏭（[⋁]）：同じフォルダ内で並びが次のデータ※2を再生します。
◀文戻し（[▲]）：再生中のデータ（ファイル）内で、一文前に戻ります。ただし、文の再生開始から3 秒を超えているときは、再度その文の先頭から再生します。
文送り▶（[▼]）：再生中のデータ（ファイル）内で、一文次へ進みます。
⏸ / ▶（[決定]）：再生の一時停止、解除を交互に行います。

※1 繰り返し再生設定を「階層内ファイル」に設定している場合で、フォルダ内の先頭のデータ再生時は、並び順で最後のデータを再生します。
※2 繰り返し再生設定を「階層内ファイル」に設定している場合で、フォルダ内の最後のデータ再生時は、並び順で先頭のデータを再生します。

二参考二

● 画面の文にタッチすると、その単語または文の先頭から再生します。
● 終了するときは、操作タッチキーの[戻る]をタッチします。

■ステップリスニング設定

再生速度や繰り返し再生の設定ができます。

再生速度を設定する

1. 操作タッチキーの[再生速度]をタッチします。
2. 操作タッチキーに表示される[速く]～[遅く]をタッチして切り替えます。

繰り返し再生を設定する

次の繰り返し再生を設定することができます。

オフ：
繰り返し再生を行いません。
再生を開始したフォルダ内のデータをリストで表示された順番に、最後まで再生して終了します。
1ファイル：
再生を開始したデータ（ファイル）を繰り返し再生します。
階層内ファイル：
再生を開始したフォルダ内のデータをリストで表示された順番に繰り返し再生します。

1. 操作タッチキーの[繰り返し設定]をタッチします。

繰り返し再生設定画面が表示されます。

2. ［▼］/［▲］を押して、“☑”を設定したい項目へ移し［決定］を押します（または画面の項目にタッチします）。

マイクを使う

内蔵のマイクは「聞き比べ機能（英作ボードのスピーキング含む）」、「ボイスメモ」で使います。

・ご使用前にマイクの音量を調整してください。



■マイクの音量を調整する

ホーム画面で「設定」－「マイク調整」と選んで[決定]を押しマイク調整画面を表示させます。

画面に表示される説明に従って操作してください。

※ 「聞き比べ機能（英作ボードのスピーキング含む）」、「ボイスメモ」を正しく動作させるために次の注意をお読みいただき、正しくご使用ください。

★注意★

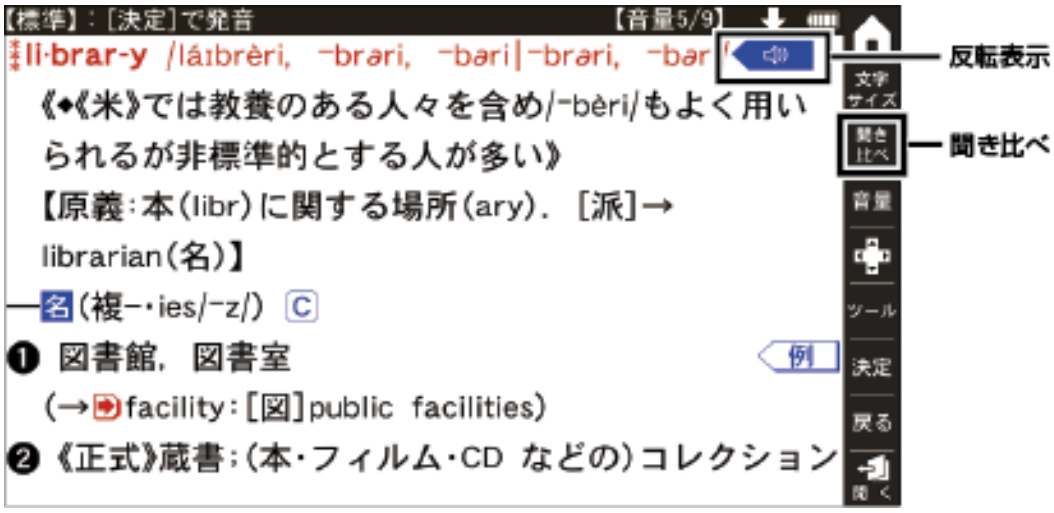
● マイクに向かって発音してください。

● マイクを手などでふさがないでください。雑音が入るなど音量が変化します。

■聞き比べ機能を使う

ネイティブスピーカーの音声データ（マークなど表示）が収録されている対象コンテンツで、自分の発音（声）を録音し、音声データの発音（お手本）と聞き比べることができます。
また、「英作ボード スピーキングプラス」で作成した文章について、TTS（合成音声）の読み上げと自分の発音を聞き比べることもできます。「英作ボード スピーキングプラス」での聞き比べについては、『英作ボード スピーキングプラスを使う』の『スピーキング（聞き比べ）』を参照してください。

【例】「library」の発音を聞き比べる。
1. ジーニアス英和辞典で「library」の詳細画面を表示します。
2. [音声]を押す、またはマークにタッチします。
音声マークが反転表示（）になり、音声が 1 回再生されます。

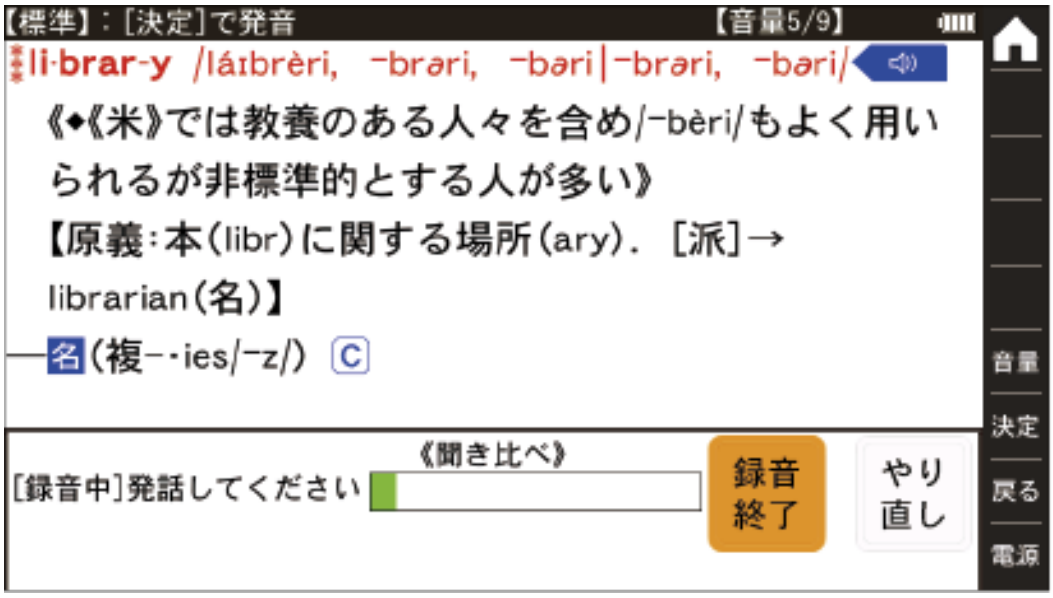


3. 操作タッチキーの[聞き比べ]をタッチします。

・ネイティブ音声が再生されます。

4. 再生が終了すると、自動で録音が開始されます。

・マイクに向かって発話（発音）してください。



5. 発話が完了したら、「録音終了」にタッチ、または[決定]を押します。

・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。

6. ネイティブ音声（お手本）に続いて、録音された音声が再生されます。

・聞き比べてください。

7. 再生が終了すると選択メニューが表示されます。

・もう一度聞き比べるときは「もう一度聞く」にタッチしてください。

・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。ネイティブ音声の再生が始まり手順4からやり直しになります。

・聞き比べを終了するときは「終了」にタッチまたは[戻る]を押してください。

二参考二

- 次の場合も聞き比べることができます。
  ・詳細画面で単語をタッチして選択し、機能選択ウィンドウの「音声」にタッチしたとき。
  ・操作タッチキーに[聞き比べ]が表示されたとき。
- 録音時間は最大約1分間です。約1分経過すると録音が終了します。

便利な使いかた

■読みやスペリングの一部を省略して検索する

読みやスペリングの一部を“～”（ブランクワード）または“？”（ワイルドカード）に置き換えて検索することで、はっきりしない語も探すことができます。

[シフト][～]や[シフト][？]を押して“～”や“？”を入力します。

ブランクワード：“～”は複数の文字の代わりに１個だけ入力します。

（例）「う～ざくら」「se～y」「～men」

ワイルドカード：“？”は不明な文字の代わりに入力します。

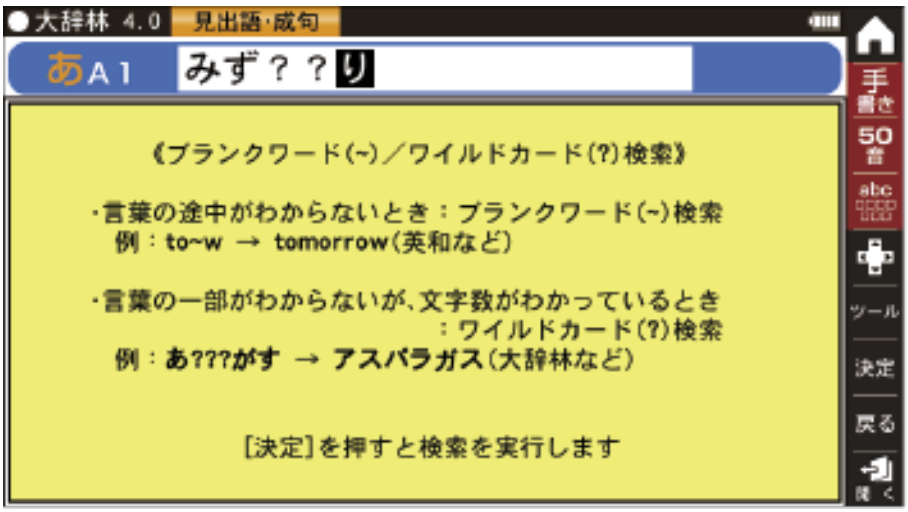
（例）「う？？？ざくら」「se????y」「favo??b??」

・“～”は最後に使用できません。
・“～”と“？”を同時に使用できません。

また、後述の「“～”、“？”が使えるコンテンツ」の入力画面、および一括検索の調べる画面（検索リスト画面）の入力画面で、次の場合に利用できます。

・日本語（かな）のみ入力する場合
　漢字を入力したときは利用できません。
　また、「大辞林4.0」の逆引き、分野別小辞典でも利用できません。
・英語のみ入力する場合
　ただし、スペルチェックや成句検索の入力画面では利用できません。

1. 例えば「大辞林4.0」の入力画面で「みず？？り」と入力します。
キー操作：[M] [I] [Z] [U] [シフト] [？] [シフト] [？] [R] [I]



2. ［決定］を押して検索します。該当する語がリスト表示されます。
3. ［▼］、［▲］で目的の語を選択し［決定］を押します。

詳細画面が表示され、意味などが表示されます。

“～”、“？”が使えるコンテンツ

●大辞林4.0（逆引き、分野別除く）　●明鏡国語辞典　●日本語大シソーラス　● NHK 日本語発音アクセント辞典　●カタカナ外来語 ABC略語辞典　●反対語便覧　●故事ことわざ＆四字熟語辞典　●日本語の常識・非常識　●ジーニアス英和辞典　●ジーニアス和英辞典　●カタカナで引ける英和辞典　●旺文社 日本史事典　●旺文社 世界史事典　●家庭の健康べんり事典　●すぐ効くよく効くツボ療法　●ブリタニカ国際大百科事典　●新版 季寄せ　●合本 俳句歳時記(第四版)　●冠婚葬祭マナー事典　●法律用語ハンドブック　●ビジュアル・ワイド日本名城百選

■スペルチェックをする

探したい単語のスペリングがはっきりわからないときなどにはスペルチェック機能で目的の単語を探すことができます。

1. ジーニアス英和辞典の入力／選択画面でスペルチェック項目を［▼］、［▲］で選んで［決定］を押します。スペルチェック機能の入力画面が表示されます。
2. 単語のスペリング（例：「skate」）を入力し［決定］を押します。

検索が開始され、入力したスペリングと一致した単語（該当語）、または類似した単語（候補）がリスト表示されます。

3. 目的の単語（またはそう思われるもの）を［▼］、［▲］で選び［決定］を押します。

詳細画面に意味などが表示されます。

二参考二

- スペルチェックは、ジーニアス英和辞典でできます。
- 候補は、該当語を含めて最大100件まで検索されます。
- 「見つかりません」と表示される場合は入力したスペリングなどを変更して、再度検索をしてみてください。
- 検索中に目的の単語を見つけたときは

  ・検索中に［決定］を押すと検索が一時止まります。その状態で表示されている候補を選び［決定］を押すと、その意味などが表示されます。候補のリスト画面に戻るときは［戻る］を押します。

  検索を再開するときは候補のリスト画面で［戻る］を押します。

  ・検索を中止して入力画面に戻るときは［シフト］［クリア］を押します。
- 調べる機能でもスペルチェックをすることができます。『あいまいチェックやスペルチェックを使う（一括検索）』を参照してください。

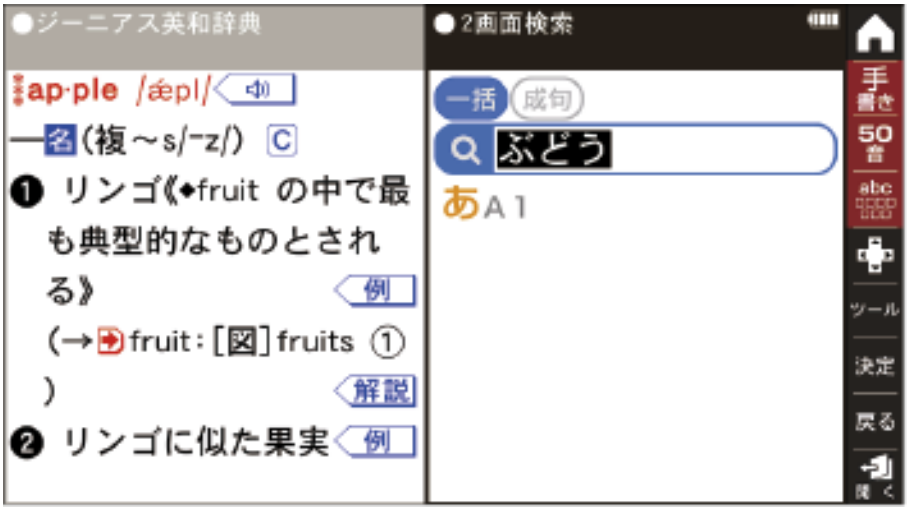
■詳細画面から別の語を調べる（2画面検索を使う）

2画面検索（見出語）

詳細画面に別のウィンドウを開いて、別の語を調べることができます。

1. 詳細画面を表示させ、操作タッチキーの[]をタッチしてから[2画面検索]をタッチします。

2. 検索する言葉（例えば「ぶどう」）をキーで入力します。



3. ［決定］を押します。2画面検索ウィンドウに候補が表示されます。
4. ［▼］、［▲］で表示させたい語を選び［決定］を押します。
　2画面検索ウィンドウに意味などが表示されます。
5. ［戻る］を押すと一つずつ前の画面の状態に戻ります。

二参考二

● 2画面検索では、検索する語を入力して［決定］を押すと、一致する見出し語が表示されます。一致する見出し語がないときは入力した語を先頭に含む語（英単語は一致する語のみ）が表示されます

● 左ウィンドウ、右ウィンドウをそれぞれタッチし、ウィンドウ右上に“⬇”や“⬆”があれば上下にスクロールすることができます。

● 2画面検索の画面は、前回の検索モード、入力文字種で表示されます。

● 2画面検索の画面では、  や  などのマークは選択できません。

2画面検索（成句）

英語の成句を調べることができます。

1. 詳細画面を表示させ、操作タッチキーの[]をタッチしてから[2画面検索]をタッチすると2画面検索ウィンドウが表示されます。
2. 「成句」をタッチします。
3. 検索したいスペリングを入力します。スペリングはスペースでつないで３語まで入力できます。
4. ［決定］を押すと成句検索ウィンドウに候補が表示されます。
5. ［▼］、［▲］で表示させたい語を選び［決定］を押します。

　成句検索ウィンドウに意味などが表示されます。

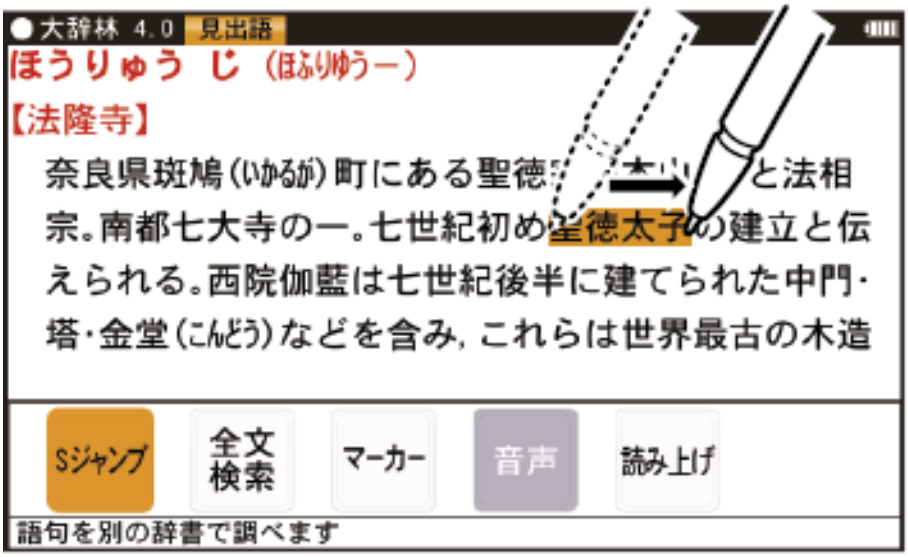
■なぞって全文検索をする

国語系などの対象コンテンツにて、1つの文字列(言葉など)をなぞり、その文字列が含まれる項目を該当コンテンツの文章の中から検索することもできます。

1. 詳細画面を表示し文字列（例：聖徳太子）をなぞります。

　先頭文字「聖」から最後尾の文字「子」までドラッグします。

　下段に機能選択ウィンドウが表示されます。



2. 機能選択ウィンドウ内の「全文検索」にタッチします。
検索が開始され、なぞった文字列を含む項目がリスト表示されます。
3. ［▼］、［▲］で表示させたい語を選び［決定］を押すと詳細画面が表示されます。検索対象とした文字列が反転表示されます。

二参考二

● 検索する文字列によっては、検索に時間がかかることがありますので、そのような場合は［戻る］で検索を中止し、文字列を変えて検索してください。
● 『複数の辞書で全文検索をする』も参照してください。
● 大辞林などの辞書コンテンツでは、入力／選択画面の「全文検索する」から文字列を入力して全文検索をすることもできます。

■画面内の語を調べる（Sジャンプを使う）

詳細画面に表示されている言葉を、コンテンツ間を飛び越えて調べます。

・日本語の漢字、ひらがな、カタカナの語は、範囲指定して調べます。
・英単語やジャンプマーク（  ）が示す語は、タッチして調べることができます。

1. 辞書一覧画面から「大辞林4.0」を選んで「ロコ」の詳細画面を表示します。
2. 調べたい語を選びます。
「バロック」を範囲指定する場合
タッチ操作で先頭の「バ」から最後尾の「ク」までをドラッグします。
3. 機能選択ウィンドウ内の「Sジャンプ」にタッチします。
画面右側のウィンドウに候補が表示されます。
・後述の『範囲指定について』も参照してください。
・指定を解除するときは［戻る］を押します。
4. ［▼］、［▲］で調べたいコンテンツを選び［決定］を押します。
画面右側のウィンドウに説明などが表示されます。
画面右上に“  ”や“  ”が表示されているときは、［≫］や［≪］などで画面右側のウィンドウ内を画面送りできます。
5. ［決定］を押してジャンプし、選択した語の詳細画面にします。

二参考二

● 画面やコンテンツによりジャンプできないことがあります。
● 候補は、選択した語と一致する語、一致する語がないときは選択した語を先頭に含む語（英単語は一致する語のみ）が表示さ

れます。なお⏩が示す語や、1語だけ一致するときは画面右側のウィンドウに詳細画面が表示されます。

ジャンプについて

● ジャンプ先で、［シフト］［クリア］を押すとジャンプを始める前に使用していたコンテンツの入力画面などに戻ります。
● ジャンプ先でジャンプをする、というようにジャンプを重ねた場合、［戻る］で最大10回までは戻ることができます。10回を超えてジャンプを重ねた場合、11回目の戻りでリスト画面などへ戻ります。

ジャンプマークのジャンプ

各コンテンツの詳細画面で“⏩”マークの後に示される語は同じコンテンツ内でジャンプします。この場合ジャンプ候補は表示されません。

範囲指定について

ドラッグで範囲指定をします。先頭にジャンプ対象外の数字、記号、マークなどがあると、機能の選択ウィンドウでSジャンプが選択できません。
なお、コンテンツによっては「・」（中点）などを含んだ文字列で複合語が検索できることもあります。

範囲指定をしているときは画面を送ることはできません。範囲指定したい語が、すべて表示されていることを確認してから操作をしてください。

★注意★

コンテンツの一部には、文字などを図形にして文章の中に配置している場合があります。そのような図形文字はジャンプの対象にならない“範囲指定できない文字”として扱われます。

■一度調べた語を再度調べたいとき（履歴を使う）

各コンテンツや一括検索では、一度調べた語は“履歴”として、新しいものから100件まで自動的に記憶されます。もう一度同じ語を調べたいときは、履歴のリスト（一覧）表示から調べることができます。

1. 調べたいコンテンツの画面、一括検索の画面で、［履歴］を押すか、操作タッチキーの[開く]をタッチしてから［履歴］をタッチしてください。
   履歴表示画面に、新しく調べた語から順にリスト表示されます。
2. ［▼］、［▲］などで目的の語を選び［決定］を押します。
   選択した語の詳細画面が表示されます。

二参考二

● 履歴の記憶件数が100件を超えるときは、古いものが消されます。
● 一括検索の履歴については、一部登録されないコンテンツがあります。また追加コンテンツは登録されません。
● ホーム画面で［履歴］を押すと、一括検索の履歴が表示されます。

● 追加書籍（辞書）では履歴機能が異なるため、『追加書籍（辞書）を使う』を参照してください。また、履歴がない場合もあります。

履歴を１件ずつ削除する方法

1. 各コンテンツや一括検索の画面で、操作タッチキーの[]をタッチしてから［履歴］をタッチして履歴表示画面にします。
2. ［▼］、［▲］で削除したい履歴を選び［削除］を押します。
3. 削除の確認画面が表示されるので［Y］を押します。
　選択した履歴が削除されます。

履歴をまとめて削除する方法

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選び［決定］を押します。
3. ［▼］、［▲］で「履歴/しおり削除」を選び［決定］を押します。
4. 削除の確認画面が表示されるので［Y］を押します。
　すべての履歴/しおりが削除されます。

二参考二

「履歴をまとめて削除する方法」では、ブレーンライブラリー管理ソフトで転送したときのフォルダ（BOOKなど）以外のフォルダに入っている追加書籍（辞書）の履歴は削除されません。その場合は『履歴を1 件ずつ削除する方法』の手順で削除してください。

■繰り返し見たい語を登録する（単語帳・マーカーを使う）

繰り返し見たい語や覚えたい語などを「単語帳」に登録できます。また、覚えたい語句にマーカーを引いて登録し、その部分を集中的に覚えたり、マーカー部分を隠しておいて、その部分を言い当てるテストができます。

※ 単語帳があるコンテンツはホーム画面から「アクセサリー」－「すべての単語帳を見る」で確認できます。

単語帳に語を登録する

1. 登録したい語の詳細画面を表示します。
2. 操作タッチキーの[]をタッチしてから[単語帳登録]をタッチしてください。詳細画面の語が単語帳に登録されます。

※ 例文検索で検索した画面では上記操作で例文の前に“➡”が表示されますので［▼］、［▲］で登録したい例文を選択して［決定］を押します。

二参考二

● 単語帳は各コンテンツで最大500件登録できます。なお、単語帳以外の詳細画面でマーカーを引いた場合、その語も単語帳に登録されます。

● 例文検索から登録された例文は各コンテンツの画面では見られません。ホーム画面から「アクセサリー」－「すべての単語帳を見る」の「例文」の分類で見ることができます。また例文検索の画面で操作タッチキーの[単語帳]をタッチして見ることもできます。

各コンテンツの画面から、登録した語を見る

1. 見たい辞典などの画面にします。
2. 操作タッチキーの[]をタッチしてから[単語帳]をタッチしてください。単語帳に単語が登録されている場合は、単語帳のリスト画面が表示されます。
3. ［▼］、［▲］で目的の単語を選び［決定］を押します。
   選んだ語の詳細画面が表示されます。
   ・データは各コンテンツと同様の順番、または登録順で並びますが、成句などは見出し語よりも後に並びます。

コンテンツの一覧から、登録した語を見る

登録した単語帳のデータをコンテンツの一覧から見ることができます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「すべての単語帳を見る」を選びます。単語帳がある分類の一覧が表示されます。
2. ［▼］、［▲］で目的の分類を選び［決定］を押します。
   選んだ分類のコンテンツの一覧が表示されます。
3. 同様の操作で目的のコンテンツ、語を選び詳細画面を表示させます。

覚えたい語句にマーカーを引く

覚えたい語句にマーカーを引いて登録し、その部分を集中的に覚えたり、マーカー部分を隠しておいて、その部分を言い当てるテストができます。

1. マーカーを登録したい語の詳細画面を表示します。

2. マーカーを引きたい部分をタッチして範囲指定します。
　「マーカー」にタッチします。
3. マーカーの色（緑､黄、ピンク、オレンジ、紫）を選びます。
4. マーカーを追加した旨のメッセージが一時表示され、選択された色のマーカーが引かれます。

二参考二

● マーカーは1回で最大120文字まで引くことができます。
● マーカーは1つのデータに10カ所まで引くことができます。
● 項目の終わり（改行）を超えてマーカーを引くことはできません。
● マーカーを引く前の範囲指定を消したいときは、機能選択ウィンドウ以外をタッチするか［戻る］を押します。範囲選択が解除されます。
● 例文検索機能で探し出した例文は、いったん単語帳に登録し、そのあと単語帳の詳細画面に表示させてからマーカーを引きます。
● 例文のマーカーテストは、ホーム画面から「アクセサリー」－「すべてのマーカーテストを見る」の「例文」の分類で見ることができます。また例文検索の画面で操作タッチキーの[マーカーテスト]をタッチして見ることもできます。

登録したマーカーを消すときは
マーカーが引かれている文字にタッチして選択し「マーカー」にタッチします。「マーカーを削除しますか？（単語帳からは削除しません）」というメッセージが表示されますので［Y］を押します。

1つのデータに引かれているすべてのマーカーを消すときは
マーカーテストのリスト画面で、語を選んで［削除］を押し、表示されるマーカー削除の確認メッセージに従って［Ｙ］を押します。マーカーテストのリスト画面については、『マーカー部分を使ってテストをする』を参照してください。

全コンテンツのマーカーをまとめて消すときは
『マーカーだけをまとめて消去（削除）する方法』を参照してください。

マーカー部分を使ってテストをする

覚えたい語句にマーカーを引いて登録し、その部分を集中的に覚えたり、マーカー部分を隠しておいて、その部分を言い当てるテストができます。

1. 入力画面などで操作タッチキーの[]をタッチしてから[マーカーテスト]をタッチしてください。マーカーテストのリスト画面が表示されます。
    ・単語帳のリスト画面で、「マーカーテスト」タブにタッチしてもマーカーテストのリスト画面が表示されます。
2. テストしたい語を選び［決定］を押します。
    マーカーを引いた箇所の文字が隠された詳細画面が表示されます。
3. 隠されている内容を言います（または考えます）。
4. マーカー部分にタッチすると隠れている内容を表示しますので、言った（考えた）答えと一致しているか確認します。
    ・もう一度マーカー部分にタッチすると内容が隠れます。

・操作タッチキーからマーカーの色を選ぶと、その色のマーカーで隠れている内容が表示されます。もう一度同じ色を選ぶと内容が隠れます。
・操作タッチキーの[]をタッチしてから[全部表示]や[全部隠す]にタッチすれば、すべてのマーカーが引かれている個所の内容を表示させたり、隠したりできます。

5. ［戻る］でマーカーテストのリスト画面に戻って、手順2～4の操作で次の語のテストをします。

二参考二

単語帳の画面などで、前に“✎”マークが表示されている語は、マーカーが付けられていることを示します。

すべてのマーカーテストを見る

登録したマーカーをコンテンツの一覧から選択しテストすることができます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」「すべてのマーカーテストを見る」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で目的の分類を選び［決定］を押します。
選んだ分類のコンテンツの一覧が表示されます。
3. 同様の操作で目的のコンテンツ、語を選び詳細画面を表示させます。
4. 前項『マーカー部分を使ってテストをする』と同様にマーカーテストをします。

単語帳を削除（登録を解除）する方法

単語帳は、1件ずつの削除、製品内のすべての削除ができます。
単語帳を削除しても、元の辞書などのデータは削除されません。
ただし、削除した語にマーカーが引かれていた場合、そのマーカーは消去されます。

単語帳を１件ずつ削除する方法

1. 各コンテンツの画面で操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[単語帳]をタッチし、単語帳のリスト画面を表示させます。
2. 削除したい語にカーソルを移して［削除］を押します。
3. 削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

二参考二

単語帳の詳細画面で［削除］を押して削除することもできます。

単語帳をまとめて削除する方法

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選び［決定］を押します。
3. ［▼］、［▲］で「単語帳削除」を選び［決定］を押します。

単語帳削除画面が表示されます。

4. 削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

★注意★

追加書籍（辞書）に追加した書籍など（XMDF コンテンツ）の単語帳データも上記方法でまとめて削除されます。

マーカーだけをまとめて消去(削除)する方法

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選び［決定］を押します。
3. ［▼］、［▲］で「マーカー削除」を選び［決定］を押します。

マーカー削除画面が表示されます。

4. 削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

二参考二

上記操作でマーカーは消去されますが、単語帳のデータは削除されません。

■コンテンツの説明を見る

一部のコンテンツについて、凡例（編集要旨）などを収録しています。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「コンテンツの説明を見る」を選びます。

　コンテンツ選択画面が表示されます。

2. コンテンツを選んで内容を見ていきます。

二参考二

● 操作方法は『追加書籍（辞書）を使う』の『本を操作する』を参照してください。

● 別のコンテンツの凡例などを見るときは、上記コンテンツ選択画面に戻って選択します。各凡例などの画面で［戻る］を押す

か、章の区切りに設けられている「■先頭へ」を選択すると上記の画面に戻ります。
● 説明の中などの下線が引かれている青い文字や、表の中の青い文字は、選択するとその項目位置へ移動できることを示しています。

旅ノートを楽しむ

文字や絵などを手書きで書き込むことができます。旅の思い出などを書き込んで保存したり、スライドショーで見たりできます。

二参考二

● 旅ノートは次の方法で呼び出すことができます。終了するときは[戻る]を押します。
・ホーム画面の分類アイコン「行楽・旅ノート」から「旅ノート」をタッチします。
・操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューを表示して「旅ノート」にタッチします。
● 旅ノートは、1冊あたり40ページまで、最大25冊（1000ページ）作成可能です。ただし、空き容量がない場合は作成できません。
● 記入した内容は編集画面を閉じたとき（[戻る]をタッチしたときなど）に自動で保存されます。
● ここでは横表示の画面を使って説明しています。縦表示の旅ノートを作成するときは、本体を学習スタイル（タッチ操作方式）にしてから（画面を縦表示にしてから）、新規作成アイコンにタッチしてください。

【例】旅ノートで俳句を記入しましょう。

1. ホーム画面の分類アイコン「行楽・旅ノート」から「旅ノート」をタッチします。

・旅ノート（ブック）選択画面が表示されます（初めて使うときは、新規作成アイコンのみ表示されます）。



2. 新規作成アイコンにタッチします。フォーム選択画面が表示されます。



3. 「俳句5」フォームにタッチします。旅ノート編集画面が表示されます。



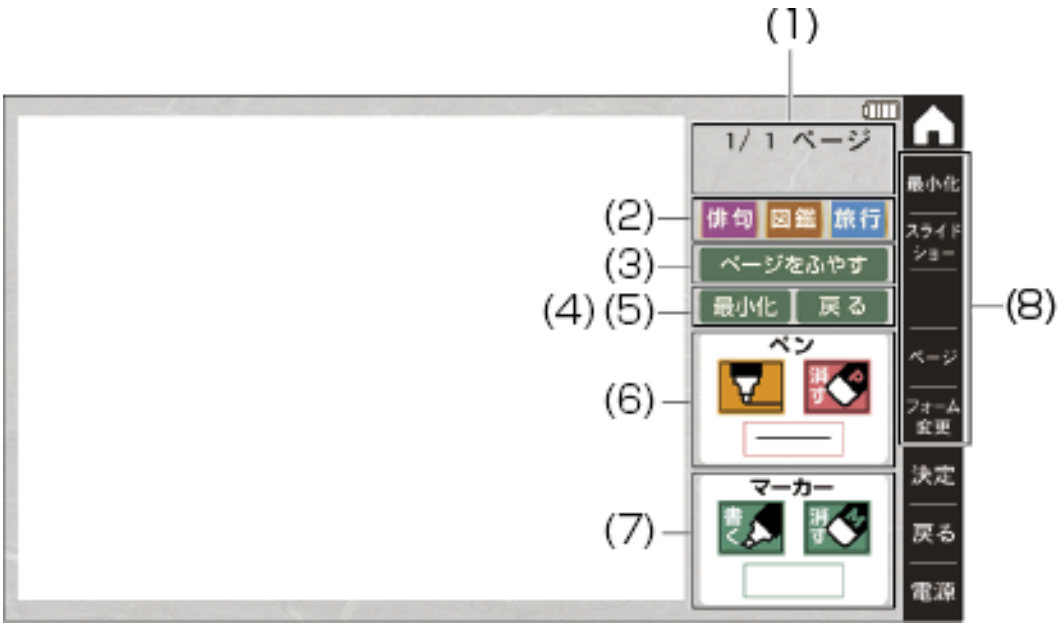
4. 俳句を記入しましょう。

二参考二

フォーム選択画面の「俳句1」～「俳句3」は、「夏井いつきの世界一わかりやすい俳句の授業」で活用します。

■旅ノート編集画面

新規作成アイコン、または作成済みの旅ノートアイコンにタッチして、編集画面を開きます。



(1) ページ情報（表示中のページ番号/全ページ数）が表示されます。ページ情報をタッチすると、ページ番号一覧が表示されますので、目的のページ番号をタッチしてページ移動できます。◄/►にタッチするとページが送られます（◄/►はページが複数あるときに表示されます）。

(2) それぞれの分類からコンテンツを利用できます。ここからコンテンツを利用したときは、旅ノートはアイコン化（最小化）されますので、アイコンにタッチして起動できます。下記(4)を参照してください。

(3) 新しいページを追加します（1冊あたり40ページまで）。

(4) 旅ノートをアイコン化（最小化）します。そのアイコン(旅ノートひらく)をタッチすると旅ノート編集画面の表示に戻ります。アイコンの位置を変えるときはドラッグします。

(5) 旅ノート選択画面に戻ります（記入した内容は自動で保存されます）。

(6) ペンの色や太さ、ペン消しゴムの太さを選択できます。

(7) マーカーの色や太さ、マーカー消しゴムの太さを選択できます。

(8) 操作タッチキーから、次の操作ができます。

最小化：旅ノートをアイコン化（最小化）します。上記(4)を参照してください。

スライドショー：選択中の旅ノートのページを順番に自動で表示することができます。詳しくは『旅ノートのスライドショーを使う』を参照してください。

ページ：

追加：ページを追加できます。

クリア：表示中のページを白紙に戻します。フォームは変わりません。

削除：表示中のページを削除します。

書き出し：表示中のページを画像データとして書き出しします。

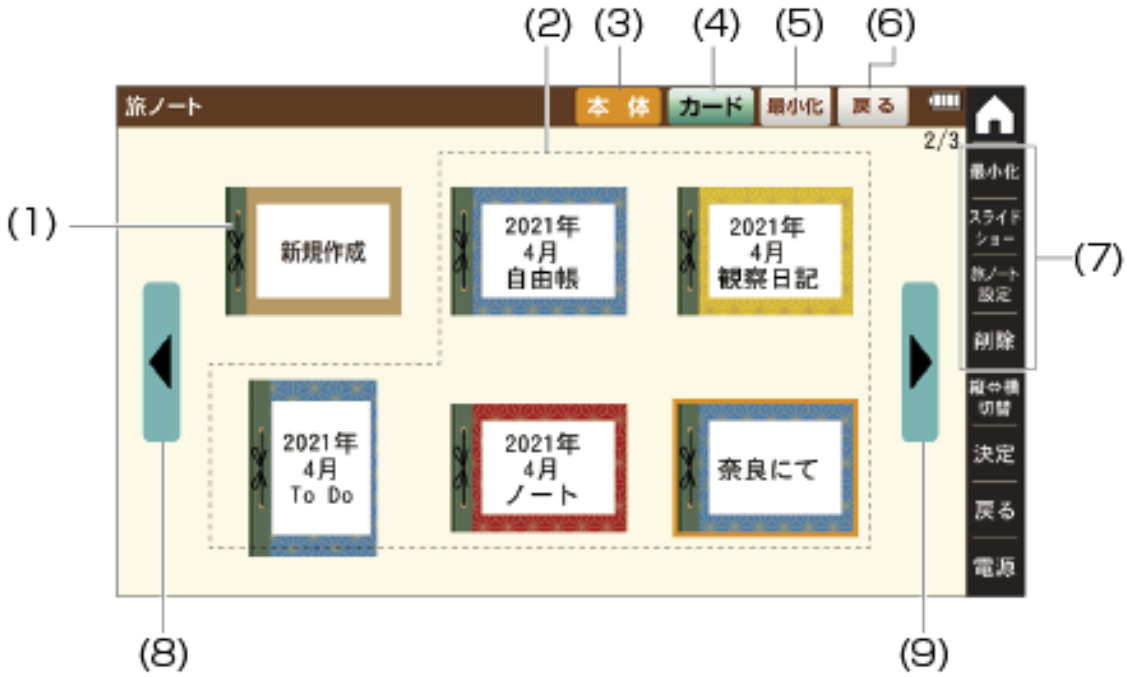
書き出した旅ノートは、旅ノートが保存されている方のメモリーの「TRAVEL」フォルダ内の「EXPORT」フォルダに保存されています。

『パソコンと接続する』を参考にパソコンと本体を接続し、パソコンに取り込んでください。

なお、[書き出し]を行うと、前回の[書き出し]のファイルが消去されますので、ご注意ください。

フォーム変更：表示中のページおよび追加するページのフォームを変更できます。すでに保存済みのページは変わりません。

■旅ノート（ブック）選択画面



(1) 新規作成アイコン：

旅ノートを一冊、新たに作成するときにタッチします。

フォームの選択後、編集画面が表示されます。

旅ノートのタイトル（表題）やアイコンの色は、選択したフォームに合わせて自動で設定されます。タイトルは日付（例、2021年4月）と分類名（例、自由帳）が設定されます。変更するときは、操作タッチキーの[旅ノート設定]から変更します。

(2) 旅ノートアイコン：

タッチすると、その旅ノートの編集画面を表示します。作成済みの旅ノートにページを追加したり、内容を変更したりできます。

横表示で作成した旅ノートは旅ノートアイコンが横向き（横長）で、縦表示で作成した旅ノートは旅ノートアイコンが縦向き（縦長）で表示されます。

(3) 「本体」：

リスト対象フォルダを本体メモリーにします。

(4) 「カード」：

リスト対象フォルダをメモリーカードにします。

(5) 「最小化」：

旅ノートをアイコン化（最小化）します。そのアイコン()をタッチすると旅ノート選択画面の表示に戻ります。アイコンの位置を変えるときはドラッグします。

(6) 「戻る」：

旅ノートを終了します。

(7) 操作タッチキーから次の操作ができます。

最小化：旅ノートをアイコン化（最小化）します。上記(5)を参照してください。

スライドショー：選択中の旅ノートのページを順番に自動で表示できます。詳しくは『旅ノートのスライドショーを使う』を参照してください。

旅ノート設定：作成済みの旅ノートに、次の操作ができます。

ノート色変更：旅ノートアイコンの色を変更できます。

タイトル編集：タイトルを変更できます。

フォーム変更：追加するページのフォームを変更できます。すでに保存済みのページは変わりません。

メモリー情報：作成済みの旅ノート数などが確認できます。

削除：選択中の旅ノートを削除（１件削除）、または全件削除できます。

(8) ◀：旅ノートが6冊以上ある場合、前の旅ノート画面を表示します。

(9) ▶：旅ノートが6冊以上ある場合、次の旅ノート画面を表示します。

■旅ノートのスライドショーを使う

選択中の旅ノートのページを順番に自動で表示できます。

1. 旅ノート選択画面で旅ノートを選択します。または旅ノート編集画面を表示します。
2. 操作タッチキーの[スライドショー]をタッチします。



3. 操作タッチキーの[1回のみ]または[繰り返し]をタッチすると、スライドショーが始まります。

・１ページ目または表示中のページから、選択した旅ノートのページが順番に表示されます。

・スライドショーを終了するときは、「戻る」にタッチしてください。

・▶にタッチすると、次のページに早送りされます。

・「編集」または「決定」にタッチすると、表示中のページの編集画面が表示されます。

暗記学習コンテンツを使う

赤、緑、紺のシートをタッチ操作で上下に動かして暗記学習ができます。学習の進捗を見たり、確認テストで定着度を確認したりすることもできます。
本製品には「山川 一問一答 日本史」「山川 一問一答 世界史」が収録されています。
ここでは、「山川 一問一答 日本史」を例に説明します。

二参考二

暗記学習コンテンツの操作説明は、縦表示の画面例を使っています。

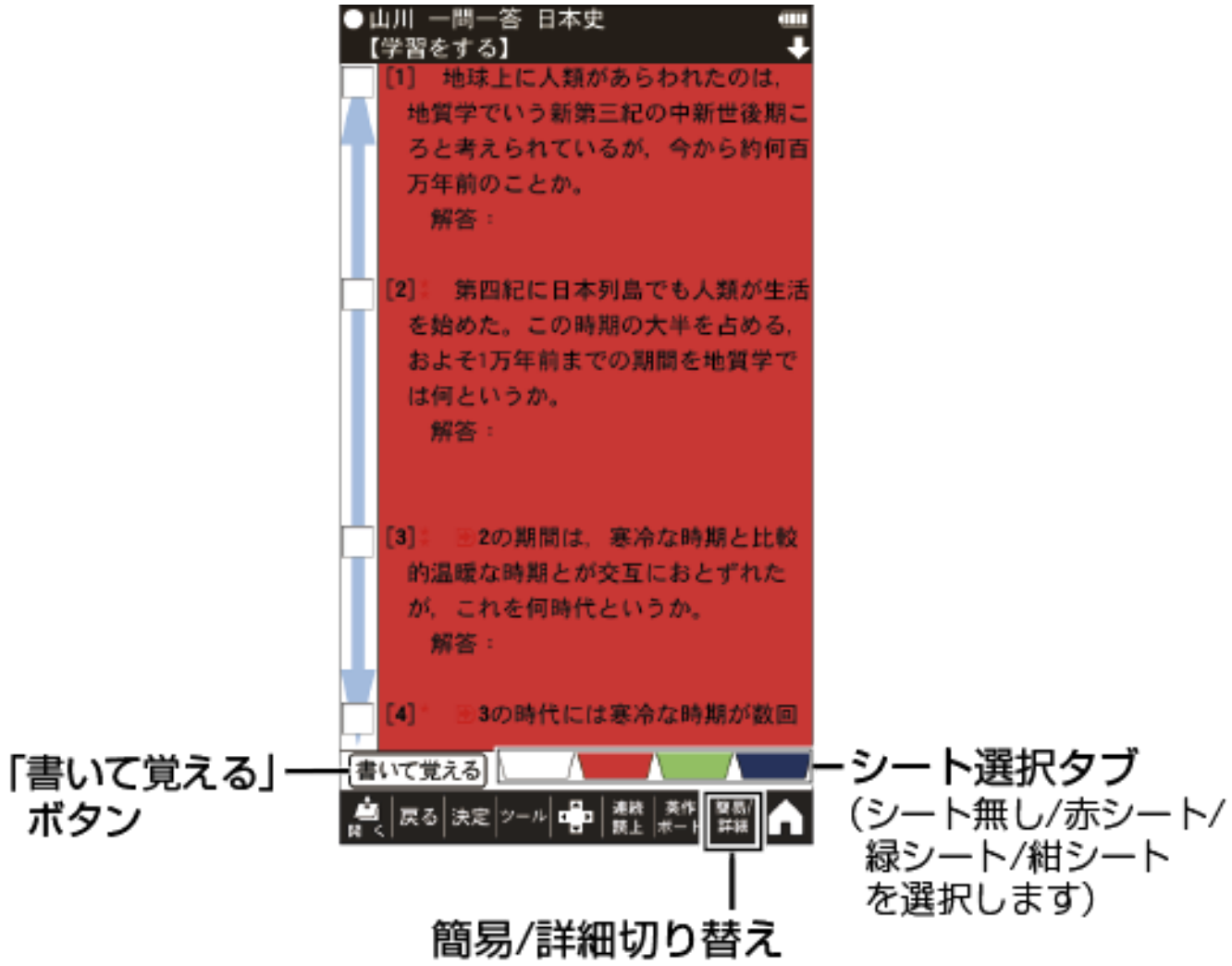
■学習をする

1. 暗記学習コンテンツを選びます。
   ホーム画面の「一覧から選ぶ」にタッチして、「学習」から「山川 一問一答 日本史」をタッチします。

2. 「学習をする」の「つづき」または「新規」をタッチします。
   「つづき」： 前回学習していたつづきから学習を始めます。
   「新規」： 学習したいカテゴリー（分類）を選択していき、新規で学習を始めます。
   ・カテゴリーを選んで学習したい場合は「新規」を選択します。
   ・学習を再開するときに「新規」を選択すると学習するカテゴリーを変更することができます。
   ・学習を再開するときに「新規」を選んでも、学習記録が初期化されることはありません。

・はじめてお使いになるとき、または初期化された状態で「つづき」を選択すると、最初のカテゴリーの暗記学習画面からの学習になります。

3. 暗記学習画面が表示されます。



［書いて覚える］： 自由に書き込める白紙のシートを表示し、文字を書き込んで学習する事ができます。書き込んだ内容を消すときは操作タッチキーの［クリア］をタッチします。閉じるときは操作タッチキーの［戻る］をタッチします。

シート選択タブ：

シート無し（白地）：全ての内容が表示されます。

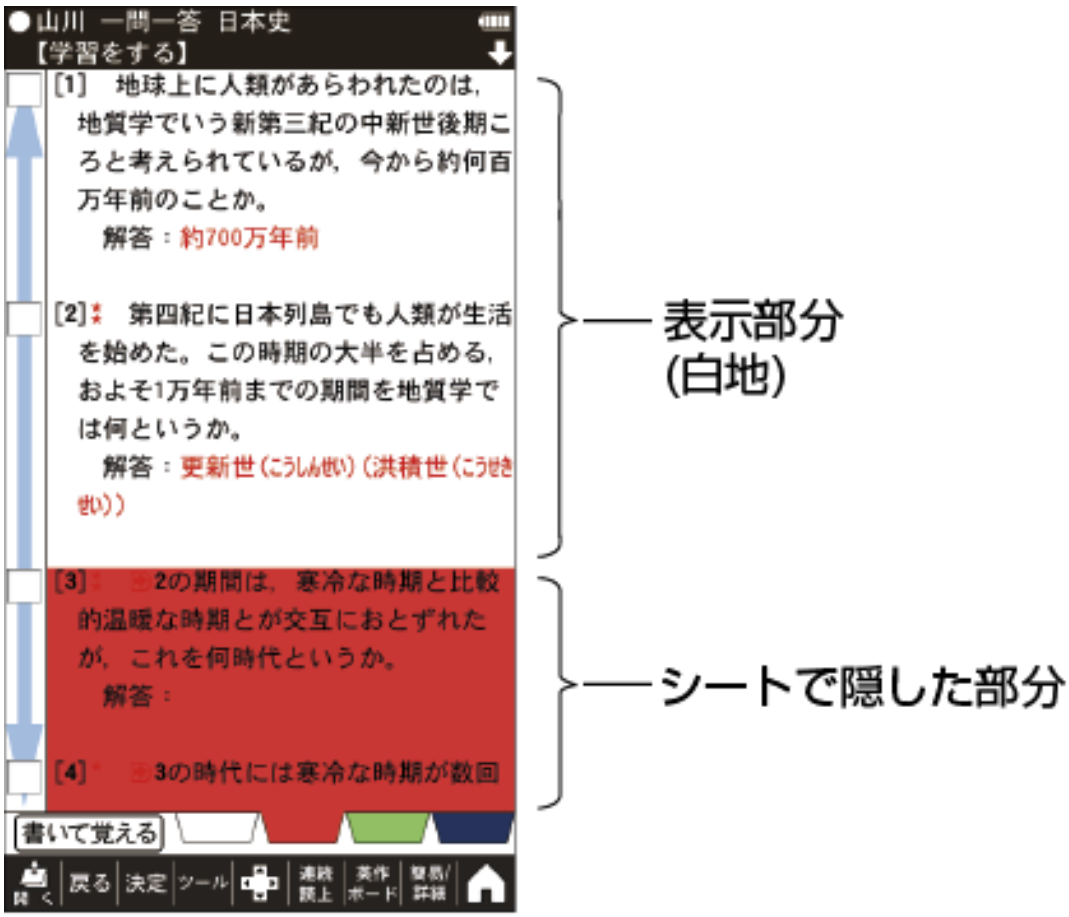
赤シート：赤字、緑マーカーの引かれた語を隠します。
緑シート：緑字、赤マーカーの引かれた語を隠します。
紺シート：見出し行以外を隠します。

・暗記学習画面で表示させる内容はコンテンツトップ画面の「学習設定」で設定できます。

・隠したい語をなぞってマーカーを引き、暗記学習に活用できます。赤マーカー/緑マーカーのみ使用できます。

簡易/詳細切り替え： 例や補足説明など詳しい内容を表示するかどうか、操作タッチキーの[簡易/詳細]にタッチして切り替えます。

4. 画面をドラッグし隠したり表示したりして学習します。また［書いて覚える］にタッチして文字を書き込んで学習します。
表示部分（白地）や左端のマーク間の部分をドラッグして、暗記学習画面のページを送ることができます。



シート部分でドラッグすると、赤／緑／紺のシートを行単位で動かすことができ、隠したり表示したりできます。

5. 学習が終わった項目に☑マークをつけます。
   ・左端の□マークをタッチすると、☑マークになります。
   ・確認テストのときに、☑マークの項目のみを対象に出題させることができます。詳しくは『学習設定』を参照してください。

二参考二

● 操作タッチキーの[✥（カーソル）]使って暗記学習画面を送ることもできます。
● つづきや新規で学習したときにチェックした項目を「表示する」か「表示しない」かは「学習設定」で切り替えることができ

ます。
● 赤／緑／紺シートに重なっているときはジャンプマーク（）をタッチしてもジャンプしません。

■確認テスト

1. 暗記学習コンテンツを選びます。
2. 「確認テスト」の「つづき」または「新規」をタッチします。

「つづき」：前回確認していたつづきから確認テストを始めます。

「新規」： 確認したいカテゴリーを選択していき、新規で確認テストを始めます。

・カテゴリーを選んで確認したい場合は「新規」を選択します。

・確認するときに「新規」を選んでも、学習記録が初期化されることはありません。

・確認テストで出題される項目は「学習設定」で設定することができます。

3. 全項目を対象に問題が出題されます。(「学習設定」の「表示設定」が初期設定のとき。)
4. 答えを考えてから操作タッチキーの[決定]をタッチします。
5. 考えた答えが正解のときは[正解]を、不正解のときは[不正解]をタッチします。

・正解のときは◎マークに切り替わります。

・◎マークの項目が不正解のときは、☑マークに切り替わります。

■進捗を見る

学習（テスト）の進捗状況がグラフに表示されます。
・「全体を見る」/「詳細を見る」の切り替えは画面にタッチして操作してください。
・１日の学習目標は、ホーム画面の「設定」から「１日の学習目標設定」を選んで変更できます。

■学習設定

「学習をする」、「確認テスト」で表示させる項目を設定したり、各マークの状態を一括で変更することができます。

表示設定

1. 暗記学習コンテンツを選びます。
2. 「学習設定」ー「表示設定」をタッチします。
   「学習をする」の暗記学習画面、「確認テスト」の詳細画面に表示させたい項目にタッチして、“✓”を付けます。
3. ［設定］をタッチします。

二参考二

● マークの基本的な意味は次のとおりです。
□：学習が終わっていない項目
☑：学習が終わった項目
◎：確認テストで正解した項目
● たとえば、「確認テスト」の表示設定で「チェック☑の問題」のみに“✓”を付けて設定すると、学習が終わった項目（☑マーク）に限定した確認テストができます。

チェック変更

1. 暗記学習コンテンツを選びます。
2. 「学習設定」ー「チェック変更」をタッチします。
   変更したい内容の項目にタッチすると確認画面が表示されます。
3. ［はい］をタッチします。

カラー図鑑を見る

搭載コンテンツに収録されている写真などから、画像や内容を探すことができます。
ホーム画面から「アクセサリー」－「カラー図鑑」を選ぶと、カラー図鑑メニュー画面が表示されます。このメニュー画面から、カラー図鑑を利用します。

● 動物図鑑、植物・昆虫図鑑の見かたは、「コンテンツ一覧」（ホーム画面から「使い方」－「コンテンツ一覧」）の該当コンテンツの内容、および『追加書籍（辞書）を使う』の『本を操作する』をご覧ください。

■画像から説明内容を探す

1. 上記の画面で「画像から探す」を選び、コンテンツ（例えば「大辞林4.0」）、分野（例えば「動物」）、見たい項目（例えば「鳥類1」）を選んでいき、画像を表示させます。
2. ［≫］［≪］や［▼］［▲］で目的の画像を表示させます。
3. ［決定］を押し（画面にタッチし）、説明などを表示させます。

★注意★

「画像から探す」で表示される画像は、各コンテンツに含まれる画像の中から抜粋しています。すべてを表示することはできません。

ツールを使う

ツールは次の方法で呼び出すことができます。終了するときは[戻る]を押します。

● 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューを表示して呼び出します。

● ホーム画面から「アクセサリー」－「ツール」の順にタッチし、ツール画面を表示して呼び出します。

● 電卓の便利計算機能（通貨換算、単位換算、年号計算、年齢計算）はツール画面から呼び出します。

● ツールジャンプメニューの「電卓」からは電卓機能のみ呼び出すことができます。

二参考二

「自動単語帳」の操作説明は、縦表示の画面例を使っています。

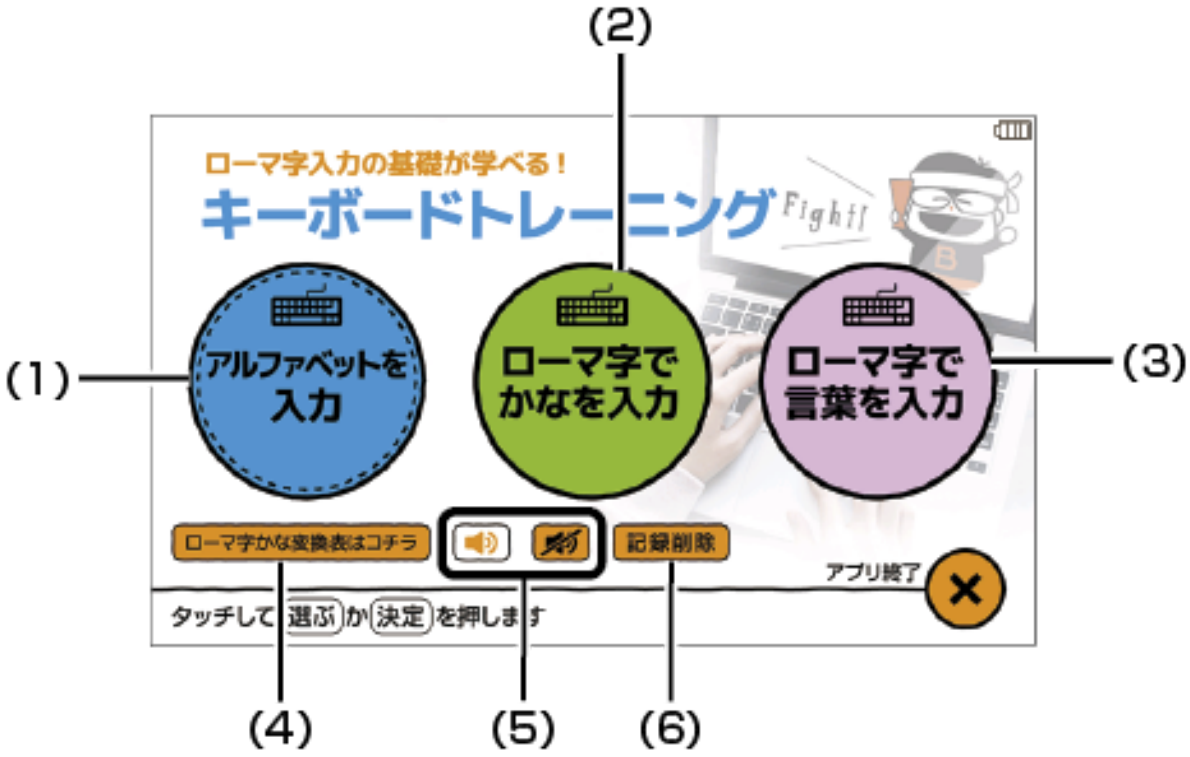
■旅ノートを使う

文字や絵などを手書きで書き込むことができます。旅の思い出などを書き込んで保存したり、スライドショーで見たりできます。詳しくは『旅ノートを楽しむ』を参照してください。

■キーボードトレーニングを使う

キーボードからの日本語入力（ローマ字かな入力）を練習できます。

操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「キーボードトレーニング」をタッチします。
メインメニュー画面が表示されます。



(1) アルファベットを入力：
キー配列を覚えるためのモードです。アルファベットを１文字ずつ入力します。
(2) ローマ字でかなを入力：
ローマ字でかなを入力する（例、KA→か）練習ができます。
(3) ローマ字で言葉を入力：
ローマ字で言葉（単語）を入力する（例、SYUKUDAI→しゅくだい【宿題】）練習ができます。

(4) ローマ字かな変換表はコチラ：
このツールの「ローマ字」から「かな」への変換はこの変換表にもとづいています。なお、本製品の検索入力は『ローマ字→かな変換表』を参照してください。
(5) 音声ON/OFF：正しいキーや誤ったキーが押されたとき、終了したときに音を鳴らすかどうか設定します。  表示のときは音が鳴ります。音を鳴らさないようにするときは  にタッチして  表示にしてください。音を鳴らすときは  にタッチして  表示にしてください。
(6) 記録削除：タイム（所要時間）などの記録をまとめて削除します。

二参考二

● キーボードトレーニングの問題では、使用頻度の高い語彙を抽出するために、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を使用しています。
● キーボードトレーニングはキーボード操作方式（横表示）で使います。

アルファベットを入力する

1. メインメニュー画面から「アルファベットを入力」を選びます。
アルファベットの入力練習が開始します。

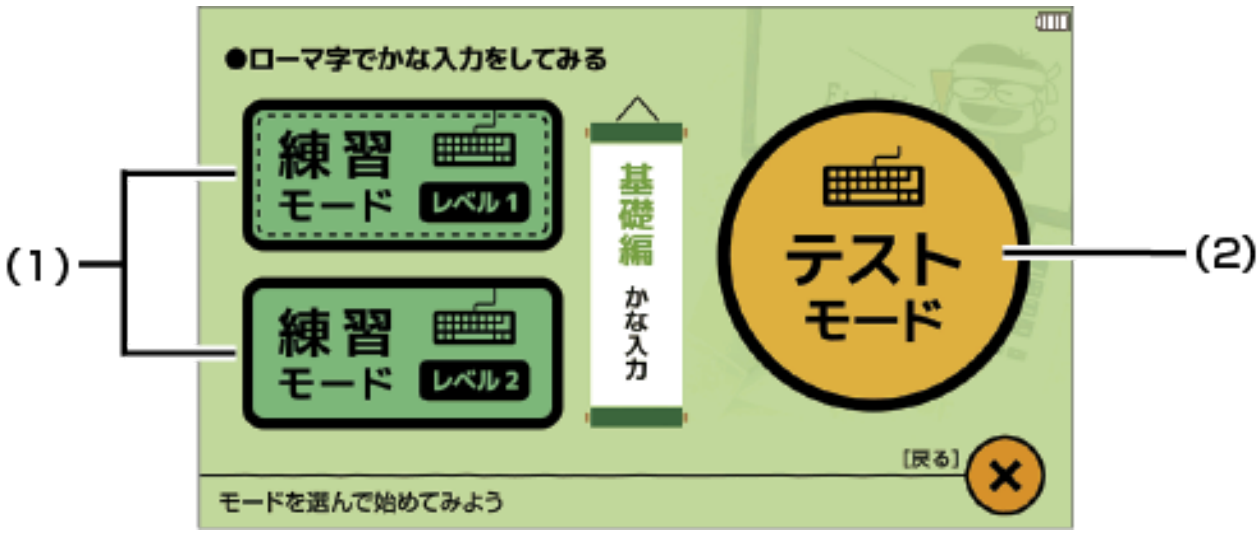


2. 表示されているアルファベットに対応するキーを押します。
   - 押したキーの位置が、画面上で青く表示されます。
   - 正しいキーが押されたときは次の問題に移ります。
   - 誤ったキーが押されたときは同じ問題を繰り返します。
   - 問題表示後、５秒経過すると、ヒント（画面上で正しいキーの位置が赤く表示）が表示されます。
   - 問題はランダムに出題されます。

3. 全アルファベット（26文字）の練習が終わると、タイプミスの回数が表示されます。[戻る]を押すか、画面の⊗にタッチして終了してください。練習の途中でも終了できます。

ローマ字でかなを入力する

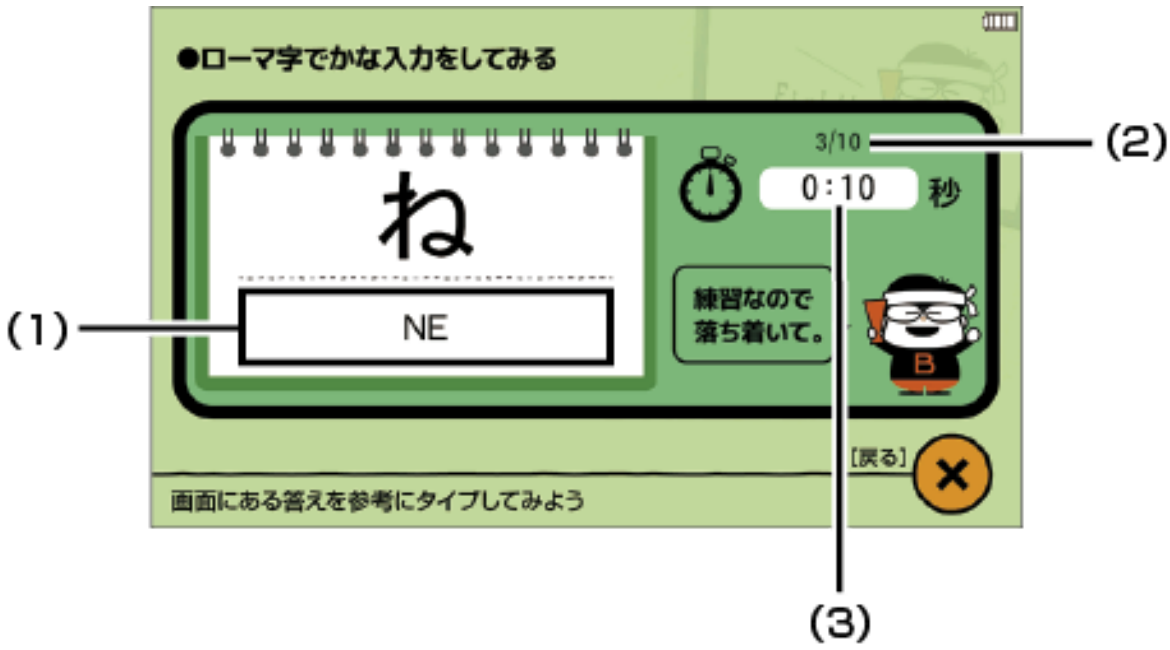
メインメニュー画面から「ローマ字でかなを入力」を選びます。選択メニュー画面が表示されます。



(1) 練習モード：
「かな」と対応するローマ字が表示されますので、入力確認しながら練習できます。問題はランダムに10問出題されます。レベル１とレベル２があります。
・ レベル1：ローマ字かな変換表の1文字のものから出題されます。
・ レベル2：ローマ字かな変換表の全体から出題されます。
※それぞれ出題範囲は、メインメニュー画面の「ローマ字かな変換表はコチラ」をタッチして参照してください。
(2) テストモード：
対応するローマ字が画面に表示されないので、正しいローマ字入力を覚えているどうか確認できます。問題はランダムに20問出題されます。

練習モード

1. 選択メニュー画面で「練習モード レベル1」または「練習モード レベル2」を選びます。
2. カウントダウンが終了すると問題が開始します。



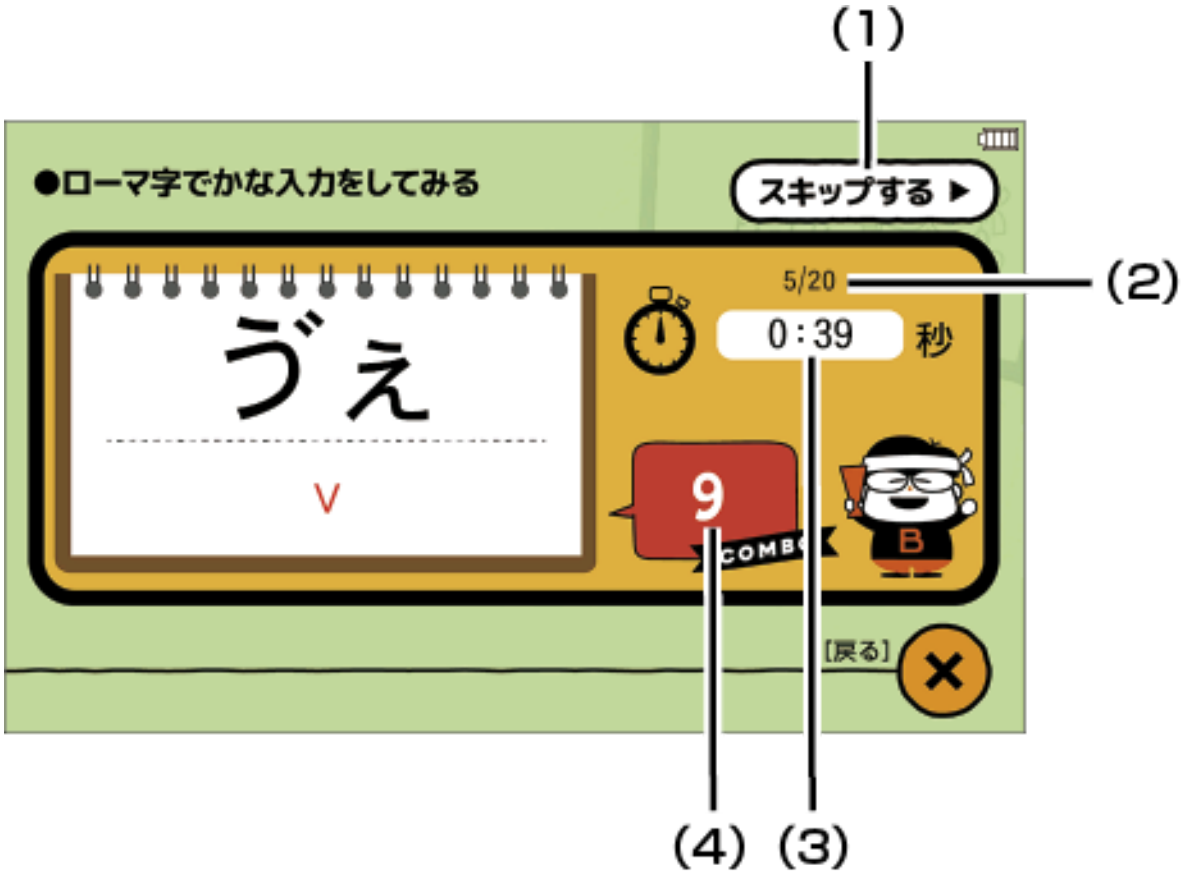
(1) ローマ字表示
(2) 何問目/問題数
(3) 経過時間（分：秒）

3. ローマ字表示を確認しながら、「かな」に対応するローマ字を押します。
    ・ 正しいキーが押されたときはそのアルファベットが赤色で表示されます。
    ・ 誤ったキーが押されたときはその問題の最初の文字から入れ直します。
    ・ その問題のアルファベット（ローマ字）がすべて正しく押されたときは次の問題へ移ります。
4. 10問終了すると終了画面が表示されます。
    ・ 正解率（誤りなくキー入力ができた問題の割合）、ベストタイムや過去3回のタイムが表示されます。
    ・ もう一度練習するときは「もう一回」をタッチします。
    ・ 終了するときは画面の「終了する」や⊗にタッチするか、[戻る]を押して終了してください。練習モードの途中でも⊗

や[戻る]で終了できます（ただしタイムは記録されません）。

テストモード

1. 選択メニュー画面で「テストモード」を選びます。
2. カウントダウンが終了すると問題が開始します。



(1) 表示されている問題をスキップできます。ただしタイムは記録されません。
(2) 何問目/問題数
(3) 経過時間（分：秒）
(4) 連続正解タイピング数が表示されます（5以上のとき）。誤ったキーが押されたらリセットされます。

3. 表示されている「かな」に対応するローマ字を押します。

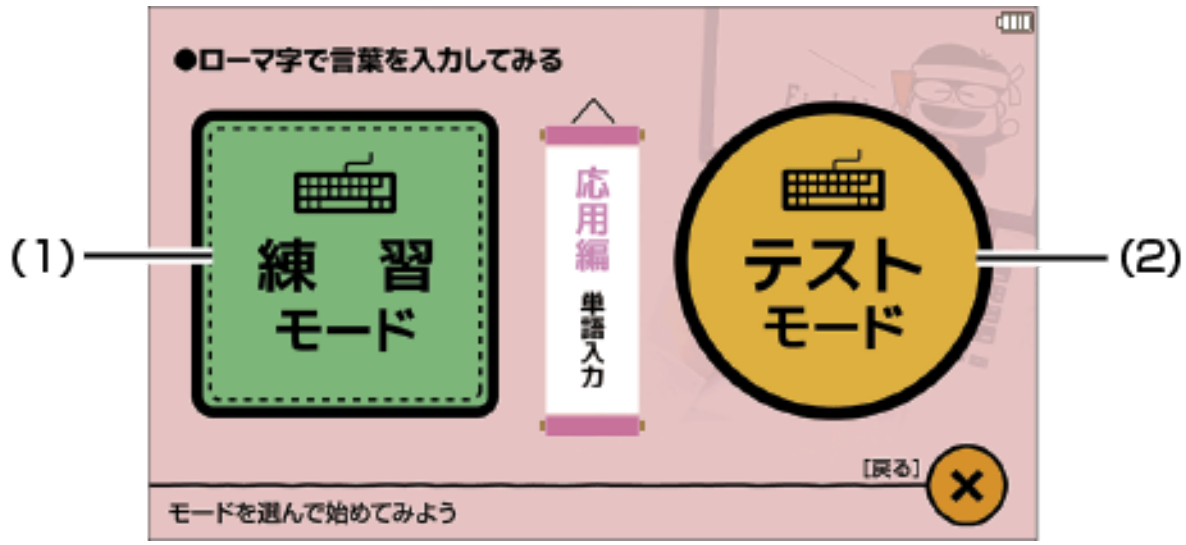
・ 正しいキーが押されたときはそのアルファベットが赤色で表示されます。
・ 誤ったキーが押されたときはその問題の最初の文字から入れ直します。
・ その問題のアルファベット（ローマ字）がすべて正しく押されたときは次の問題へ移ります。
・ わからないときは「スキップする」にタッチしてください。正解が表示されます。「次の問題へ」にタッチして次の問題へ移ってください。

4. 20問終了すると終了画面が表示されます。
・ 最高COMBO数（連続正解タイピング数の最高値）、正解率（誤りなくキー入力ができた問題の割合）、ベストタイムや過去3回のタイムが表示されます。（ただしスキップしたときはタイムは記録されません）。
・ もう一度テストするときは「もう一回」をタッチします。
・ 終了するときは画面の「終了する」や⊗にタッチするか、[戻る]を押して終了してください。テストモードの途中でも⊗や[戻る]で終了できます（ただしタイムは記録されません）。

ローマ字で言葉を入力する

1. メインメニュー画面から「ローマ字で言葉を入力」を選びます。

選択メニュー画面が表示されます。



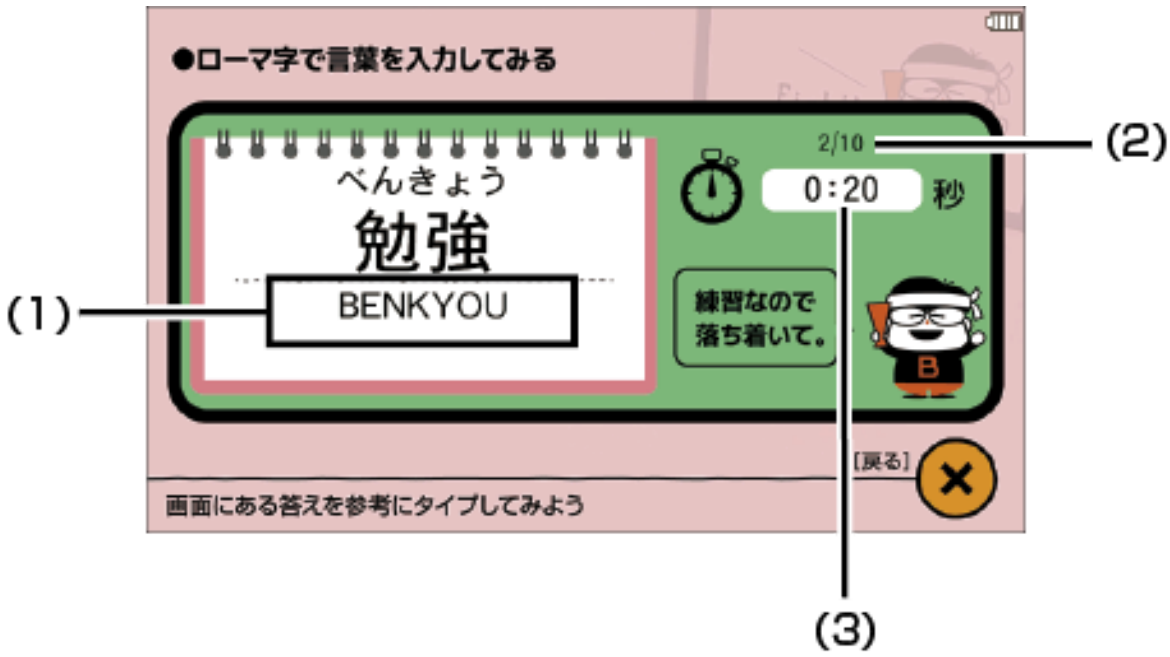
(1) 練習モード：
言葉（単語）とローマ字入力の正解例が表示されますので、入力確認しながら練習できます。問題はランダムに10問出題されます。
(2) テストモード：
ローマ字入力の正解例が画面に表示されないので、正しいローマ字入力を覚えているどうか確認できます。問題はランダムに20問出題されます。

二参考二

練習モードで表示されるローマ字は正解例です。たとえば、「つ」のときは「TU」と表示されますが「TSU」も正しく入力されます。

練習モード

1. 選択メニュー画面で「練習モード」を選びます。
2. カウントダウンが終了すると問題が開始します。



(1) ローマ字表示（正解例）
(2) 何問目/問題数
(3) 経過時間（分：秒）

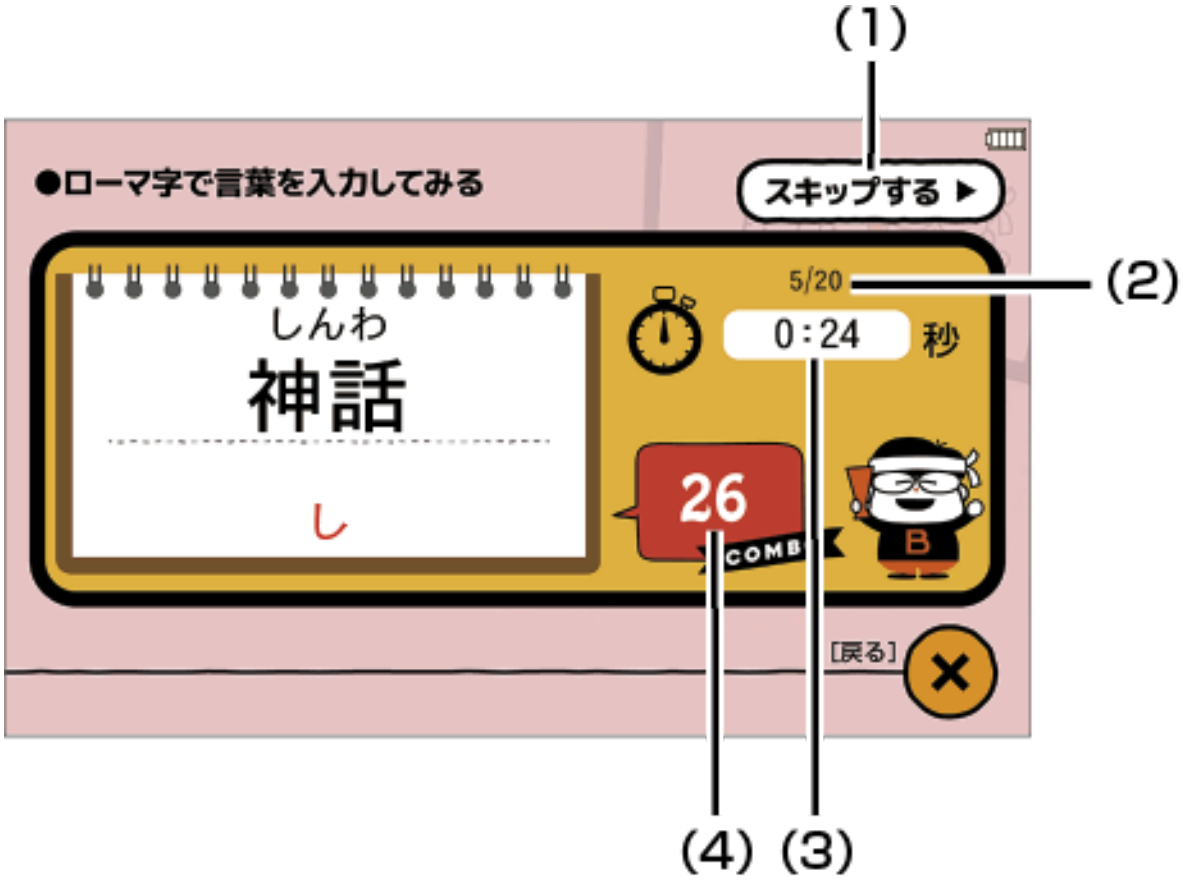
3. 表示されている言葉に対応するローマ字を押します。
・ 正しいキーが押されたときはそれに対応する「かな」や「アルファベット」が赤色で表示されます。
・ 誤ったキーが押されたときは、その問題の最初の文字から入れ直します。
・ その問題の「かな」入力がすべて正しいときは次の問題へ移ります。

4. 10問終了すると終了画面が表示されます。
・ 正解率（誤りなくキー入力ができた問題の割合）、ベストタイムや過去3回のタイムが表示されます。
・ もう一度練習するときは「もう一回」をタッチします。
・ 終了するときは画面の「終了する」や⊗にタッチするか、[戻る]を押して終了してください。練習モードの途中でも⊗

や[戻る]で終了できます（ただしタイムは記録されません）。

テストモード

1. 選択メニュー画面で「テストモード」を選びます。
2. カウントダウンが終了すると問題が開始します。



(1) 表示されている問題をスキップできます。ただしタイムは記録されません。
(2) 何問目/問題数
(3) 経過時間（分：秒）
(4) 連続正解タイピング数が表示されます（5以上のとき）。誤ったキーが押されたらリセットされます。

3. 表示されている言葉の「かな」に対応するローマ字を押します。
    ・ 正しいキーが押されたときはそれに対応する「かな」や「アルファベット」が赤色で表示されます。
    ・ 誤ったキーが押されたときはミス表示され、その問題の最初の文字から入れ直します。
    ・ その問題の「かな」がすべて正しく入力されたときは次の問題へ移ります。
    ・ わからないときは「スキップする」にタッチしてください。正解が表示されます。「次の問題へ」にタッチして次の問題へ移ってください。
4. 20問終了すると終了画面が表示されます。
    ・ 最高COMBO数（連続正解タイピング数の最高値）、正解率（誤りなくキー入力ができた問題の割合）、ベストタイムや過去3回のタイムが表示されます。（ただしスキップしたときはタイムは記録されません）。
    ・ もう一度テストするときは「もう一回」をタッチします。
    ・ 終了するときは画面の「終了する」や⊗にタッチするか、[戻る]を押して終了してください。テストモードの途中でも⊗や[戻る]で終了できます（ただしタイムは記録されません）。

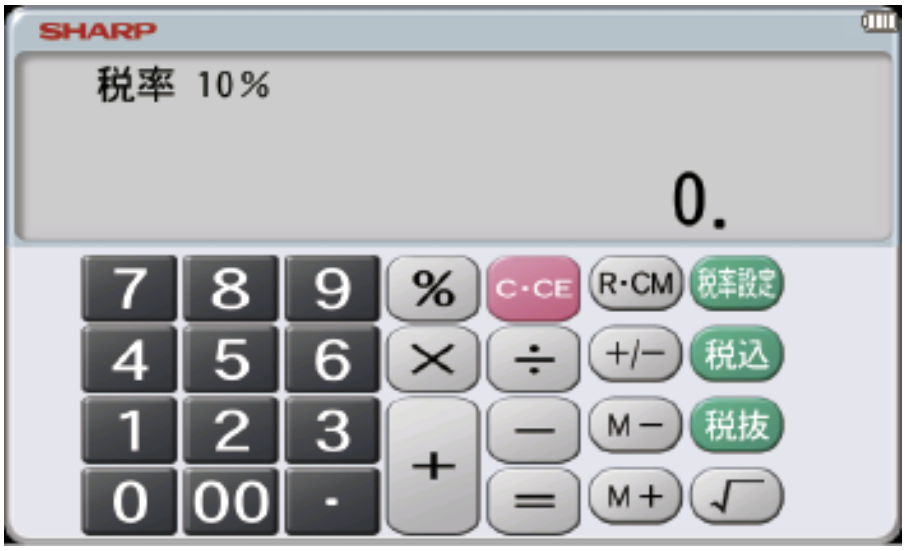
■電卓/便利計算機能を使う

四則計算や消費税計算、通貨や単位の換算、年号や年齢の計算ができます。

電卓で計算をする

12桁までの加減乗除、消費税、メモリー計算などができます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「ツール」－「電卓/便利計算」を選びます。
　電卓/便利計算の機能選択画面が表示されます。
2. 「電卓」にタッチします。電卓画面が表示されます。
　・電卓を終了するときは[戻る]を押します。
　・ホーム画面などで操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「電卓」をタッチすると、電卓画面を直接表示できます。



二参考二

計算を始める前に

● 計算を行う前に、［R·CM］［R·CM］［C·CE］［C·CE］とタッチして、メモリーと表示をクリアしてから始めてください。

● 負の数が最初にくるときは、減算記号（［－］）を負数シンボル（マイナス）として計算を始めることができます。

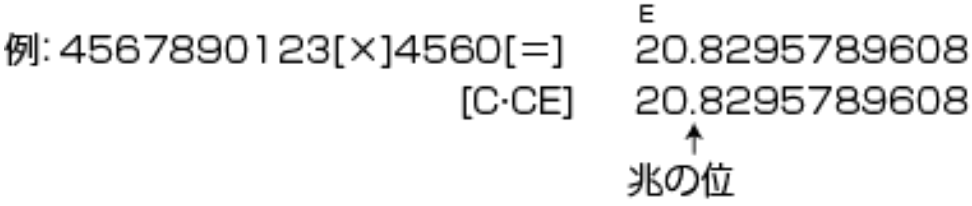
● 入力中に数字を入れ間違えたときは［C·CE］をタッチして、もう一度入れ直してください。

● 計算の途中や結果を示すため、画面に“＝”、“Ｍ＋”、“Ｍ－”、“＋”、“－”、“×”、“÷”が表示されますが、以降の計算例では、これらの表示は省略しています。
“＝”は［＝］または［%］をタッチしたとき、その他の“Ｍ＋”、“＋”などは、それぞれのキーをタッチしたときに表示されます。

こんなときはエラーが出ます

＊ 計算結果の整数部が13桁以上になったときや、除数が0の除算をしたときなどは、画面に「E」が表示されて、その後の計算ができなくなります。［C･CE］をタッチしてエラー状態を解除してください。

次のような概数表示では、小数点は兆の位を示します。



	計算例	操作	表示(答)
加減乗除	(−24)÷4−2=	[C·CE][C·CE] 24[+/−][÷]4[−]2[=]	−8.
定数計算	34+57= 45+57=	34[+]57[=] (加数が定数 45 [=] となります)	91. 102.
	68×25= 68×40=	68[×]25[=] (被乗数が定数 40[=] となります)	1'700. 2'720.
パーセント計算	200の10%は?	200[×]10[%]	20.
	9は36の何%	9[÷]36[%]	25.
割増割引	200の10%増しは?	200[+]10[%] (または200[×]10[%][+][=])	220.
	500の20%引きは?	500[−]20[%] (または500[×]20[%][−][=])	400.
べき乗	$4^6=(4^3)^2=$	4[×][=][=][×][=]	4'096.
ルート計算	$\sqrt{25-9}=$	25[−]9[=][√]	4.
逆数計算	1/8=	8[÷][=]	0.125
税込計算 税抜計算	25000円の 税込額(10%)	25000[税込]	税込 27'500.
	税額(10%)	[税込]	税額 2'500.
	税込額が12650円と550円の合計額	12650[+]550[=]	13'200.
	税抜額(10%)	[税抜]	税抜 12'000.
	税額(10%)	[税抜]	税額 1'200.
メモリー計算	(累計)	計算の前にメモリーを消去します ↳[R·CM][R·CM]	※
	25× 5=	25[×] 5[M+]	M 125.
	−) 84÷ 3=	84[÷] 3[M−]	M 28.
	+) 68+17=	68[+]17[M+]	M 85.
	(計)=	[R·CM]	M 182.
	(定数記憶)	[R·CM][R·CM]	
		12[+]14[M+]	M 26.
	135×(12+14)=	135[×][R·CM][=]	M 3'510.

※メモリーに0以外の数値が入ると、“M”が表示されます。

［M＋］、［M－］は［＝］の働きもかねています。

消費税率を変更する

消費税率の変更があったときに行います。

1. 電卓画面で［税率設定］にタッチします。消費税率を設定する画面が表示されます。
2. 税率を入力し［決定］を押して設定します。
    ・小数点を数えずに、4桁の範囲で設定できます。

通貨換算をする

通貨のレートを設定する

4種類の通貨レートが設定できます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「ツール」－「電卓/便利計算」を選びます。
    電卓/便利計算の機能選択画面が表示されます。
2. 「通貨換算」にタッチします。
    画面は「通貨①」～「通貨④」の4画面あり、［レート切替］をタッチして切り替えます。
3. ［レート設定］にタッチします。
    通貨・レート設定画面が表示されます。
4. 通貨名と通貨レートを入力します。
    ＊ 通貨名の入力は、4文字以内の英大文字で通貨名を入力します。左右の入力項目は［◀］、［▶］でカーソルを移動させて選びます。
    ＊ 「通貨1」の通貨名の欄には、あらかじめ左側に「USD」（米ドル）、右側に「YEN」（円）が入力されています。

＊ 通貨・レートの入力は小数点を数えずに、10桁の範囲で入力できます。

＊ 設定内容を変更するときは、変更したい欄へカーソルを移し、[削除]にタッチして内容を消してから新しい内容を入力してください。

5. ［決定］を押します。通貨レートが設定されます。

通貨を換算する

事前に通貨レートを設定しておいてください。

1. 通貨換算画面で換算する金額（例：「19800」）を入力します。
2. ［レート切替］をタッチして換算する通貨（例：「通貨USD⇔YEN」）を選びます。
3. 例えば［換算→］をタッチして換算します。

・［換算→］で左の通貨から右の通貨へ、［←換算］で右の通貨から左の通貨へ換算します。換算された金額が表示されます。

＊ 入力は、例えば「2475×8=」のような計算をして入れることもできます。

＊ 別の金額を換算するときは、そのまま数値を入力するか、［C･CE］で数値を消してから、新たに入力します。

単位換算をする

単位換算機能で、長さや重さ、温度の単位を換算することができます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「ツール」－「電卓/便利計算」を選びます。
　電卓/便利計算の機能選択画面が表示されます。
2. 「単位換算」にタッチします。
3. ［単位切替］をタッチして換算する単位（例：「feet⇔m」）を選びます。
4. 数値を入力します。
5. 「通貨を換算する」と同様の操作で単位を換算します。

＊ この製品では、次のような単位の換算ができます。

長さ1	inch（インチ） ⇔cm（センチメートル）
長さ2	feet（フィート） ⇔ m（メートル）
長さ3	yard（ヤード） ⇔ m（メートル）
長さ4	mile（マイル） ⇔ km（キロメートル）
重さ1	常用oz（オンス） ⇔ g（グラム）
重さ2	常用lb（ポンド） ⇔ kg（キログラム）
温度	℉（華氏） ⇔ ℃（摂氏）

＊ 上記単位の常用ポンド、常用オンスは、1ポンド＝16オンスになります。

年号計算をする

西暦593～2117年の間で西暦と和暦、干支などを調べることができます。

西暦や和暦の年数から調べる

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「ツール」－「電卓/便利計算」を選びます。
　電卓/便利計算の機能選択画面が表示されます。

2. 「年号計算」にタッチします。
3. 年号など（例：「西暦」）を選び、年数の入力欄へ年数（例：「1850」）を入力します。該当する年から順番にリスト（一覧）表示されます。
4. “➡”マークを目的の年数へ移し、［決定］を押します。
その年の詳細画面が表示されます。

和暦の読みから西暦を調べる

1. 上記画面の和暦読みの入力欄へ読み（例：「ぶんえい」）を入力します。
入力した読みで始まる和暦が50音順にリスト（一覧）表示されます。
2. 上記手順4と同様の操作で、目的の和暦、目的の年を選んでいきます。

年齢計算をする

年齢や誕生年（生まれた年）、干支などが調べられます。

年齢を調べる

誕生年がわかっているとき、何歳になるのかを調べます。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「ツール」－「電卓/便利計算」を選びます。
電卓/便利計算の機能選択画面が表示されます。
2. 「年齢計算」にタッチします。
年齢計算の機能選択画面が表示されます。
3. 「年齢を調べる」にタッチします。

誕生年と現在年の入力画面が表示されます。
4. 年号など（例：「昭和」）を選び、誕生年入力欄へカーソルを移して生まれた年（例：「10」）を入力します。
5. ［▼］でカーソルを下段へ移して、年号など（例：「西暦」）を選び現在年（例：「2021」）を入力します。
6. ［決定］を押します。詳細画面に年齢が表示されます。

誕生年を調べる

年齢がわかっているとき、何年生まれかを調べます。

1. 年齢計算の機能選択画面で「誕生年を調べる」にタッチします。
現在年と年齢の入力画面が表示されます。
2. 年号などを選び、現在年、年齢を入力して［決定］を押します。
詳細画面に生まれた年が表示されます。

年齢になる年を調べる

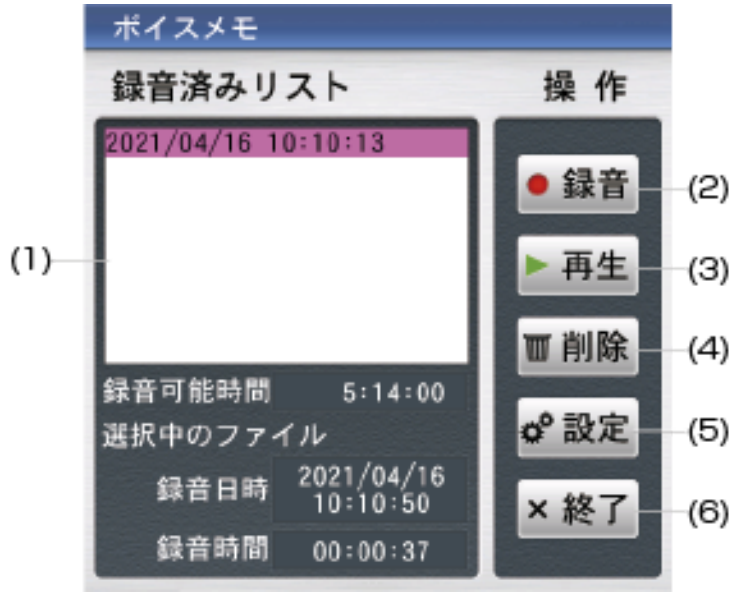
誕生年がわかっているとき、ある年齢になるのが何年なのかを調べます。

1. 年齢計算の機能選択画面で「年齢になる年を調べる」にタッチします。
誕生年と年齢の入力画面が表示されます。
2. 年号などを選び、誕生年、年齢を入力して［決定］を押します。
詳細画面に、指定した年齢になる年が表示されます。

■ボイスメモを使う

ボイスメモでは、音声の録音／再生ができます。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「ボイスメモ」をタッチします。
　ボイスメモ画面が表示されます。



(1) 録音済みリスト：録音されているデータ名の一覧が表示されます。再生、削除する場合は、［▼］、［▲］で選択してください。

(2)［録音］：録音画面が表示され、録音を開始します。録音を停止する場合は、録音画面の［停止］をタッチしてください。

(3)［再生］：再生画面が表示され、選択されている録音済データを再生します。再生を停止する場合は、再生画面の［停止］をタッチします。一時停止する場合は、［一時停止］をタッチしてください。

(4)［削除］：削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

(5) ［設定］：保存先、音質/録音可能時間を変更できます。
(6) ［終了］：ボイスメモ画面を閉じます。

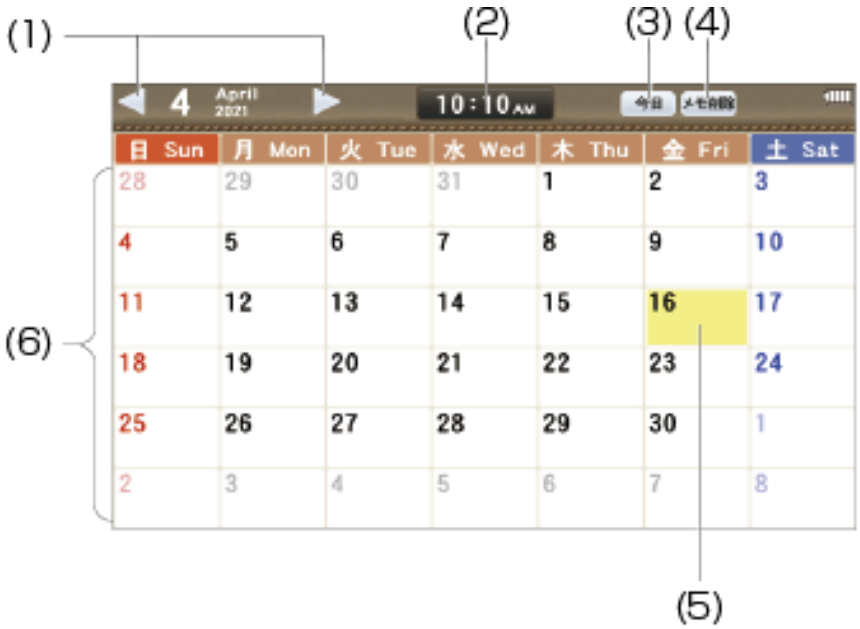
二参考二

ボイスメモは、1ファイルおよそ60分、500件まで録音可能です。ただし、空き容量がない場合は録音できません。

■カレンダーを使う

カレンダーでは、手書き編集機能によりメモを書き込むことができます。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「カレンダー」をタッチします。
カレンダー画面が表示されます。
・カレンダーを終了するときは、カレンダー画面のときに[戻る]を押します。



(1) 月切替：ひと月単位で表示を切り替えます。

(2) 現在時刻：現在の時刻を表示します。
(3) 今日：本日日付のある月に移動します。
(4) メモ削除：メモ削除ウィンドウが表示され、期間を指定して削除またはすべてを削除できます。
(5) 本日日付：本日の日付欄を黄色で表示します。
(6) 日付表示エリア：日付をタッチすると編集ウィンドウが表示されます。



［新規］：アイコン選択、手書き登録ができます。
［編集］：登録済の内容に対して編集ができます。
［削除］：登録内容を削除します。
［休日］：休日として登録します。
※ [戻る]を押していくと、編集した内容が登録されカレンダーの画面に戻ります。

二参考二

● 予定は1日あたり3件までで、300日分登録可能です。ただし、空き容量がない場合は登録できません。
● カレンダー画面に表示されたアイコンを別の日付までドラッグすると、予定が登録されている日付を変更することができます。

■タイマーを使う

タイマーでは、設定した長さの時間にアラームを鳴らすことができます。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「タイマー」をタッチします。
   タイマー画面が表示されます。
2. ［1時間］、［10分］、［1分］をタッチしてアラームを鳴らすまでの時間を設定します（1分単位で設定可能）。
   ・設定時間を0にしたい場合は［リセット］をタッチしてください。
3. ［スタート］をタッチするとカウントが開始され、指定時間が経過するとアラームが鳴ります。
   ・（最小化アイコン）をタッチするとタイマーをアイコン化し、他の機能を使用中でもそのアイコンをタッチするとタイマーを表示できます。またカウント中に最小化してもカウントは続行され、指定時間が経過するとアラームが鳴ります。
   ・カウントを一時停止するときは[ストップ]をタッチします。再開するときは[スタート]をタッチします。
4. ［リセット］をタッチするとアラームが停止します。
   ・オートパワーオフが働くまでアラームは鳴り続けます。
5. にタッチして終了します。

★注意★

- タイマーカウント中はオートパワーオフ機能が働きません。

● タイマーカウント中に電源が切れると、カウントが一時停止されます。カウントは次に電源を入れたタイミングから自動的に開始します。
● ボイスメモ録音中に指定時間が経過した場合、アラームは鳴りませんので注意してください。

二参考二

タイマーは、3時間59分まで計れます。

■手紙文を作成する

「手紙文作成」は、質問に答えていくだけで手紙の文例を作成することができます。実際に手紙を書くときには、作成した文例を参照しながら書くことができます。

1. [ツール]を押し、ツールジャンプメニューから「手紙文作成」を選びます。
   文例種類選択画面が表示されます。
2. 文例の種類、タイトルを選びます。
   質問が表示されます。
3. 答えを選び［決定］を押すと、次の質問が表示されますので、順番に答えていきます。※
   ※ 時候の挨拶文を選ぶ場合は、画面下に表示されるメッセージにしたがって［≫］、［≪］で採用する挨拶文を表示させ［決定］を押して採用します。
4. 最後の質問に対する答えの選択が終わると「作成終了しました」と表示した後、作成した文例が表示されます。

二参考二

● 質問を表示しているときや、作成が終了した直後では、［戻る］を押すと１つ前の質問に戻ります。
● 作成終了後、［シフト］［クリア］を押すと文例種類選択画面に戻ります。
● 文例の中の★マークで示された部分は、手紙を書くとき、ご自身の状況に合った内容に書き換えてください。

作成した手紙文（文例）の保存は

作成した文例は「履歴」として、最新のものから100件まで記憶されます。

・ 呼び出すときは手紙文作成の画面で、［履歴］を押して表示されるリスト（一覧）画面で、見たい文例のタイトルを選び［決定］を押します。
・ 手紙文の作成を中止するときは
手紙文作成中に［シフト］［クリア］を押したときや、他の機能を選択したときは、手紙文の作成中止確認画面が表示されます。このとき、［Y］を押すと手紙文の作成が中止されます。［N］を押すと、手紙文作成の画面に戻ります。

■自動単語帳を使う

英語や国語などの対象コンテンツで、検索し詳細画面を表示した見出し語が、「自動単語帳」に自動で登録されます。
登録された単語は、科目別にリスト表示され、暗記学習に活用することができます。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「自動単語帳」をタッチします。
自動単語帳のリスト画面が表示されます。



次の科目のコンテンツが自動単語帳の対象コンテンツになります。

英語

　ジーニアス英和辞典

現代文

　大辞林4.0

　明鏡国語辞典

　漢字源

古文

　旺文社 全訳古語辞典

日本史

　旺文社 日本史事典

世界史

旺文社 世界史事典

自動単語帳へ登録する

対象コンテンツで検索し詳細画面を表示した見出し語が、自動で登録されます。

【例】「interest」を自動単語帳へ登録する

1. ジーニアス英和辞典で「interest」の詳細画面を表示します。
2. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「自動単語帳」にタッチします。
3. 科目選択タブの「英語」をタッチします。
    ・自動単語帳のリスト画面で、interestが登録されていることが確認できます。

二参考二

● 詳細画面を表示するだけで登録されますが、対象コンテンツの見出し語のみが登録可能です。見出し語に無い成句や例文は登録されません。

● コンテンツが違う同じつづりの単語はそれぞれ登録されます。

● 全科目合計で5000件まで見出し語を登録できます。

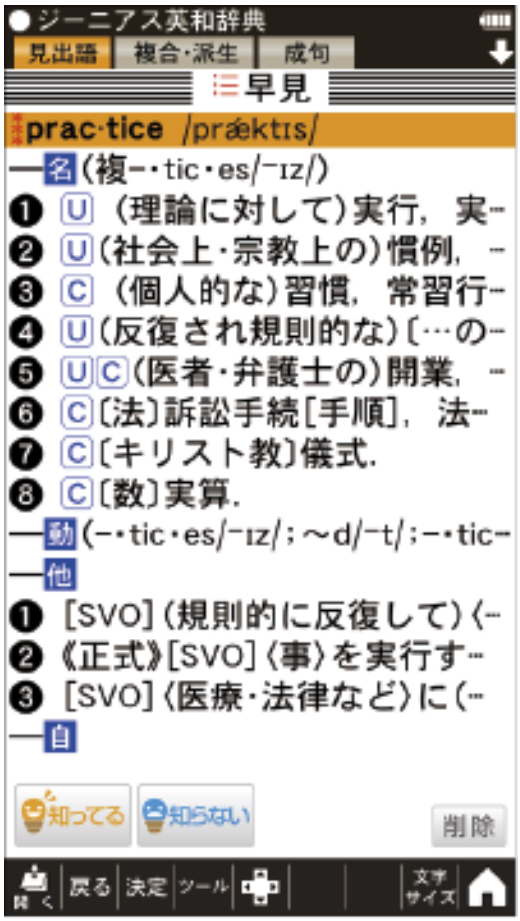
リスト表示から単語を学習する

1.自動単語帳のリスト画面を表示し、科目選択タブをタッチして科目を選択します。［«］、［»］にタッチすると隠れている科目が表示されます。

2.学習したい単語をタッチします。

画面はドラッグしてページを送ることができます。また操作タッチキーの[✣（カーソル）]を使って画面のページを送ることもできます。

3.意味確認画面が表示されます。意味を確認しやすいように箇条書き（早見）で表示されます（派生語などは詳細画面を表示します）。



4.意味を確認するなど学習します。

・操作タッチキーの[決定]をタッチしたり、画面上部の「成句」などのタブをタッチすると、各辞書の詳細画面表示に変わりますので、より詳しく学習することができます。

5.「知ってる」または「知らない」にタッチしてください。

・意味やつづりなどを覚えたときは「知ってる」にタッチしてください。

・再び学習が必要と思われるときは「知らない」にタッチしてください。

6.リスト画面に戻ります。

・「知ってる」をタッチしたときは、知ってる欄の💡マークが増えます（最大３個まで）。「知らない」をタッチしたときは、知ってる欄の💡マークが減ります。💡マークの数で習熟度が確認できます。

進捗を見る

1.自動単語帳のリスト画面を表示し、科目選択タブをタッチして科目を選択します。

2.「進捗を見る」をタッチします。進捗状況をグラフ表示で確認することができます。



ニ参考ニ

１日の学習目標は、ホーム画面の「設定」－「１日の学習目標設定」で変更できます。

復習テストで学習する

復習テストでは、自動単語帳に登録されている単語からランダムに出題されます。（復習テストの出題範囲を設定できます。詳しくは『復習テストの出題範囲を設定する』を参照してください。）

1. 自動単語帳リスト画面の「復習スタート」をタッチします。
自動単語帳に登録されている単語が１つ、ランダムに選択され表示されます。
選択している科目が対象になります。



2. 「知ってる」または「知らない」にタッチしてください。
・意味やつづりなどを覚えているときは「知ってる」にタッチしてください。
・まだ学習が必要と思われるときは「知らない」にタッチしてください。
・「意味を確認」をタッチすると意味確認画面が表示されます。なお、意味確認画面からジャンプできないなど制限があります。
3. 次の単語がランダムに選択され表示されます。
4. 手順2～3を繰り返します。
5. 復習テストでの学習が終了するとその科目のリスト表示画面が表示されます。

二参考二

● 中断するときは操作タッチキーの[戻る]をタッチします。
● 上記手順2のときに画面上部の[次へ]をタッチすると、表示中の単語をスキップして、次の単語へ進むことができます。

復習テストの出題範囲を設定する

復習テストの出題範囲を設定できます。
1. 自動単語帳のリスト画面で「テスト設定」をタッチします。
設定画面が表示されます。
2. 「調べてからの期間」と「💡の数」をタッチして選択します。
・調べてからの期間：設定した期間に調べた（登録された）単語から出題されます。たとえば、「1週間以内」を選択すると、１週間以内に調べた（登録された）単語から出題されます。







・💡の数：設定した💡数の単語から出題されます。たとえば、💡数が1以下の単語から出題したいときは、「💡」と「なし」を選択してください。



3. 「設定」をタッチします。

自動単語帳から削除する

単語を１件ずつ削除する方法

意味確認画面で、画面右下の[削除]をタッチし、[はい]をタッチします。

リスト画面では、削除したい単語を選択（反転表示）し、操作タッチキーの[開く]－[削除]から削除します。



単語をまとめて削除する方法



操作タッチキーの[開く]－[設定]から、設定メニュー画面を表示します。

設定メニュー画面のページを送って「ユーザーデータ削除」にタッチし、「自動単語帳削除」から「すべて」または科目を選んでタッチし、[はい]をタッチします。



進捗(💡数)をまとめて削除する方法



操作タッチキーの[開く]－[設定]から、設定メニュー画面を表示します。

設定メニュー画面のページを送って「ユーザーデータ削除」にタッチし、「自動単語帳進捗(💡数)削除」から「すべて」または科目を選んでタッチし、[はい]をタッチします。



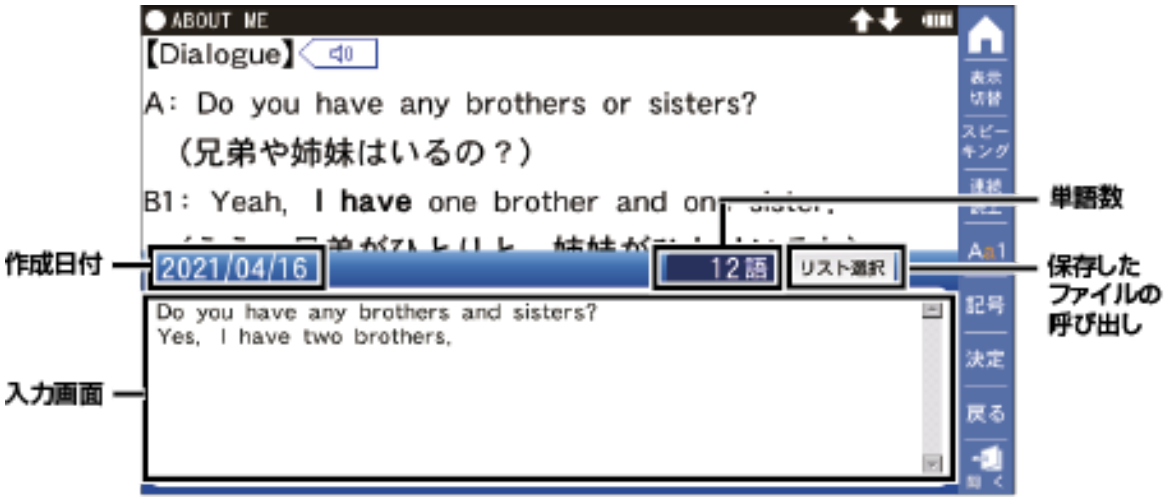
＝参考＝

自動単語帳から単語を削除しても、履歴や各辞書の単語帳からは削除されません。履歴については『一度調べた語を再度調べたいとき（履歴を使う）』、単語帳については『繰り返し見たい語を登録する（単語帳・マーカーを使う）』を参照してください。

■英作ボード スピーキングプラスを使う

コンテンツの内容や例文を見ながら、英文を作成することができ、英作文の学習に役立てることができます。入力した文章は文書ごとにファイルとして保存したり、連続して読み上げたり、聞き比べ（スピーキング）たりすることができます。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「英作ボード スピーキングプラス」をタッチします。
「英作ボード スピーキングプラス」画面が表示されます。



二参考二

● 「英作ボード スピーキングプラス」は次の方法で呼び出すこともできます。

・コンテンツの詳細画面で、操作タッチキーから[英作ボード]にタッチする。

・画面に表示されているアイコン（「英作ボード スピーキングプラス」の最小化アイコン）をタッチする。（このときは前回の状態で呼び出されます。）

● 「英作ボード スピーキングプラス」を新規に呼び出したとき（最小化アイコンの表示がないとき）は、新規の入力画面が表示されます。

英文を入力する

1. 「英作ボード スピーキングプラス」を呼び出すと、入力画面が表示されます。

・入力できる文字の種類は以下のとおりです。（日本語は入力できません。）

アルファベット（A～Zの大文字/小文字）

数字（0～9)

記号（ピリオド"."、コンマ","、など32種類）

.	,	’	?	!	”	(	)
#	$	—	=	^	~	{	}
%	&	+	*	/	\	[	]
@	`	;	:	_	|	<	>

・操作タッチキーの[Aa1]から文字の種類を切り替えてそれぞれの文字を入力します。

[A]：アルファベット大文字

[a]：アルファベット小文字

[1]：数字

・記号は操作タッチキーの[記号]をタッチ、またはキーボードの［あA1/記号］を押すと、記号入力用画面が表示されます。入力したい記号をタッチ、またはカーソル選択を移動させて[決定]を押します。
・アルファベットはキーボードから入力します。[シフト]を押しながらアルファベットキーを押して入力すると、大文字/小文字を切り替えて入力できます。
・スペースを入力するときは[スペース/変換]を押します。改行するときは[決定]を押します。
・学習スタイル（タッチ操作方式）のときは、ソフトキーボードから入力します。
・カーソル位置に文字が入力されます。［▼］、［▲］、［◀］、［▶］で追加したい位置にカーソルを移して文字を入力してください。
・内容を削除するときは、［▼］、［▲］、［◀］、［▶］で削除したい文字の後ろにカーソルを移して[削除]を押してください。
・ピリオドやコンマを行頭に表示しない、行末では単語の途中で改行しない、など自動調整されます。
・［シフト］［クリア］と押すと入力した文字がすべて削除されます。

2. 入力が終わりましたら、[戻る]を押して終了します。
・入力した内容は自動で保存されます。

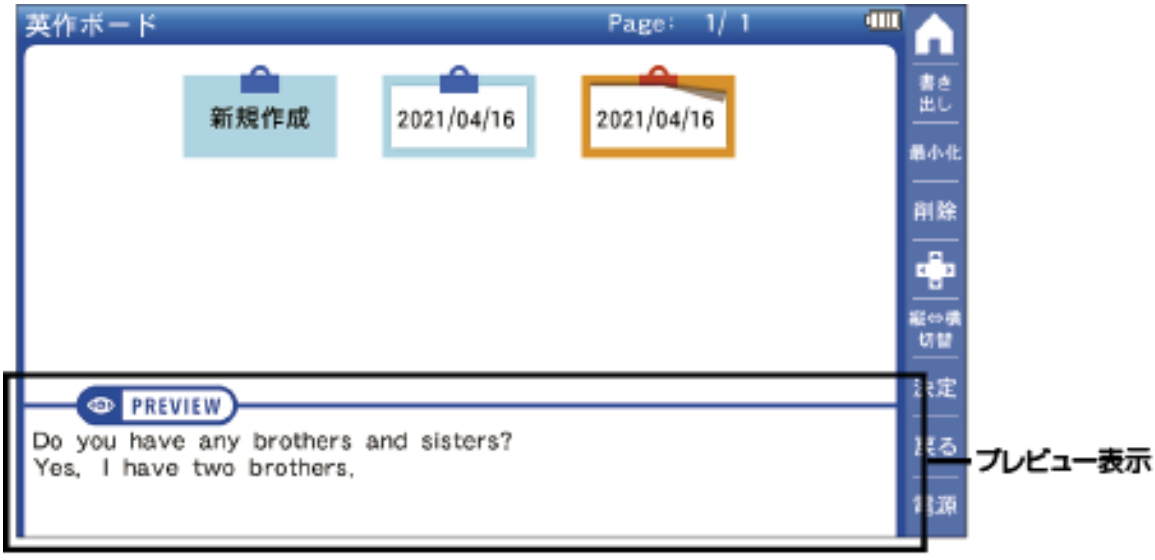
画面表示を変更する

・操作タッチキーの[表示切替]にタッチすると、上半分表示、全画面表示、下半分表示、と表示が切り替わります。コ

ンテンツの内容を確認しながら入力するときは、上半分表示や下半分表示にしてください。
・[シフト][文字大]や[シフト][文字小]を押すと画面表示の文字サイズを３段階で変更できます。
・表示フォントはホーム画面の「設定」－「フォント設定」に従います。
・操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[最小化]にタッチすると、アイコン化されて画面に表示されます。別のコンテンツを参照するときは、アイコン化してコンテンツを変えることができます。アイコンをタッチすると前回の状態で呼び出されます。

保存したファイルを呼び出す

「英作ボード スピーキングプラス」の入力画面右上の「リスト選択」から、保存したファイルを呼び出すことができます。編集できる状態で呼び出されます。



・目的の日付アイコンにタッチして呼び出してください。
・カーソル操作で選択を移動させると、プレビュー表示で内容（一部）を確認できます。

・[新規作成]アイコンにタッチすると白紙の入力画面が表示されます。
・選択したファイルを削除するときは操作タッチキーの[削除]をタッチします。

二参考二

- 200ファイルまで保存できます。
- コピー/ペースト機能はありません。

連続読み上げ

操作タッチキーの[連続読上]をタッチして入力した内容を読み上げることができます。詳しくは、『英語、日本語、中国語（簡体字）の読み上げ（TTSでの音声読み上げ）』の『連続読み上げ』を参照してください。

スピーキング（聞き比べ）

「英作ボード スピーキングプラス」で作成した文章について、TTS（合成音声）の読み上げと自分の発音を聞き比べることができます。スピーチの練習に便利です。
作成した文章全体を聞き比べたり、1文ずつ聞き比べたりできます。

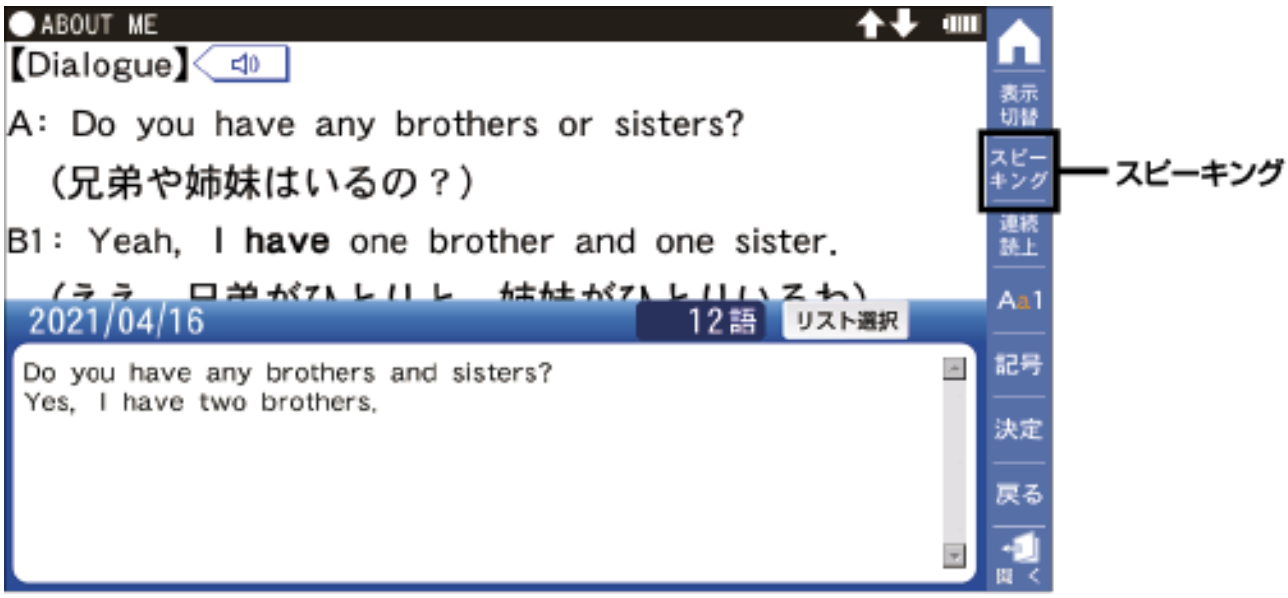
二参考二

マイクの音量調整などは『マイクを使う』を参照してください。

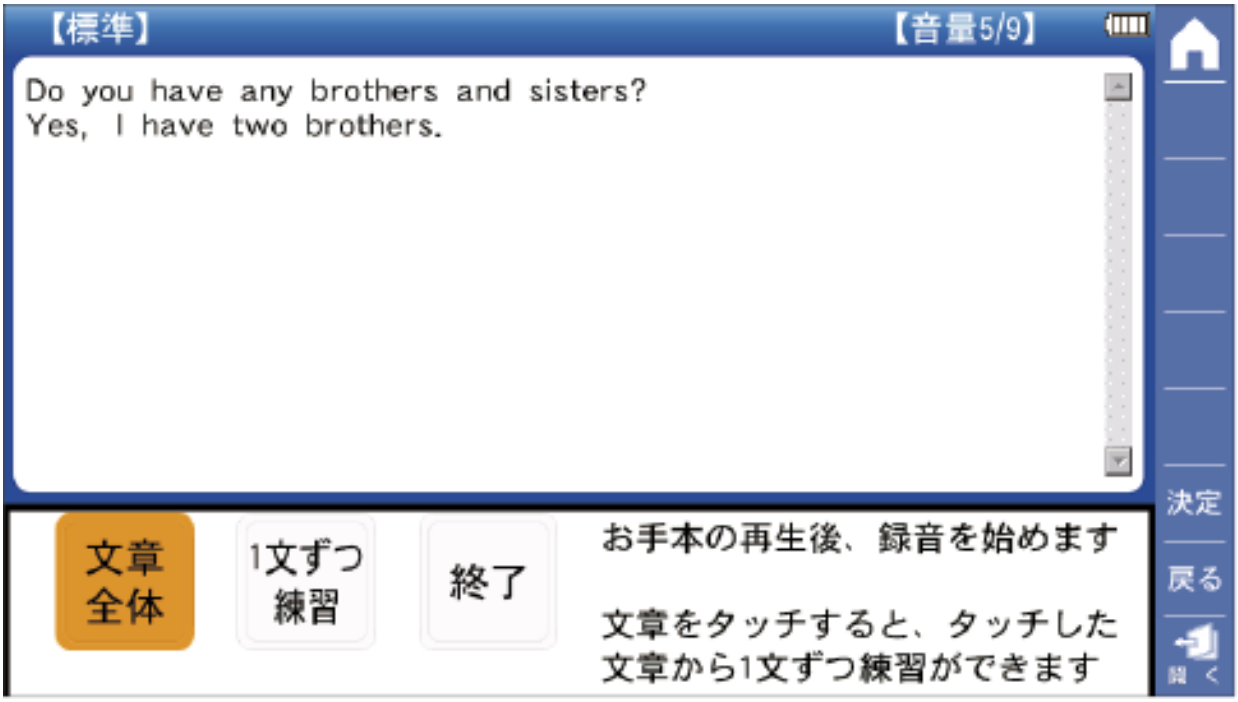
文章全体を聞き比べる

1. 聞き比べたい文章を表示します。

2. 操作タッチキーの[スピーキング]をタッチします。



3. 「文章全体」にタッチします。



4. 英文の先頭から最後まで連続で読み上げます。
5. 読み上げが終了すると、自動で録音が開始されます。
    ・マイクに向かって発音してください。

・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。

6. 発音（発話）が完了したら、「録音終了」にタッチします。
7. 再度、英文を連続で読み上げ、続いて、録音された音声が再生されます。

・聞き比べてください。

・途中で終了するときは[決定]または[戻る]を押してください。

8. 再生が終了すると選択メニューが表示されます。

・もう一度聞き比べるときは「もう一度聞く」にタッチしてください。

・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。手順4からやり直しになります。

・聞き比べを終了するときは「終了」にタッチまたは[戻る]を押してください。

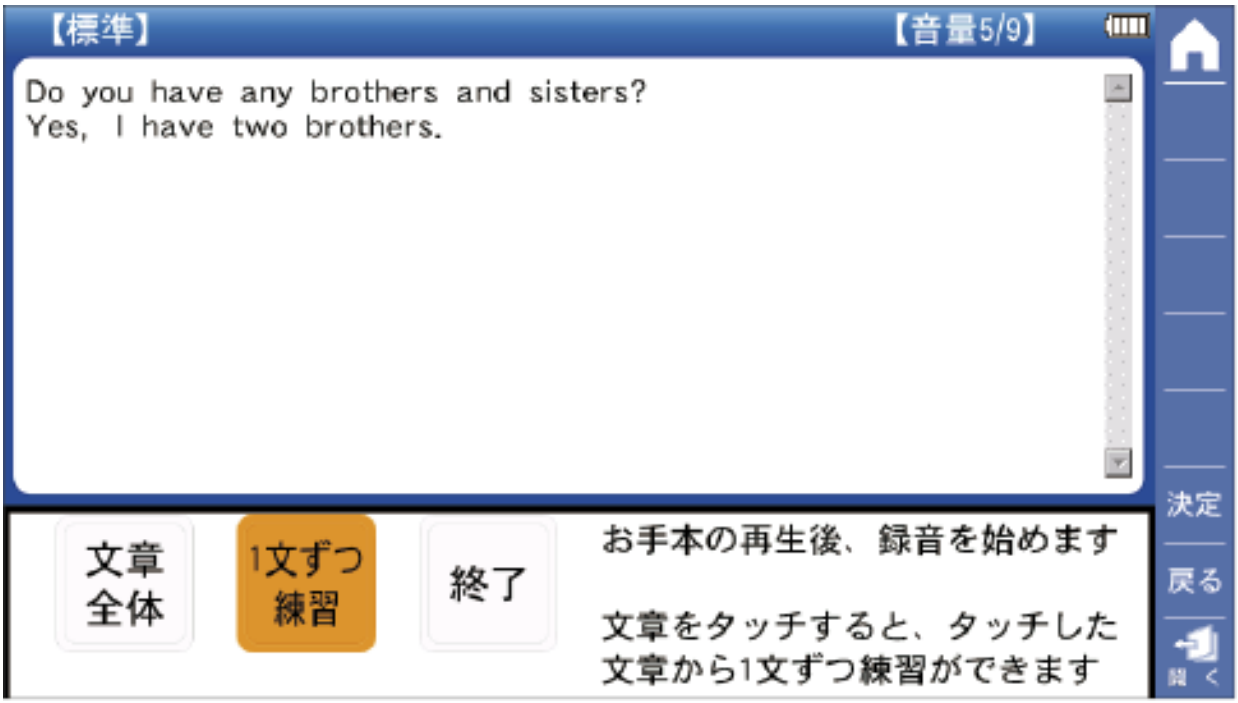
このとき録音データを保存するかどうかの確認画面が表示されます。保存するときは[Y]を押してください。録音データはボイスメモのファイルとして保存され、あとでボイスメモを使って再生できます。ボイスメモについては『ボイスメモを使う』を参照してください。

二参考二

録音時間は最大約15分間です。約15分経過すると録音が終了します。また本体メモリーが少ないときは録音可能時間が短くなる、あるいは録音できない（聞き比べできない）ことがあります。

1文ずつ聞き比べる

1. 聞き比べたい文章を表示します。
2. 操作タッチキーの[スピーキング]をタッチします。
3. 練習したい文にタッチすると、その文の読み上げが始まります。
    ・「1文ずつ練習」にタッチすると、文章の先頭の文の読み上げが始まります。



4. 読み上げが終了すると、自動で録音が開始されます。
    ・マイクに向かって発音してください。
    ・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。
5. 発音（発話）が完了したら、「録音終了」にタッチします。
6. 英文の読み上げに続いて、録音された音声が再生されます。
    ・聞き比べてください。
7. 再生が終了すると選択メニューが表示されます。
    ・もう一度聞き比べるときは「もう一度聞く」にタッチしてください。

・次の文を練習するときは「次」にタッチしてください。また、練習したい文にタッチすると、その文の練習を開始します。
・録音をやり直すときは「やり直し」にタッチしてください。英文の読み上げが始まり手順4からやり直しになります。
・聞き比べを終了するときは「終了」にタッチまたは[戻る]を押してください。

二参考二

録音時間は最大約1分間です。約1分経過すると録音が終了します。

■フォトスライドで写真を見る

フォトスライドはデジタルカメラで写した写真データ、またはパソコンから写真データや画像データを市販のmicroSDメモリーカードや、本体メモリーに入れて見ることができる機能です。写真を１枚ずつ見たり、スライドショーで（自動的に切り替えながら）見ていくことができます。

表示できる画像データの形式　：JPEG形式※（拡張子：.JPEG、.JPG）
※一部のデータを除く
表示できる画像データの最大容量：約10MB（メガバイト）
表示できる画像データの最大サイズ：5000×5000ドット
・デジタルカメラが上記カードを使用している場合は、そのカードをこの電子辞書に装着して写真を見ることができます。デジタルカメラが他のカードを使用している場合は、パソコンを利用して、DCIMフォルダごと上記カードにコピー

し、そのカードを装着して写真を見ます。なお、フォルダ名は“DCIM”以外も使用可能です。

・カードは『カードの取り付け/取り外し』を参照して取り付け/取り外しを行ってください。

★注意★

カードや本体メモリーに入れた写真データは、使用誤り・静電気/強度の外来ノイズ・事故・カードの紛失/破壊などにより失われることがあります。写真データは必ずパソコンなどに保存しておいてください。

写真を見る

１枚ずつ見る

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「フォトスライド」をタッチします。
2. 必要に応じ「カード」または「本体」にタッチして、本体メモリーとカードメモリーを切り替えます。

写真のアルバム、または写真データ（ファイル）やフォルダのリストが表示されます。

・「アルバム」、「リスト」にタッチして画面を切り替えることができます。

3. 表示させたい写真データを選び［決定］を押します。写真1件表示画面が表示されます。

二参考二

● 別のフォルダ内の写真データを選ぶ場合はリスト画面で［戻る］を押して現在開いているフォルダを閉じ、別のフォルダを選

んでください。
● 装着されているカードを交換するまでは、以前、フォルダやアルバムを開いていると「フォトスライド」を選んだとき、そのフォルダやアルバムが開きます。なお、カードを交換しても、カードの名前やフォルダ名などが同じときは、同じカードと見なしてフォルダやアルバムが開く場合があります。
● 「表示できません」と表示されるときは、ファイルサイズが大きすぎたり、対応していない形式のデータのため、写真を表示できません。
● アルバム表示で、表示できない写真や、描画を中断したときの写真はグレー（灰色）表示になります。

★注意★
大きな容量のデータは表示に時間がかかることがあります。
また、一部のデジタルカメラの写真や、パソコンなどで扱った写真データは、アルバム表示に時間がかかることがあります。
アルバム画面で、画像を描画中に［▼］、［▲］、［▶］、［◀］などを押すと描画を中断することができます。

画面のサイズを変えて見る
通常の１件表示画面は、画面サイズより小さい写真はそのまま、大きい写真は画面に入るように縮小して表示します。このときのサイズを基準にし、1.5倍（×1.5）、2倍（×2）に拡大して表示させることができます。
１件表示画面で操作タッチキーの[拡大]/[縮小]にタッチして拡大/縮小できます。［シフト］+［▶］/ ［シフト］+［◀］の操作でも拡大/縮小できます。

・写真が画面サイズより大きくなると▼、▲、▶、◀マークで写真の一部が隠れていることを示します。このときは［▼］、［▲］、［▶］、［◀］を押すか、画像をドラッグして隠れた部分を見ることができます。

スライドショーを見る

フォルダ内の写真を順番に、自動的に表示させることができます。

1. 写真データのリスト画面やアルバム表示画面で、最初に表示させる写真データを選び（カーソルを移し）ます。写真１件表示画面からでも行えます。
2. 操作タッチキーの[スライドショー]にタッチします。

フォルダ内の写真データが順番に一枚ずつ表示されていきます。すべて表示すると、繰り返し最初から表示します。

・スライドショーを停止させるときは［決定］を押します。

・フォルダの中にフォルダがあるとき、中のフォルダ内の写真データは表示されません。そのフォルダを開いて表示させてください。

二参考二

スライドショーで１画面を表示させる時間は、「設定」の「写真の表示時間」で設定できます。

★注意★

USB接続時、スライドショー実行中はオートパワーオフ機能が働きません。電源を切り忘れないようにご注意ください。

操作メニューを使う

写真１件表示画面で「操作」をタッチすると、以下の操作メニューが表示されます。

1. スライドショーで見る（1回のみ）
2. スライドショーで見る（繰返し）

   この項目を選択すると表示している写真を先頭に、同じフォルダ内の写真を並び順で最後まで１回のみ、または繰り返して表示します。

   停止させるときは［決定］を押します。
3. 右に90度回転（一時）
4. 左に90度回転（一時）

   表示している写真を右に、または左に90度回転させます。

   ＊ 同じ操作をくり返せば写真を90度ずつ回転できます。

   ＊ 回転は他の写真を表示させるなど、画面を切り替えると解除されます。

   ＊ 写真を回転させると、写真の縮小率の指定は解除され、画面に合わせたサイズで表示されます。ただし回転後、縮小率を変えて見ることができます。
5. 写真の情報を見る

   写真のファイル名や画像サイズ、ファイルサイズなど、写真の情報が表示されます。

   ＊ 「カメラ」の項目は、メーカー名や機種名が表示されます。

   ＊ 写真に情報が付加されていない場合や、パソコンで登録し直すなどにより、情報が失われている場合などには表示されないことがあります。
6. オープニング画面に設定

表示されている写真を、電源を入れたときに表示されるオープニング画面に表示させるよう設定することができます。
この項目を選択すると、「この画面をオープニング画面として設定しますか？」の確認画面が表示されます。
この画面で［Y］を押すと、確認画面が表示されますので［Y］を押します。メッセージが表示されて写真が登録されます。
以降、電源を入れたとき、表示されるようになります。
設定した写真を表示させたくないときは、『オープニング設定』を参照して「表示なし」などに設定してください。

7. ホーム背景写真に設定
   表示されている写真を、ホーム画面／お気に入り画面の背景に表示させるよう設定することができます。
   この項目を選択すると、設定画面が表示されます。
   ［Y］を押すと、確認画面が表示されますので［Y］を押します。メッセージが表示されて写真が登録されます。
   以降、ホーム画面／お気に入り画面の背景に表示されるようになります。
   設定した写真を表示させたくないときは、『ホーム背景設定』を参照して設定してください。

設定メニューを使う

リスト画面やアルバム表示画面で「設定」をタッチして、設定メニューを表示させます。この設定メニューで、次の設定ができます。

1. 台紙の変更
   アルバム表示画面や写真1件表示画面で、写真の背景に表示される台紙を変更することができます。

項目を選択すると、台紙の選択画面が表示されます。
台紙を数字キーで選択、またはカーソルを移動させて選び［決定］を押して選択します。
台紙を変更した旨のメッセージを表示して、設定メニューに戻ります。

2. 写真の表示方向
携帯電話で写した写真など縦型の写真が多いときに、すべての写真を常に90度回転して表示するように設定できます。
この項目を選択すると、表示方向設定画面が表示されますので“✓”を設定したい項目に移し［決定］を押します。
選択した方向にする旨のメッセージを表示して、設定メニューに戻ります。

3. 写真の表示時間
スライドショーで１枚の写真を表示する時間を設定します。
この項目を選択すると、表示時間設定画面が表示されますので“✓”を設定したい時間に移し［決定］を押します。
表示する時間を設定した旨メッセージを表示して、設定メニューに戻ります。

★注意★

容量が大きい写真は、表示に時間がかかり、設定した表示時間で切り替わらないことがあります。

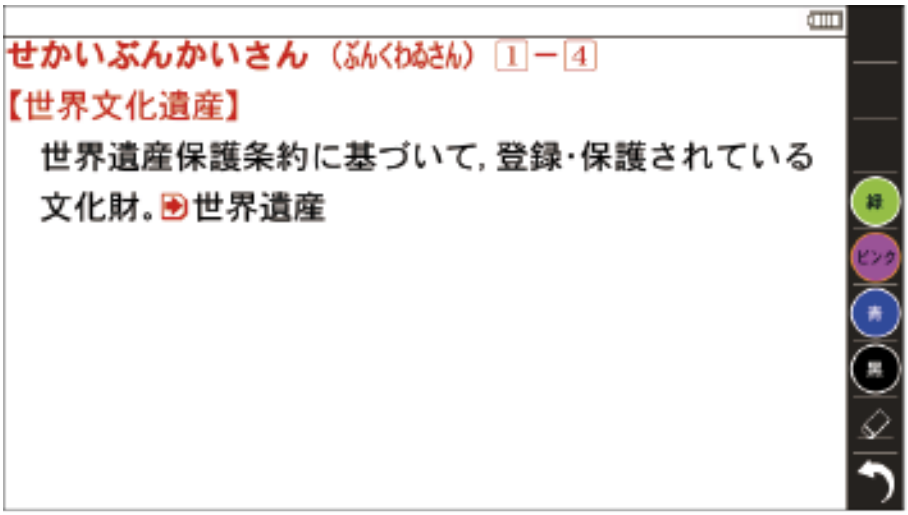
■手書き暗記メモを使う

詳細画面に、重要な内容、覚えたい内容が表示されたとき、その画面をコピーし、手書きでコメントなどを書き込んで保存することができます。保存した内容は、必要なときに確認したり、内容を覚えるために利用できます。

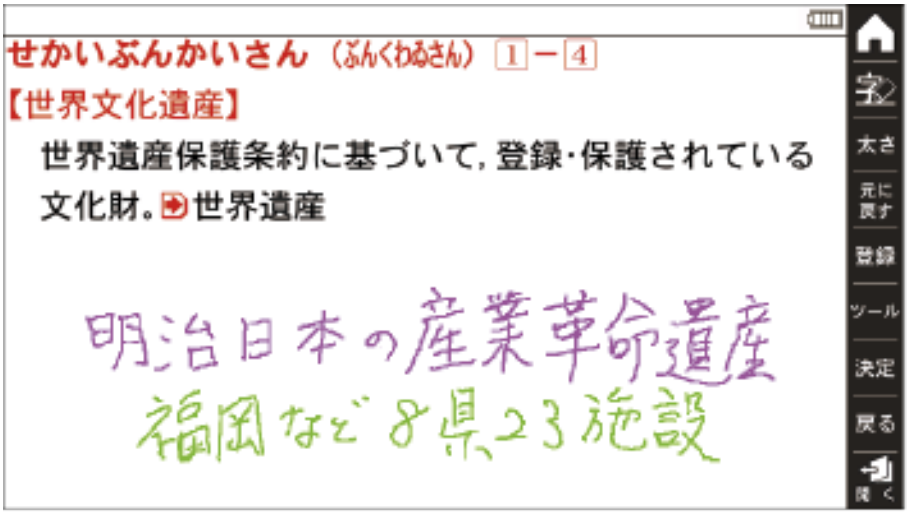
手書き暗記メモを登録する

コンテンツの詳細画面から登録する

1. 手書きメモを書き込みたい詳細画面を表示させます。
2. 操作タッチキーの[開く]をタッチしてから[暗記メモ作成]にタッチします。
3. 操作ガイドメッセージを確認後、画面にタッチするか、［決定］を押します。
4. 操作タッチキーの[]をタッチし、書き込む線の色を選択し、[太さ]で線の太さを選びます。



5. タッチペンで画面にメモしたいことを書き込みます。



6. 操作タッチキーの[登録]にタッチします。
[新規登録]を選択します。
メッセージが表示され、手書き暗記メモが登録されます。

二参考二

● 手書き暗記メモに書き込んだ内容は[登録]にタッチするまでは登録されません。
● 手書き暗記メモは100件まで登録できます。なお、カードへの登録はできません。
● 手書き暗記メモの画面では（読み上げ）や例、解説、図、などの機能は働きません。また、画面送りやスクロール、文字サイズの切り替えなどもできません。
● 手書き暗記メモを登録する前に［戻る］にタッチして作成を中止したときは各コンテンツの最初の画面に戻ります。

手書き暗記メモを見る・編集する

登録された手書き暗記メモを見たり、編集したりします。

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「手書き暗記メモ」をタッチします。

手書き暗記メモのリスト画面が表示されます。
2. ［▼］、［▲］で編集したい手書き暗記メモを選び、［決定］を押します。
3. 操作タッチキーの[編集]にタッチし、操作ガイドメッセージを確認後、［決定］を押します。
4. メモを書き直したり、追加したりします。
5. 操作タッチキーの[登録]にタッチし、登録方法などを選択します。

・編集したファイルを上書きするときは[上書き保存]にタッチします。

・編集したファイルを別ファイルとして新規保存するときは[新規登録]にタッチします。

・リスト画面で表示される順番は操作タッチキーの[リスト並び順]に表示される[新しい順]、[古い順]、[名前順]で切り替えることができます。

[名前順]は見出し語の文字により次の順番になります。

数字、英字、ひらがな・カタカナ、漢字など

手書き暗記メモを削除する

手書き暗記メモは、1件ずつの削除、すべての削除ができます。
手書き暗記メモを削除しても、元の辞書などのデータは削除されません。

手書き暗記メモを1件ずつ削除する

1. 操作タッチキーの[ツール]にタッチし、ツールジャンプメニューから「手書き暗記メモ」をタッチします。
2. 操作タッチキーの[削除]にタッチします。
3. 削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

手書き暗記メモをまとめて削除する

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選んでから「手書き暗記メモ削除」を選び［決定］を押します。
3. 削除の確認画面で［Y］を押して削除します。

設定

ここでは、使いやすく設定を変える方法を説明します。

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
   設定メニュー画面が表示されます。
2. ［≫］［≪］で画面を送り、画面タッチをするか、［▼］［▲］で各項目を選び［決定］を押します。
   設定や切り替えなどを行う画面が表示されます。

   以降、上記と同様の操作は、次のように説明します。
   例：設定メニュー画面で「明るさ調整」を選びます。

二参考二

● 操作タッチキーの[設定]にタッチしても設定メニュー画面を表示できます。
● 設定メニュー画面右端の表示は、現在設定されている内容です。

■ダイレクトキーの設定

[国語/漢字]によく使う国語辞典を登録する

（初期状態では「大辞林4.0」を登録しています）

1. 設定メニュー画面で「ダイレクトキー設定」－「国語辞典の登録」と選んで[決定]を押し国語辞典の選択画面を表示させます。
2. [▼]、[▲]で“✓”を移動させてよく使う国語辞典（例えば「明鏡国語辞典」）を選び[決定]を押します。
「明鏡国語辞典」が登録され、ダイレクトキー設定画面に戻ります。
3. [ホーム]、[戻る]などを押して終了します。

[My辞書]によく使うコンテンツを登録する

（初期状態では「家庭医学大全科」を登録しています）

1. 設定メニュー画面で「ダイレクトキー設定」－「My辞書の登録」を選んで［決定］を押し分類の選択画面を表示させます。
2. ［▲］、［▼］で選択を移動させて分類を選び［決定］を押し、コンテンツの選択画面を表示させます。
3. ［▼］、［▲］で選択を移動させてよく使うコンテンツを選び[決定]を押します。
選んだコンテンツが登録され、ダイレクトキーの設定画面に戻ります。
4. ［ホーム］、［戻る］などを押して終了します。

■一括検索対象コンテンツ設定

一括検索の対象となるコンテンツを選択して、調べたいコンテンツを絞り込むことができます。

1. 設定メニュー画面で「一括検索対象コンテンツ設定」を選んで［決定］を押します。一括検索対象コンテンツの選択画面が表示されます。
2. 検索対象にしたいコンテンツにチェックマーク（✓）をつけます。チェックマークがついているコンテンツにタッチするとチェックが外れます。
3. [決定]を押して設定します。

■オープニング設定

［⏻］で電源を入れたときや、本体を開いて電源が入ったときに一定時間表示される画面（オープニング画面）を設定します。（初期状態では「表示なし」に設定しています。）

「オートデモ」
　商品紹介を表示します。
「写真」
　カード内、または本体内のメモリーにフォトスライドで表示できる画像がある場合に、その中の１枚を設定して表示させます。
　※画面の設定方法は『フォトスライドで写真を見る』をご覧ください。画面を設定すると、その画面データが本体に保存され、カードがなくても表示できるようになります。なお、保存される画面データは1枚のみです。
「表示なし」
　オープニング画面は表示しません。

「所有者情報」
登録した所有者情報を表示します。※所有者情報の登録方法は『所有者情報設定』をご覧ください。

1. 設定メニュー画面で「オープニング設定」を選んで［決定］を押しオープニング設定の選択画面を表示させます。
初期状態では「表示なし」になっています。
2. ［▼］、［▲］で“✓”を移動させてオープニングの設定を選び［決定］を押します。

オープニング画面を停止してコンテンツを使いたいときは

オープニング画面表示中に［決定］など、いずれかのキーを押します。

オープニング画面を表示しないようにするには

手順2.で「表示なし」を選んで［決定］を押します。

オープニング画面表示用の写真データを削除するには

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選び［決定］を押します。
3. ［▼］、［▲］で「オープニング写真削除」を選び［決定］を押します。
4. 削除の確認画面が表示されるので［Y］を押します。

オープニング画面表示用として本体に保存されていた写真データが削除されます。オリジナルの写真データは削除されません。
（オープニング設定は「表示なし」になります。）

★注意★

● 「オートデモ」に設定してmicroUSBケーブルでパソコンやACアダプターに接続している場合、［⏻］で電源を切っても自動的に電源が入って商品紹介を行います。
電源を切るときは、microUSBケーブルを取り外してください。

● 「オートデモ」に設定しているときは所有者情報の設定ができません。

■ホーム背景設定

ホーム画面／お気に入り画面の背景に表示する内容を設定します。
（初期状態では「背景1(名前表示なし)」に設定しています。）

「背景1(名前表示なし)」
「背景2(名前表示なし)」
「背景3(名前表示なし)」
プリインストール済みの写真（画像）を表示させることができます。背景1～3まで３枚あります。
「背景1(名前表示あり)」
「背景2(名前表示あり)」
「背景3(名前表示あり)」
名前を登録している場合に選択可能になります。プリインストール済みの写真上に登録した名前を表示します。※名前の登録方法は『所有者情報設定』をご覧ください。
「写真(名前表示なし)」
任意の写真を１枚表示させることもできます。任意の写真は、カード内、または本体内のメモリーにフォトスライド

で表示できる写真や図があるときに、その中の１枚を設定できます。
※任意の写真の設定については『フォトスライドで写真を見る』をご覧ください。設定すると、その画面データが本体に保存され、カードがなくても表示できるようになります。なお、保存される画面データは1 枚のみです。

「写真(名前表示あり)」
名前を登録している場合に選択可能になります。任意の写真上に登録した名前を表示します。※名前の登録方法は『所有者情報設定』をご覧ください。

1. 設定メニュー画面で「ホーム背景設定」を選んで［決定］を押しホーム背景設定の選択画面を表示させます。
初期状態では「背景1(名前表示なし)」になっています。
2. ［▼］、［▲］で“✓”を移動させてホーム背景の設定を選び［決定］を押します。

二参考二

● 写真の表示は、ホーム画面／お気に入り画面の背景エリア（固定）です。
● 写真は画面横幅に合わせて表示されますので、写真の一部が表示されないことがあります。

ホーム背景表示用の写真データを削除するには

1. ホーム画面の「設定」を選びます。
2. ［▼］、［▲］で「ユーザーデータ削除」を選び［決定］を押します。

3. ［▼］、［▲］で「ホーム背景写真削除」を選び［決定］を押します。
4. 削除の確認画面が表示されるので［Y］を押します。
ホーム背景表示用として本体に保存されていた写真データが削除されます。オリジナルの写真データは削除されません。
（ホーム画面／お気に入り画面の背景にその写真が表示されなくなります。）

■所有者情報設定

名前、写真（顔写真など）やメモ（学校名、会社名など）を、所有者情報として、登録できます。
登録した所有者情報は、他人が変更や消去できないように暗証番号（パスワード）で保護されます。
また、電源を入れたときのオープニング画面として所有者情報を表示させることや、ホーム画面／お気に入り画面の背景に名前を表示させることもできます。

★注意★

● 暗証番号は所有者情報の保護用であり、電子辞書本体を保護（ロック）するものではありません。
● オープニング設定を「オートデモ」にしているときは所有者情報の設定ができません。

暗証番号と所有者情報を登録する

1. 設定メニュー画面で「所有者情報設定」を選んで［決定］を押し、所有者情報設定画面を表示させます。



2. [決定]を押して暗証番号の新規設定画面を表示します。
3. 数字8桁以内で暗証番号（例えば“01234567”）を入力して［決定］を押します。
4. 所有者情報の入力画面が表示され、「名前」の入力欄にカーソルが表示されます。

この画面で、名前などの所有者情報を入力します。



入力欄左の「あA1」にタッチして（または［あA1/記号］を押して）入力モードを切り替えます。

あA1：日本語を入力します。［スペース/変換］を押して漢字に変換し入力することができます。※
あA1：アルファベットを入力します。
あA1：数字を入力します。
※姓名など日本語の漢字を入力するときやカタカナを入力するときは、操作タッチキーの[手書き]にタッチして手書き入力すると便利です。

5. 登録したい情報があれば［▼］［▲］を押してカーソルを移動させ、「メモ１」～「メモ３」に入力します。
6. 写真を登録するときは、［▼］を押して写真枠を選択し[決定]を押してください。写真データのフォルダ選択画面になりますので、microSDメモリーカードや本体メモリーの写真データを選択してください。
・表示できる写真（画像）データの形式などは『フォトスライドで写真を見る』を参照してください。
7. ［決定］を押すと暗証番号と所有者情報が登録されます。

★注意★
● 一部の漢字は入力できません。
● 暗証番号を忘れると、所有者情報の変更や削除ができなくなります。
暗証番号は、必ず紙などに控え、他の人に見られない所に保管してください。誕生日や電話番号など、他の人に知られやすい番号は避けてください。
● 暗証番号と所有者情報は本体を初期化してもリセットされません。

なお、弊社では暗証番号の解除のご依頼をお受けすることはできません。

登録した所有者情報をオープニング画面に表示する

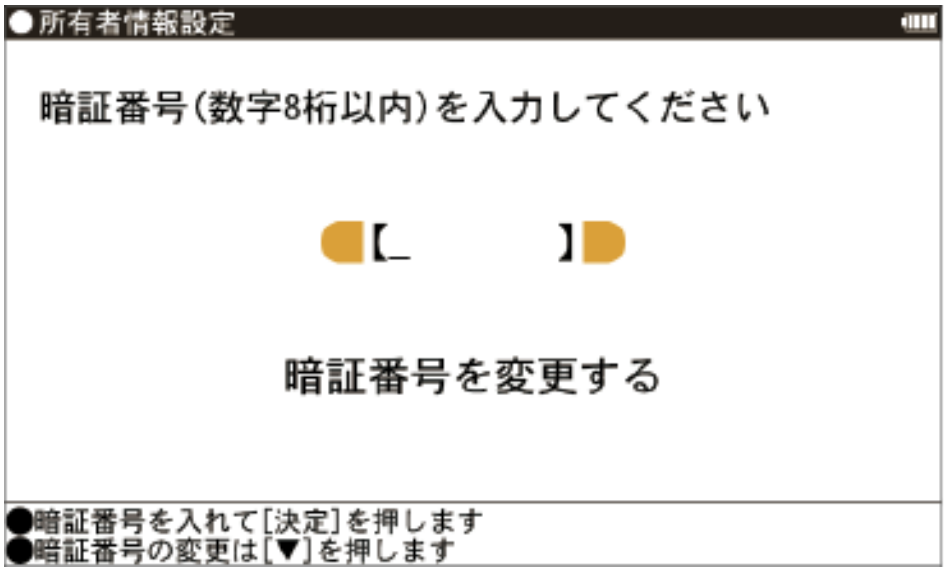
登録した所有者情報をオープニング画面に表示させるには、オープニング設定で「所有者情報」を選びます。（『オープニング設定』を参照）

登録した名前をホーム背景に表示する

登録した名前をホーム背景に表示させるには、ホーム背景設定で「～（名前表示あり）」を選びます。（『ホーム背景設定』を参照）

登録した暗証番号を変更する

1. 設定メニュー画面で「所有者情報設定」を選んで［決定］を押し所有者情報設定画面を表示させます。
2. 「変更する」を選んで[決定]を押し暗証番号の入力画面を表示します。



3. ［▼］でカーソルを「暗証番号を変更する」に移動し［決定］を押し暗証番号変更画面を表示させます。
4. 現在登録されている暗証番号を入力し、［▼］でカーソルを「新しい暗証番号」欄に移動し数字8桁以内で新しい暗証番号（例えば“76543210”）を入力します。
5. ［決定］を押すと新しい暗証番号が登録されます。

登録した所有者情報を変更する

1. 設定メニュー画面で「所有者情報設定」を選んで［決定］を押します。
2. 「変更する」を選んで[決定]を押し暗証番号の入力画面を表示します。
3. 暗証番号を入力し[決定]を押します。所有者情報の入力画面が表示されます。
4. 内容を変更し［決定］を押すと登録されます。

登録した暗証番号、所有者情報を削除する

1. 設定メニュー画面で「所有者情報設定」を選んで［決定］を押します。
2. [▶]でカーソルを「削除する」に移動し［決定］を押し暗証番号の入力画面を表示します。
3. 暗証番号を入力し[決定]を押します。削除の確認画面が表示されます。
4. ［Y］を押すと登録した暗証番号、所有者情報が削除されます。

■オートパワーオフ時間設定

キー操作またはタッチ操作がないとき、自動的に電源が切れる時間を設定します。
（初期状態では「5分後」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「オートパワーオフ時間設定」を選んで［決定］を押しオートパワーオフ時間の選択画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて時間を選び［決定］を押します。
オートパワーオフ時間が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

■明るさ調整

表示画面の明るさを調整します。
（初期状態では「明るさ３」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「明るさ調整」を選んで［決定］を押し明るさ調整画面を表示させます。
2. ［◀］［▶］か数字で明るさを選び［決定］を押します。
明るさが設定され、設定メニュー画面に戻ります。

■減光時間設定

減光時間を設定します。
（初期状態では「３０秒」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「減光時間設定」を選んで［決定］を押し減光時間設定画面を表示させます。

2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて減光時間を選び［決定］を押します。
減光時間が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

■プレビュー設定

プレビュー表示の入／切および表示位置を設定します。
（初期状態では「入(リスト画面で右に表示)」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「プレビュー設定」を選んで［決定］を押しプレビュー設定画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させてプレビュー設定を選び［決定］を押します。
プレビューが設定され、設定メニュー画面に戻ります。

■フォント設定

フォントを設定します。
（初期状態では「ゴシック体」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「フォント設定」を選んで［決定］を押しフォント設定画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させてフォントを選び［決定］を押します。
フォントが設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

コンテンツによっては当設定にかかわらず、既定のフォントで表示されます。

■表示方向切替設定

本体の形状と画面の表示方向を連動させるかどうか設定します。（初期状態では「連動する」に設定しています。）

「連動する」
本体が調べるスタイル（キーボード操作方式）のときは画面表示が横表示になり、学習スタイル（タッチ操作方式）のときは画面表示が縦表示になります。※
※一部の画面では横表示のみです。

「連動しない」
学習スタイル（タッチ操作方式）のときも横表示のままです。

1. 設定メニュー画面で「表示方向切替設定」を選んで［決定］を押し表示方向切替の設定画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて表示方向切替を設定し［決定］を押します。

表示方向切替が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

手動で縦横表示を切り替えることができます。『縦横表示切替について』を参照してください。

■学習スタイル時の動作設定

本体を調べるスタイル（キーボード操作方式)から学習スタイル（タッチ操作方式)にしたとき、現在表示されている内容ではなく、最近使用した暗記学習コンテンツや自動単語帳での学習を開始するか設定します。
（初期状態では「開始しない」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「学習スタイル時の動作設定」を選んで［決定］を押し選択画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて［決定］を押します。
学習スタイル時の動作が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

暗記学習コンテンツまたは自動単語帳の初回選択時に、「学習スタイルにしたときに、暗記学習の続きを始めるように設定しますか？」の確認画面が表示されます。（初回選択前に「学習スタイル時の動作設定」画面を表示した場合を除く。）
この画面で[Y]を押す（または「はい」にタッチする）と、「学習スタイル時の動作設定」が「開始する」に変更されます。[N]または[戻る]を押す（または「いいえ」にタッチする）と設定は「開始しない」のままで変更されません。

■ 1日の学習目標設定

自動単語帳、暗記学習コンテンツの毎日の学習目標を設定します。
（初期状態では「10問」に設定しています。）
設定した目標を達成するために、あと何問（何語）学習が必要か、進捗確認のときに表示されます。

1. 設定メニュー画面で「１日の学習目標設定」を選んで［決定］を押し選択画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて［決定］を押します。
１日の学習目標が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

● 自動単語帳の使いかたは『自動単語帳を使う』を参照してください。
● 暗記学習コンテンツの使いかたは『暗記学習コンテンツを使う』を参照してください。

■音声再生速度設定

音声再生速度を設定します。
（初期状態では「標準」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「音声再生速度設定」を選んで［決定］を押し音声再生速度の設定画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて音声再生速度を設定し［決定］を押します。
音声再生速度が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

この音声再生速度の設定は、大辞林のクラシック音楽や鳥の鳴き声などにも適用されます。

■音量設定

音量を設定します。
（初期状態では「音量５」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「音量設定」を選んで［決定］を押し音量設定画面を表示させます。
2. ［◀］［▶］か数字で音量を選び［決定］を押します。
音量が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

［シフト］［🔊+］、［シフト］［🔊ー］を押して音量を調整することもできます。

■マイク調整

マイク音量を調整します。
（初期状態では「５」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「マイク調整」を選んで［決定］を押しマイク調整画面を表示させます。
2. ［◀］［▶］か数字でマイク音量を選び［決定］を押します。
マイク音量が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

★注意★

●マイクに向かって発音してください。
●マイクを手などでふさがないでください。

■ユーザーデータ削除

単語帳削除、履歴/しおり削除、マーカー削除、手書き暗記メモ削除、自動単語帳進捗（数）削除、自動単語帳削除、オープニング写真削除、ホーム背景写真削除について、それぞれの機能の中で説明していますので参照してください。

■タッチパッド調整

タッチパッドは、ボタンなどが表示される位置と、実際にタッチしたと認識される位置がずれる場合があり、このずれが小さくなるように調整します。

1. 設定メニュー画面で「タッチパッド調整」を選んで［決定］を押しタッチパッドの調整画面を表示させます。左上に“＋”マークが表示されます。
2. 付属のタッチペンで、“＋”マークの中心（線の交点）に正確にタッチします。１秒以上タッチして離すと別の所に“＋”マークが表示されるので同様にします。“＋”マークは4カ所に表示されます。

調整が終わると設定メニュー画面に戻ります。

■日付と時刻の設定

1. 設定メニュー画面で「日付と時刻の設定」を選んで［決定］を押し日付と時刻の設定画面を表示させます。
2. 日付、時刻を入力します。

例えば、2021年4月22日午後12時5分（お昼の12時5分）を入力する場合の操作

21 04 22……年、月、日入力

12 05……時、分入力

［▶］（［◀］）……AM（午前）、PM（午後）選択

・数字はキーボードで入力します。
カーソルの移動は［◀］ ［▲］ ［▼］ ［▶］ で行います。
3. ［決定］を押すと日付と時刻が登録され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

設定できる範囲は次のとおりです。
日付：2000年1月1日～2099年12月31日
時刻：AM（午前）12時00分～AM（午前）11時59分
PM（午後）12時00分～PM（午後）11時59分
これらの範囲外の入力、あるいは「４月31日」など、存在しない日付の入力をした場合、手順3の操作で「入力に誤りがあります」とメッセージが表示されますので、入力内容を確認してください。なお、時刻入力では24時制の13時00分～23時59分の入力が可能です(午後1時00分～午後11時59分で設定されます）。

■充電開始音設定

（初期状態では「入」に設定しています。）

1. 設定メニュー画面で「充電開始音設定」を選んで［決定］を押し充電開始音の設定画面を表示させます。
2. ［▼］［▲］で“✓”を移動させて充電開始音を設定し［決定］を押します。
（入：音を鳴らす、切：音を鳴らさない）
充電開始音が設定され、設定メニュー画面に戻ります。

二参考二

充電開始音の音量は、音量設定に従います。

■ユーザーデータバックアップ

コンテンツの履歴や単語帳などのデータを市販のmicroSDメモリーカードに保存することができます。保存したデータはその電子辞書本体に戻す（復元する）ことができます。
定期的にバックアップすることをおすすめします。

★注意★

● バックアップすると、microSDメモリーカードに保存されている以前のバックアップデータは削除され、新たにバックアップデータが作成されます。
● バックアップやデータの復元中は、電源を切ったり、リセット操作をしたり、ACアダプターを外したり、microSDメモリーカードを取り外したりしないでください。データが壊れたり、電子辞書が故障する恐れがあります。

カードにバックアップする

1. 市販のmicroSDメモリーカードを本体に取り付けます。取り付けかたは、『カードの取り付け/取り外し』を参照してください。
2. 電子辞書本体にACアダプターを接続します。接続のしかたは『充電をする』を参照してください。
3. 設定メニュー画面で「ユーザーデータバックアップ」を選んで［決定］を押します。
4. 選択画面から「カードにバックアップする」を選択して[決定]を押します。

5. [Y]を押すとバックアップが始まります。
6. バックアップが終了すると「カードへの保存が完了しました」と表示されます。
[戻る]を押すと選択画面に戻ります。

二参考二

- バックアップされるデータは次のようなデータです。
  履歴、単語帳、テストの学習記録、旅ノートやボイスメモなどツールで保存した内容、手書き暗記メモ
- バックアップファイルはパソコンなどで内容を確認したり編集したりすることはできません。
- 所有者情報・暗証番号はバックアップされません。

カードからバックアップデータを戻す

1. 市販のmicroSDメモリーカードを本体に取り付けます。取り付けかたは、『カードの取り付け/取り外し』を参照してください。
2. 電子辞書本体にACアダプターを接続します。接続のしかたは『充電をする』を参照してください。
3. 設定メニュー画面で「ユーザーデータバックアップ」を選んで［決定］を押します。
4. 選択画面から「カードからバックアップデータを戻す」を選択して[決定]を押します。
5. [Y]を押すとデータの復元が始まります。
バックアップしていた内容で本体に保存している履歴や単語帳などのデータが上書きされます。
6. データの復元が終了すると「データの復元が完了しました」と表示され、[決定]を押すと（または30秒後に自動的に）リセ

ットされます。

★注意★

データの復元を実行すると、電子辞書本体に保存されていた履歴、単語帳、テストの学習記録、旅ノートやボイスメモなどツールで保存した内容、手書き暗記メモなどのデータが削除され、microSDメモリーカードにバックアップされていたデータで上書きされます。なお、所有者情報・暗証番号は上書きされません（バックアップの対象データではないため）。

■アップデート確認

ホーム画面の「設定」から設定メニュー画面を表示し、「アップデート確認」を選んで［決定］を押してください。本体ソフトウェアのバージョンやアップデート手順を確認できます。

二参考二

● ソフトウェアのアップデートが必要な場合には、弊社電子辞書サポート・お問い合わせサイトにてアップデート手順などをお知らせいたします。
https://jp.sharp/support/dictionary/
● 操作タッチキーの[設定]からは選択できません。

カードやパソコンを使う

■カードの取り付け/取り外し

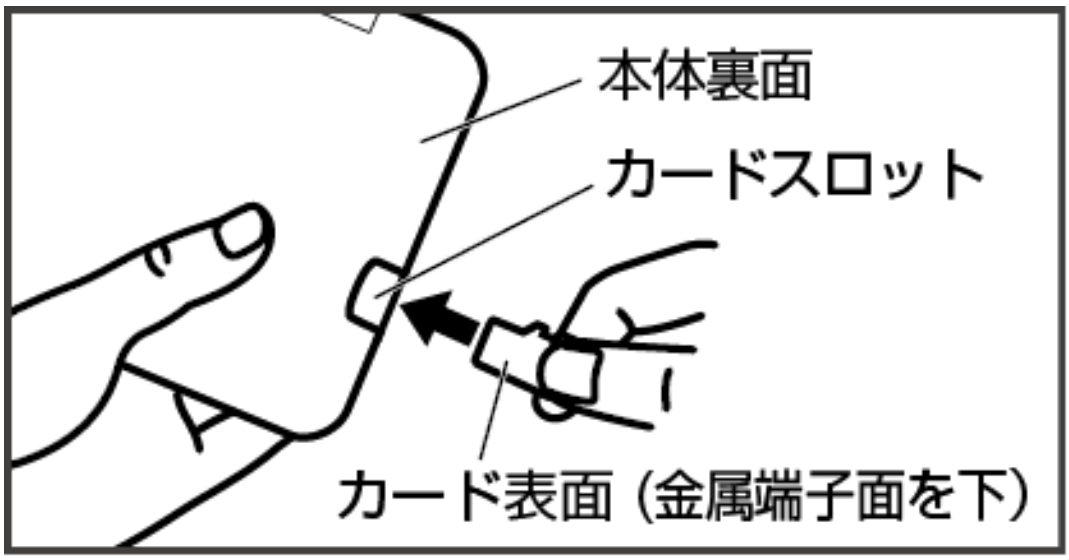
本製品は、市販のmicroSDメモリーカードを使用することができます。下記内容をお読みいただき正しくご使用ください。

★注意★

● カードの取り付け、取り外しはホーム画面を表示して行ってください。他の状態で行うと未登録のデータやカードのデータが消える、動作しなくなるなどの異常が発生することがあります。
● 立て続けにカードの取り付け／取り外し操作を行わないでください。データが消えたり、故障したりすることがあります。
● カードに強い力を加えたり、金属端子に指などで触れたりしないでください。
● カードはまっすぐ挿入してください。斜めに傾けたまま無理やり挿入すると、破損の原因になります。また、カードの裏表や前後が逆の場合は入りませんので、無理やり押し込もうとしないでください。

カードを取り付ける

1. ［ホーム］を押してホーム画面を表示します（押すたびにホーム画面／お気に入り画面が切り替わります）。
2. 図のように本体を裏面に向けて、カードの金属端子面が下になるようにして、カードスロットに奥まで確実に差し込みます。



・カードの裏表や前後を間違えないでください。間違えると、故障したりカードが取り出せなくなったりします。

二参考二

● カードの使用に関するメッセージについて

<u>カードが入っていません</u>

カードが装着されていません。前述の方法でカードを正しく装着してください。

<u>このカードでは使用できません</u>

この電子辞書で扱えないカード、データが壊れているなどで、この電子辞書で使用することができません。使用できるカードを装着してください。

<u>ファイルがロックされているため削除できません</u>

ファイルのロックを解除してください。

● カードを取り付けて電源を入れてもすぐに電源が切れたり、「カードが入っていません」と表示されるときは、充電池の残量

が少ない場合がありますので、充電してみてください。

カードを取り外す

1. ［ホーム］を押してホーム画面を表示します（押すたびにホーム画面／お気に入り画面が切り替わります）。
2. カードの端に指をかけてゆっくりと引き抜きます。

本製品で使用できるカードについて

本製品では、microSDメモリーカードがご使用いただけます。ただし、使用できない場合がありますので、動作確認済みのカードを次のWebサイトでご確認ください。
https://jp.sharp/support/dictionary/

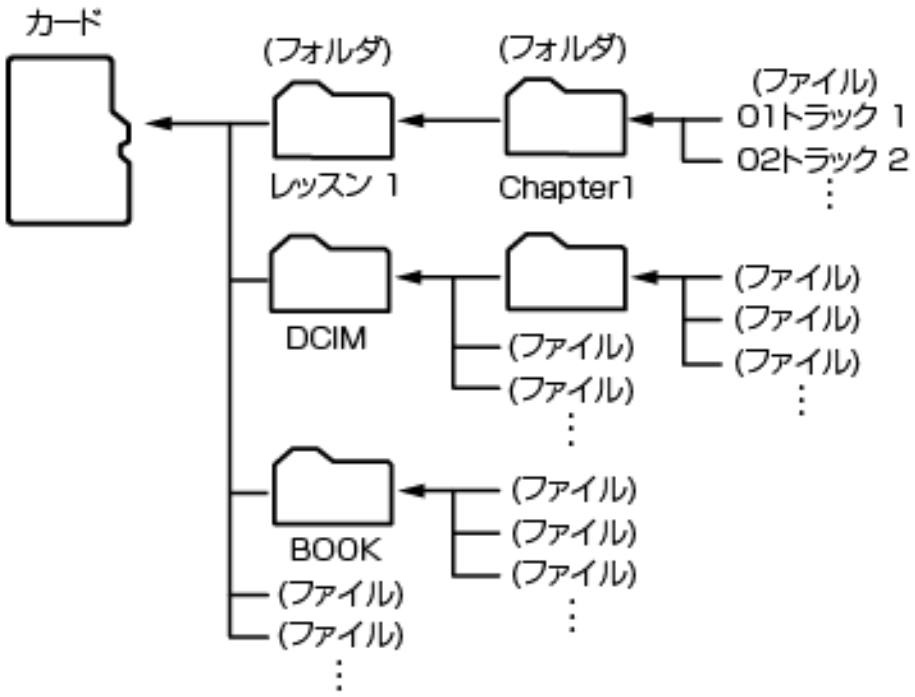
カードのフォーマット（初期化）について

カードのフォーマット（初期化）は、この電子辞書で行ってください。パソコンなどでフォーマットを行うと、カードが使えないことや、データの読み取りが通常より遅くなることがあります。

表示可能なファイル数とファイル名の長さについて

1. カード内のデータ（ファイル）が200件を超える場合は、フォルダを作って、200件以下に分割して入れてください。
   1カ所でデータが200件を超えると、超えたデータは電子辞書では表示されません。
2. ファイル名の長さは、一番上のフォルダからファイルまでの、フォルダ名やファイル名の文字数を加えた合計文字数が拡張子を含めて248文字以下になるようにしてください。また、数字、英字、全角ひらがな・カタカナ、漢字(JIS 第1・第2水準漢字)をお使いください。特殊な記号や文字は表示されません。

・フォルダ・ファイル構造



■データ共有機能を使う

複数の本体間で、「英作ボード スピーキングプラス」や自動単語帳のデータを共有できます。
データを共有することによって、「英作ボード スピーキングプラス」へのテキスト入力や、自動単語帳への単語登録の手間を省くことができます。
カードやパソコンを使ってデータを共有します。

二参考二

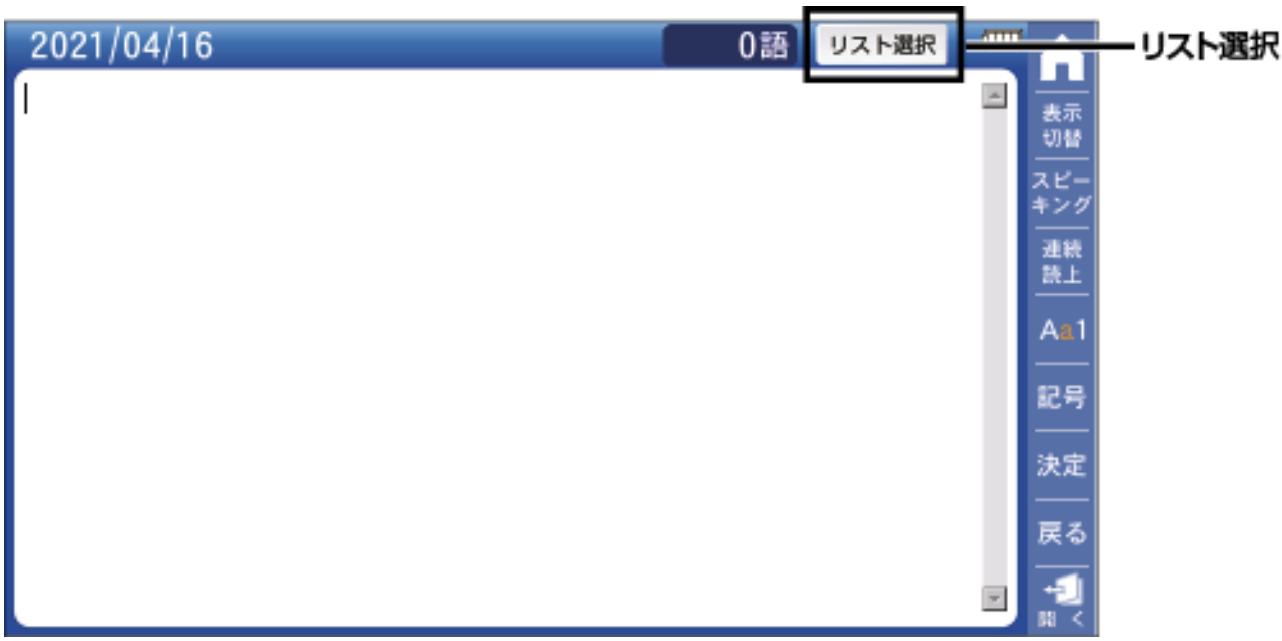
● カードを使ってデータを共有するときは、市販のmicroSDメモリーカードが必要です。
動作確認済みのカードは次のWebサイトでご確認ください。
https://jp.sharp/support/dictionary/
● パソコンを使ってデータを共有するときは、付属のmicroUSBケーブルを使います。パソコンとの接続は『パソコン

と接続する』を参照してください。

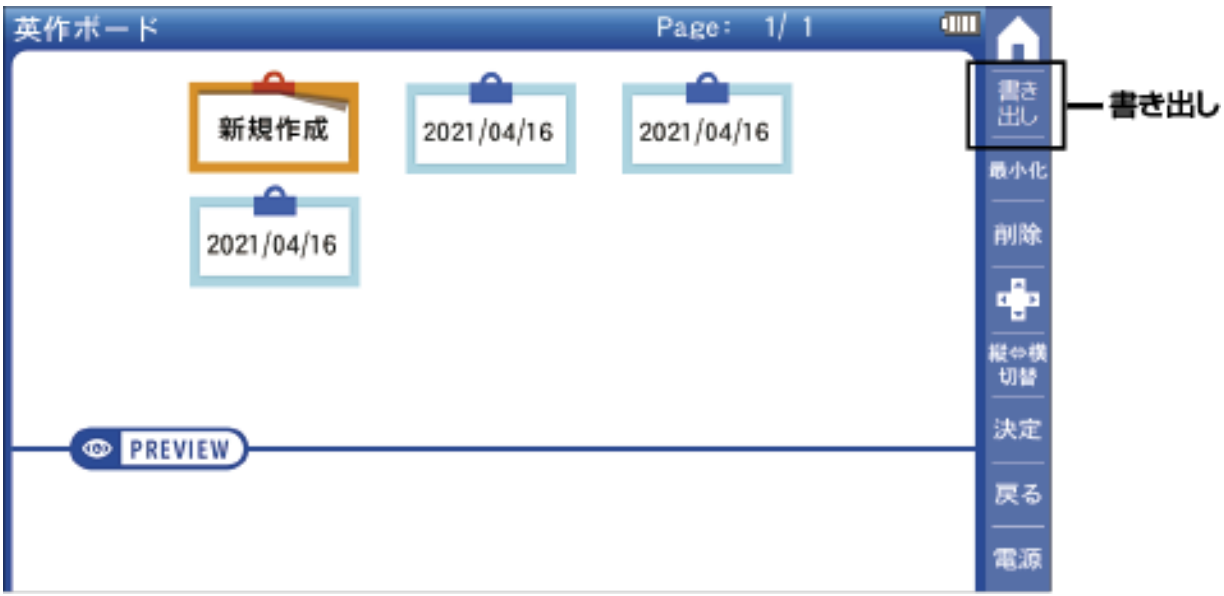
「英作ボード スピーキングプラス」のデータを共有する

【例】カードを使って、「英作ボード スピーキングプラス」のファイルを別の本体へ取り込む（コピーする）。

1. ［ホーム］を押してホーム画面を表示します（押すたびにホーム画面／お気に入り画面が切り替わります）。
2. 本体にカードを取り付けます。
   ・カードの取り付けは『カードの取り付け/取り外し』を参照してください。
3. 操作タッチキーの[ツール]から「英作ボード スピーキングプラス」をタッチして、「英作ボード スピーキングプラス」の入力画面を表示します。
4. 「リスト選択」にタッチします。



5. 操作タッチキーの「書き出し」にタッチします。



6. 書き出し対象のファイルをタッチして選択し（“✓”表示）、[書き出し実行]をタッチします。

・操作タッチキーからすべてのファイルを選択/解除できます。



7. 書き出し先を指定します。

・この例では、カードを使ってデータ共有しますので、「カード」をタッチします。

8. カード内に共有フォルダが生成され、「英作ボード スピーキングプラス」の選択したファイルが書き出されます。
9. カードを取り外して、別の本体に取り付けます。
　・『カードの取り付け/取り外し』を参照してください。
10. カードを取り付けると、本体に取り込むかどうかの確認画面が表示されます。
11. [Y]を押して別の本体にデータを取り込みます。
　・「英作ボード スピーキングプラス」の画面を表示して取り込まれたことを確認します。

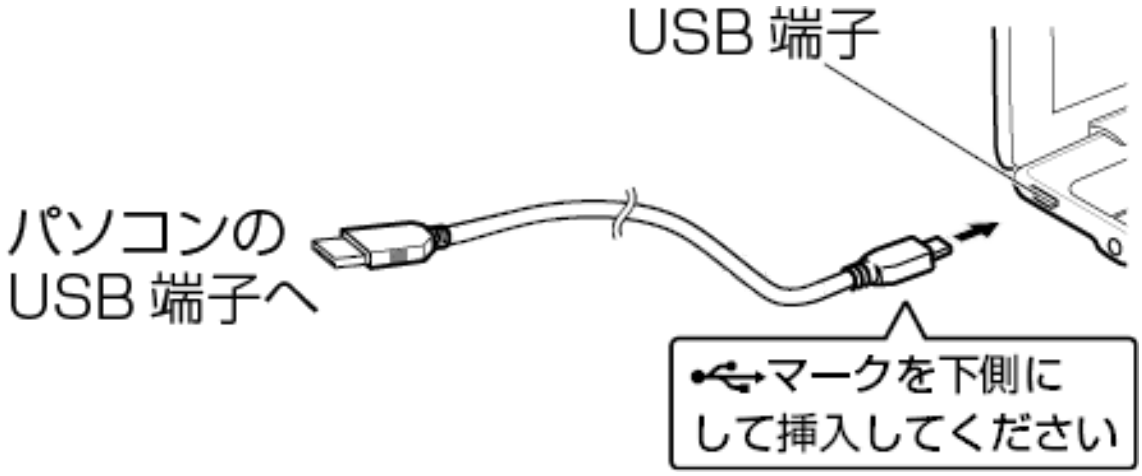
二参考二

● パソコンを使って共有するときは、次の『自動単語帳のデータを共有する』の例で手順4～15を参照してください。「英作ボード スピーキングプラス」のときはリムーバブルディスク（USBドライブ）の英作ボードフォルダをコピーして共有します。
● 取り込んだファイルは本体に追加されます。「英作ボード スピーキングプラス」にもともとあったファイルは消去されません。
● 上記手順8のときに、すでに共有フォルダがある場合は、共有フォルダ内のファイルが削除されてから書き込まれます（上書きされます）。

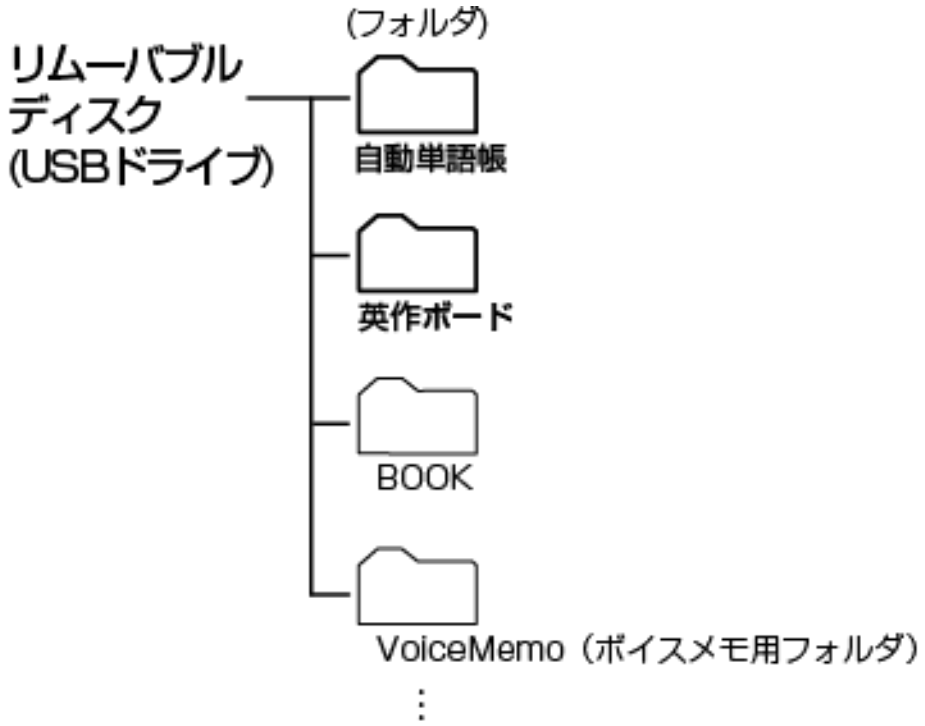
自動単語帳のデータを共有する

【例】パソコンを使って、自動単語帳のデータを別の本体へ取り込む（コピーする）。
1. 操作タッチキーの[ツール]から「自動単語帳」をタッチして、自動単語帳の画面を表示します。

2. 操作タッチキーの「書き出し」にタッチします。
3. 書き出し対象の科目をタッチして選択し（“✓”表示）、[決定]を押します。
4. 書き出し先を指定します。
・この例では、パソコンを使ってデータ共有しますので「本体メモリー」をタッチします。
5. [決定]を押すと、本体メモリー内に共有フォルダが生成され、自動単語帳のデータが書き出されます。
6. パソコンとの接続を求めるメッセージが表示されます。
7. 付属のmicroUSBケーブルで電子辞書とパソコンを接続します。
・本体とパソコンの接続や取り外しは『パソコンと接続する』を参照してください。



8. 電子辞書に「パソコンで必要な操作を行ってください」と表示され、パソコンにリムーバブルディスク（USBドライブ）として認識されます。



9. リムーバブルディスク（USBドライブ）の自動単語帳フォルダをパソコンのデスクトップなどへコピー（ドラッグ＆ドロップ）します。
10. パソコンから本体を取り外します。
11. 別の本体をパソコンと接続します。
    ・ホーム画面の「アクセサリー」から「パソコン接続」－「本体メモリーと接続」を選び、パソコンと接続してください。
12. パソコンのデスクトップなどへコピーした自動単語帳フォルダを、リムーバブルディスク（USBドライブ）内にコピー（ドラッグ＆ドロップ）します。
13. パソコンから本体を取り外します。
14. 本体に取り込むかどうかの確認画面が表示されます。
15. [Y]を押して、自動単語帳にデータを取り込みます。
    ・自動単語帳の画面を表示して取り込まれたことを確認します。

二参考二

● カードを使って共有するときは『「英作ボード スピーキングプラス」のデータを共有する』の例で手順7～11を参照してください。
● 本体に取り込んだデータは、元のデータに追加されます。
● 自動単語帳のデータを取り込んだときに、機種間のコンテンツの違いなどにより同じ単語が登録されないことがあります。

■追加書籍（辞書）を使う

ブレーンライブラリー管理ソフトで、カードまたは本体メモリーに転送したXMDF形式などの電子書籍（電子ブック）を表示させます。

・カードは『カードの取り付け/取り外し』を参照して取り付け/取り外しを行ってください。
・ブレーンライブラリー管理ソフトについては、『ブレーンライブラリー管理ソフト』を参照してください。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「追加コンテンツ」－「追加書籍(辞書)」を選びます。
   本のタイトルのリスト表示画面が表示されます。
2. 必要に応じて「カード」または「本体」にタッチして、本体メモリーとカードメモリーを切り替えます。
3. 本のタイトルを選び［決定］を押します。
   本の最初のページなどが表示されます。

二参考二

● ダウンロードコンテンツには、辞書コンテンツや、図鑑コンテンツなどもあり、操作方法が異なります。
● 辞書系のコンテンツは、基本的に本体に搭載の辞書コンテンツと同様の検索機能を使用することができます。ただし、早見機能、マーカー機能など、一部の機能は使用できません。また、動作が異なることがあります。
● パスワード付きコンテンツは、手順3でパスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。
● 「追加書籍（辞書）」を選んだとき、以前テキストデータを開いていた場合などに、それらのタイトルのリスト表示画面になることがあります。その場合は、次の『テキストデータを表示させる』と同様の操作で「BOOK」フォルダを開いて「本タイトル」にタッチすると、ダウンロードしたコンテンツなどのタイトルのリスト表示画面になります。

テキストデータを表示させる

テキストデータをカード内の「BOOK」フォルダに入れて、電子辞書で表示できます。『パソコンと接続する』を参照してカード内の「BOOK」フォルダに入れてください。

テキストデータなどをカード内の「BOOK」以外のフォルダなどに入れた場合は次の方法で表示させます。

1. 本のタイトルのリスト表示画面で「リスト」をタッチしてファイルリスト画面にします。
2. ［戻る］を押します。上位のフォルダへ移ります。
3. 目的のデータがあるフォルダなどを選んで、データを表示させます。

ニ参考ニ

テキストデータ(ファイル)はパソコンのメモ帳やワープロソフトなどでも作成でき、次のファイルが表示可能です。

・拡張子が．txt のテキストファイル
・JIS第１・第２水準漢字、仮名、数字、英字を使ったテキストファイル
※ ファイル名やフォルダ名にも同様の文字を使用してください。
全角記号などを使用した場合、リストに表示されない場合があります。
※ 表示できない文字や記号は、スペースなどに置き換えて表示されます。
※ 作成した機器やアプリケーションにより、字形が変わることがあります。

★注意★

● XMDFコンテンツ（電子書籍）の中に特別な形式の音声が含まれる場合、一部の音声データが再生できない場合があります。また、特別な形式の画像など、一部の画像データは表示されない場合があります。
● XMDFコンテンツのデータ形式によっては、本製品で見ることができない場合があります。
● XMDFコンテンツの説明の中に、本製品で使用できない機能や、操作が異なる説明がなされているものがありますが、これらはPDA（携帯情報端末）を想定した説明ですので、本製品に合わないことがあります。

● XMDFの辞書コンテンツなどのしおりや単語帳は、そのコンテンツがカード内にある場合はカードに記憶・登録されます。カードの空き容量が少ないと、これらが記憶・登録できない場合があります。

本を操作する

本を開いているとき、画面右上の「操作」にタッチすると操作メニューが表示されます。この操作メニューを使用して操作します。

※ 表示している本または画面で操作できない項目は淡い表示になります。

◆ 「目次を見る」
「目次」がある本では目次が表示されます。目次の中の項目を選べば、その項目のページを開くことができます。

◆ 「先頭のページを見る」、「最後のページを見る」
先頭のページ、または最後のページを開きます。

◆ 「ページ位置の移動」
この項目を選ぶとページ移動指定画面が表示されます。
移動する（開く）ページを先頭から何パーセントの位置にするかを数字で入れ［決定］を押して移動します。
なお、漫画本など、コマのみで構成されている場合は「コマの移動」指定画面が表示され、全コマの何パーセントの位置かを指定して移動します。

◆ 「しおりをはさむ」※

現在開いている場所をしおりとして登録します。登録したしおりは、その本を開いて、またはタイトルのリスト表示画面でしおりマークが付いているタイトルにカーソルを移して［履歴］を押すとリスト表示されます。表示されたリストから、開きたい箇所を選んで［決定］を押すと、その箇所が表示されます。

・しおりは１冊の本につき9カ所まで登録できます。
9カ所を超えて登録しようとすると、古いしおりが消され、新しいしおりが登録されます。なお、上記とは別に、本を閉じたときや辞書など他の機能に移ったとき、最後に開いていた１カ所が「終了ページ」というしおりに自動的に登録されます。

・しおりを消したいときは『一度調べた語を再度調べたいとき（履歴を使う）』を参照してください。

※ 辞書系のコンテンツでは「しおりをはさむ」は淡く表示されて選択できない場合があります。
このときは『一度調べた語を再度調べたいとき（履歴を使う）』で説明している履歴機能をご確認ください。なお、コンテンツによっては履歴がない場合があります。

◆ 「書籍情報」
開いている本に著者や出版社などの情報が付けられている場合に、これを表示します。［戻る］で前の画面に戻ります。

・「配布時の刻印情報」は本の商品番号などであり、日付ではありません。

◆ 「【縦書き】→横書き」　（「【横書き】→縦書き」）
縦書き表示と横書き表示を切り替えます。

◆ 「【ルビあり】→ルビなし」　（「【ルビなし】→ルビあり」）

ルビ（振りがな）の表示のあり/なしを切り替えます。「ルビあり」では行間が広くなります。

◆ 「キー入力文字【かな】」　（「キー入力文字【英字】」）（「キー入力文字【数字】」）

文字入力ができるコンテンツで、例えば英字と数字のように複数の文字種が入力できるとき、入力する文字の種類を設定します。この項目を選択すると文字種選択画面が表示されますので［▼］、［▲］で文字種を選び［決定］を押します。

◆ 「【コマ表示】→ページ表示」（「【ページ表示】→コマ表示」）

漫画本などのようにコマで構成された書籍において、コマごとに表示させるか、ページごとに表示させるかを切り替えます。

◆ 「表示サイズ【小】」　（「表示サイズ【中】」）（「表示サイズ【大】」）

漫画本などで、表示するページサイズを設定します。

この項目を選択すると表示サイズ選択画面が表示されますので［▼］、［▲］でサイズを選び［決定］を押します。

◆ 「【バックライト点滅オン】→オフ」（「【バックライト点滅オフ】→オン」）

漫画本などで、バックライトの点滅を行うような設定があるとき、それを有効（オン）にするか、無効（オフ）にするかを切り替えます。

◆ 「本を閉じる」
本を閉じて、タイトルのリスト表示画面になります。

その他の操作

リンクの操作

本の中には文中の文字や図などにリンクが張られていて、リンク先の内容などを見ることができるものがあります。
リンクされている文字は青色で表示され、下線が引かれています。また、選択されているときは青色の四角の中に白文字で示されます。図にリンクが張られている場合は、図が青色の線で囲まれています。
［▼］、［▲］、［►］、［◄］でリンクされている文字または図を選択し［決定］を押すとリンク先に移動して表示します。
戻るときは［戻る］を押します。リンク先からリンク先へ移動をくり返している場合、最高20回まで戻ることができます。

マスクの操作

英単語などの学習用文書など、本によっては、文中の文字の一部が■■■などのマスクで隠されているものがあります。選択されているときは■■■のようになります。
［▼］、［▲］、［►］、［◄］でマスクを選択し［決定］を押すとマスクが外れ文字が表示されます。もう一度［決定］を押す

と再びマスクがかかります。

文字サイズの切り替え

操作タッチキーの[文字サイズ]([文字大]、[文字小])にタッチすると、表示される文字を５種類の大きさに切り替えることができます。

Sジャンプで言葉の意味などを調べる

本の中に意味などがわからない言葉が出てきた場合、ジャンプ機能を使って辞書へジャンプして調べることができます（『画面内の語を調べる（Sジャンプを使う）』を参照してください）。

■追加音声（MP3）を使う

本製品にはMP3プレーヤー機能があり、パソコンなどで市販のmicroSDメモリーカードにMP3形式の音声データ（MP3データ）を入れて本製品に装着して再生することができ、語学学習などにご利用いただけます。なお、音声データを本体メモリーに入れて利用することもできます。

★注意★

カードや本体メモリーに入れたMP3データは、使用誤り・静電気/強度の外来ノイズ・事故・カードの紛失/破壊などにより失われることがあります。MP3データは必ずパソコンなどに保存しておいてください。

二参考二

● パソコンなどからカードや本体にMP3データ（ファイル）を入れる方法は、パソコンなど使用機器の説明書をご覧ください。また、『パソコンと接続する』もご覧ください。
● カードは『カードの取り付け/取り外し』を参照して取り付け/取り外しを行ってください。
● MP3データの再生可能ビットレート：32～256kbps
● 可変ビットレート（VBR）のMP3データは再生できません。
● MP3データの再生はモノラル再生（出力）になります。

追加音声（MP3）の使いかた

MP3データを再生する

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「追加コンテンツ」－「追加音声(MP3)」を選びます。
　MP3データ（ファイル）やフォルダがリスト表示されます。
2. 必要に応じ「カード」または「本体」にタッチして、本体メモリーとカードメモリーを切り替えます。
3. 再生したいMP3データを選び［決定］を押します。
　MP3プレーヤー画面が表示され、再生が開始されます。

二参考二

● フォルダ内のデータを選ぶ場合は、フォルダを選び［決定］を押して、表示されるMP3データやフォルダのリスト表示から選んでください。
● 市販のイヤホンで聞く場合や、音量調整は『市販のイヤホンで音声を聞くときは』、『音量を調整する』を参照してください。

再生の操作

次のキーでMP3再生時の操作をします。なお、（　）内に示すボタンは画面に表示され、タッチして使用します。

［≪］（［⏮］）：再生中のデータ（ファイル）の先頭へ戻って再生します。先頭から3秒以内に押すと同じフォルダ内で並びが前のデータ※1を再生します。

［≫］（［⏭］）：同じフォルダ内で並びが次のデータ※2を再生します。

［◀］（［⏪］）：再生中のデータを少し（約10秒分）戻って、またはデータの先頭に戻って再生します。

［▶］（［⏩］）：再生中のデータを少し（約10秒分）送って再生します。データの最後を超えるときは、「繰り返し再生設定」の設定に従って、次のデータの再生や同じデータの再生を行います。

［戻る］（［■］）：再生を終了して、前の画面に戻ります。

［決定］（［⏸］/［▶］）：再生の一時停止、解除を交互に行います。

・本機能では、カードを一つのフォルダと見なして、フォルダと同様に扱います。

※1 フォルダ内の先頭のデータを再生しているときは、並び順で最後のデータを再生します。

※2 フォルダ内の最後のデータを再生しているときは、並び順で先頭のデータを再生します。

★注意★

再生中はオートパワーオフ機能および、本体を閉じたときの電源オフ機能が働きません。充電池の残量が少なくなりますので再生

状態のままで放置しないでください。

二参考二

本機能では、音声再生速度を変更することはできません（ホーム画面の「設定」－「音声再生速度設定」で再生速度を切り替えても、本機能の再生速度は切り替わりません）。

MP3繰り返し再生を設定する

次の繰り返し再生を設定することができます。

オフ ：繰り返し再生を行いません。
再生を開始したフォルダ内のMP3データをリスト表示で表示された順番に、最後まで再生して終了します。
1ファイル：再生を開始したMP3データ（ファイル）を繰り返し再生します。
全ファイル（選択フォルダ内）：再生を開始したフォルダ内のデータをリスト表示で表示された順番に繰り返し再生します。

1. ファイルなどのリスト画面で「設定」にタッチし「繰り返し再生設定」を選んで［決定］を押します。
   繰り返し再生設定画面になります。
2. “✓”を設定したい項目へ移し［決定］を押します。
   選択した繰り返し再生が設定され、前の画面に戻ります。

■コンテンツカードを使う

専用のコンテンツカード（別売）でコンテンツを追加することができます。

1. コンテンツカードをカードスロットに挿入します。
　『カードの取り付け/取り外し』を参照してください。
2. ホーム画面の「アクセサリー」から「追加コンテンツ」－「コンテンツカード」を選びます。
　コンテンツの初期画面が表示されます。

■ステップリスニング追加コンテンツを使う

コンテンツ購入サイト（ブレーンライブラリー）で購入し、パソコンからカードまたは本体メモリーへ転送したステップリスニング追加コンテンツを使用します。

・カードは『カードの取り付け/取り外し』を参照して取り付け/取り外しを行ってください。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「追加コンテンツ」－「ステップリスニング追加コンテンツ」を選びます。コンテンツのタイトル(ファイル)画面が表示されます。
2. 必要に応じ「カード」または「本体」にタッチして、本体メモリーとカードメモリーを切り替えます。
3. コンテンツのタイトル(ファイル)を選び、[決定]を押します。分類(フォルダ)が表示されます。
4. 分類（フォルダ）を選び［決定］を押します。項目（ファイル）が表示されます。
5. 再生したい項目（ファイル）を選び［決定］を押します。
　選んだ項目（ファイル）が再生されます。

・コンテンツにより、多少分類の構成が異なります。

・ステップリスニング機能の操作方法などは『ステップリスニング機能で学習する』をご覧ください。

★注意★

追加コンテンツの再生には「前回のファイルを再生」機能はありませんので、「前回のファイルを再生／目次を表示」の選択画面は表示されません。

■追加のアプリケーションを使う

コンテンツ購入サイト（ブレーンライブラリー）で購入し、パソコンからカードまたは本体メモリーへ転送したアプリ（アプリケーションプログラム）を使用します。

・カードは『カードの取り付け/取り外し』を参照して取り付け/取り外しを行ってください。

アプリケーションの起動方法

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「追加コンテンツ」－「追加アプリ」を選びます。
   アプリケーション名のリスト画面が表示されます。
2. 必要に応じ「カード」または「本体」にタッチして、本体メモリーとカードメモリーを切り替えます。
3. 使いたいタイトルを選び［決定］を押します。
   アプリケーションが起動します。
   以降の動作はアプリケーションによって異なります。

アプリケーションの終了方法

基本的には、［ホーム］やコンテンツ選択キーを押すと、アプリケーションを終了して、それぞれのキーの機能が働きます。
ただし、タイトルによっては、これらのキーでは終了しない場合があります。

お願い
追加のアプリケーションについてのご質問などは、各アプリケーションソフトの開発元にお問い合わせください。

■メモリーのデータを削除する

本体メモリー、カード内の本のデータなどを削除するときは、ファイル名やタイトルのリスト画面で、削除したいデータを選び（カーソルを移し）、[削除]を押します。
削除確認の画面が表示されますので、［Y］を押すと削除されます。

二参考二

● 一部を除きフォルダを削除することはできません。
全データを削除する場合は、『カードを初期化（フォーマット）する』の方法でカードを初期化します。
● コンテンツ購入サイトで購入したコンテンツを消去後、再度必要になった場合は、パソコンから転送してください。
● ファイルがロック（読み取り専用）になっているときは、削除できません。

■メモリーを確認する

本体およびカードのメモリーの容量や空き容量を確認します。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「パソコン接続」を選びます。

2. 「本体のメモリー確認」または「カードのメモリー確認」を選び［決定］を押します。メモリーの容量など、使用状況が表示されます。

■カードを初期化（フォーマット）する

他で使用していたカードを使用したい場合や、内容をすべて消去する場合に初期化（フォーマット）します。

★注意★

初期化するとカード内のすべての内容が消去されますので、注意してください。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「パソコン接続」を選びます。
2. 「カードの初期化」を選び［決定］を押します。
   初期化の確認画面が表示されます。
3. ［Y］を押します。カードが初期化されます。

二参考二

充電池の残量が少ない場合は初期化できません。

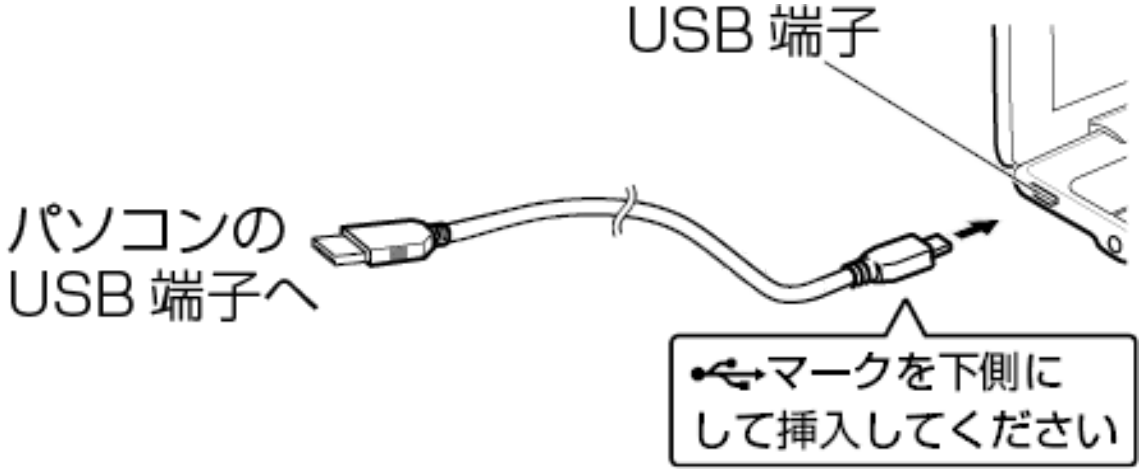
■パソコンと接続する

パソコンと接続して、本体およびカードのメモリーの内容を操作します。

★注意★

画面右上の電池マークが赤く表示されているときは、パソコン接続ができませんので、充電してください。

1. ホーム画面の「アクセサリー」から「パソコン接続」を選びます。
　パソコン接続機能選択画面が表示されます。
2. 接続するメモリーにより「本体メモリーと接続」または「メモリーカードと接続」を選び［決定］を押します。パソコンとの接続を求めるメッセージが表示されます。
3. 付属のmicroUSBケーブルで電子辞書とパソコンを接続します。



4. 電子辞書に「パソコンで必要な操作を行ってください」と表示され、パソコンにリムーバブルディスク（USBドライブ）として認識されます。
　パソコンでデータのコピーや移動など必要な操作を行います。
　・パソコンの操作は、パソコンの説明書を参照してください。
5. パソコンでの操作が終了したらパソコンから取り外します。

（1）パソコンの取扱説明書を参照して、ハードウェアの安全な取り外し操作を行います。
（2）パソコンと電子辞書からmicroUSBケーブルを取り外します。

★注意★

● データのコピーや移動などの動作中は絶対にmicroUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れたり、電子辞書が故障する恐れがあります。
● パソコンで、電子辞書の本体メモリーを初期化（フォーマット）しないでください。初期化すると使用できなくなることがあります。
● パソコンとの接続中は、電子辞書の画面は暗くなり、電子辞書の操作はできません。
● パソコンと接続するにはブレーンライブラリー管理ソフトと同じ動作環境が必要です。動作環境の詳細については次のWebサイトでご確認ください。
https://brain-library.com/web/guide/download/top

■ブレーンライブラリー管理ソフト

ブレーンライブラリー管理ソフト（以降、「管理ソフト」と記載）は弊社電子辞書専用サイト「ブレーンライブラリー」で配布しています。管理ソフトは、「ブレーンライブラリー」で購入したコンテンツを管理し、電子辞書に転送するためのWindowsパソコン用ソフトウェアです。

管理ソフトをインストールするには

以下のURLへアクセスし、管理ソフトをインストールしてください。
https://brain-library.com/web/guide/download/top
インストール方法および動作環境の詳細については、サイトをご確認ください。

管理ソフトを起動させ電子辞書を接続する

1. パソコンのデスクトップに表示された管理ソフトのアイコンをダブルクリックして、管理ソフトを起動させます。
2. 初回起動時は、ブレーンライブラリーの手続き画面が表示されますので、画面の説明に従って操作します。
3. 電子辞書のホーム画面の「アクセサリー」から「パソコン接続」－「ブレーンライブラリー管理ソフト」を選び[決定]を押します。
4. 画面の説明に従って操作します。

★注意★

● パソコンとの接続中は、microUSBケーブルを抜かないでください。データの破壊や故障の原因になります。
電子辞書を取り外すときは、必ず管理ソフトを終了させてから行ってください。
● パソコンとの接続中は、電子辞書の画面は暗くなり、電子辞書のキーは働きません。

ダウンロードコンテンツの種類と場所

「ブレーンライブラリー」（https://brain-library.com/）からは、電子書籍および辞書・学習・実用書、ステップリスニング、

アプリケーションソフトのコンテンツをご購入・ダウンロードすることができます。
パソコンにダウンロードしたコンテンツを本製品に転送すると、ホーム画面の「アクセサリー」－「追加コンテンツ」に表示される次の項目に分類して収録されます。
追加書籍（辞書）　：電子書籍および辞書・学習・実用書コンテンツ
追加アプリ　：アプリケーションソフトコンテンツ
ステップリスニング追加コンテンツ　：ステップリスニングコンテンツ

★注意★
ダウンロードしたコンテンツが「追加書籍（辞書）」に表示されないときは、「本タイトル」タブにタッチしてください。

困ったときは

■よくあるご質問

Q：日付や時刻を変更したい
A：ホーム画面で「設定」－「日付と時刻の設定」を選んで設定してください。

Q：表示が暗い・明るい
A：次のことを確認してみてください。
●ホーム画面で「設定」－「明るさ調整」を選び表示を見やすい明るさに調整してください。

●日中の屋外などの明るい場所では画面が見えにくくなります。この場合は、日陰などの強い光が当たらないところでご使用ください。
●バックライトが減光するまでの時間を変更できます。ホーム画面で「設定」－「減光時間設定」を選び変更してください。

Q：タッチパネルでの操作ができない。ずれた位置で反応する。
A：ホーム画面で「設定」－「タッチパッド調整」を選んでタッチパッドの調整をしてください。

Q：調べたい語句(単語)が出てこない
A：次のことを確認してみてください。
●読みかたは正しいですか。読みかたが判らない場合は、手書きで調べたい語句を入力してください。
●「つ」と「っ」など、大きい文字と小さい文字が間違って入力されていませんか。
●「ば」と「ぱ」など、濁音や半濁音が間違って入力されていませんか。
●「づ」と「ず」、「ぢ」と「じ」などの使いかたが違っていませんか。
●単語(英単語など)は変化形ではありませんか。変化形の場合は原形でも調べてください。
●あいまいチェックやスペルチェックを使ってみてください（『あいまいチェックやスペルチェックを使う（一括検索）』を参照）。

Q：読みのわからない漢字の調べかたは…

A：手書き入力や部品の読み、部首画数、総画数などで調べることができます。

Q：調べたい語句(単語)の途中の文字(綴り)がわからない
A：ブランクワード“～”(言葉の途中がわからないとき) や、ワイルドカード“？”(言葉の一部がわからないが、文字数がわかっているとき)を利用すると、語句(単語)の一部が判れば、その候補が表示され、その中から探すことができます。大辞林、百科事典などで使えます。入力するときは［シフト］［～］または［シフト］［？］を使います。

Q：“スペース”はどのようなときに使えますか？
A：“スペース”は、主に全文検索や成句検索などで複数の検索文字列を指定するとき、その文字列の区切りとして使用します。また、「英作ボード スピーキングプラス」でスペースを入力するときにも使います。

Q：英語の成句（熟語）を検索したい
A：ホーム画面を表示し「言葉を調べる」にタッチします。調べる画面が表示されますので、操作タッチキーの[検索切替]に3回タッチして成句検索に切り替え、入力欄に調べたい語句を入力します。スペースでつないで3語まで入力することができます。スペースは[スペース/変換]を押して入力します。『英語の成句を検索する』を参照してください。

Q：英単語の発音を聞きたい
A：各コンテンツの詳細画面に表示されている英単語をタッチし、音声データを利用して発音させることができます。『英単語

をネイティブの発音で聞く』を参照してください。

Q：ローマ字で思うように入力できない
A：『ローマ字→かな変換表』を参照して入力してください。

Q：手書きで長音符「ー」が入らない
A：漢数字の「一」と認識されやすいので、入力した文字をタッチすると表示される候補の中から選んでください。

Q：日本語で検索を行う場合に英字始まりの語句を入力したい
A：入力文字種を切り替えて英字を入力します。『調べる画面から検索する』の『基本操作』、『文字入力と修正』の『入力文字種を指定する』を参照してください。
なお見出し語にカッコ（「 」）や中点（・）などの記号がある場合は省略して入れてください。

Q：英和辞典などで数字を含む見出し語を引く方法は？
A：入力文字種を切り替えて数字を入力します。『調べる画面から検索する』の『基本操作』、『文字入力と修正』の『入力文字種を指定する』を参照してください。
なお見出し語の読みどおりにアルファベットで入力しても検索できる場合があります。
例　2 → two　　3 → three　　20 → twenty

Q：2画面検索で検索される見出し語は何か
A：検索する語を入力して[決定]を押す（または[決定]をタッチする）と、一致する見出し語が表示されます。一致する見出し語

がないときは入力した語を先頭に含む語（英単語は一致する語のみ）が表示されます。

Q：消費税の税率を変えたい／為替レートを変えたい
A：消費税の税率や、通貨の換算レートは変更することができます。『電卓/便利計算機能を使う』の説明をご覧いただき、設定を変更してご使用ください。

Q：国名などが変わっている/古いデータになっている
A：この製品には、出版社より電子データとして提供されたものを収録しておりますので、各コンテンツの内容はそのデータの記述に合わせております。
詳しくは、取扱説明書に記載されている「著作権に関するご注意」をご覧ください。

Q：検索したリストに同じ見出し語が複数個表示されることがあるのはなぜ…
A：１つの見出し語に複数の語が収録されている場合、個々の語に対して検索を行うので、同じ見出し語が複数個表示されることがあります。

Q：Sジャンプ機能で、他の辞書にあるはずの言葉へジャンプできない
A：辞書によっては、見出し語に使われる文字の種類や表記のしかたが違うことがあり、このような場合は違う言葉と判断されるためジャンプできません。
例 表記の違い：
　敢え無い(大辞林)

敢えない(ジーニアス和英辞典)

Q：写真が表示できない
A：プログレッシブ形式のJPEGデータなど、JPEGデータでも形式によっては表示されない場合があります。

Q：写真データはどれくらいの容量まで表示できる？
A：写真は10MBまでのデータを表示できます。大きいデータは表示するまで時間がかかる場合があります。

Q：電子書籍（XMDFデータ）の書籍情報に意味不明の日付が表示される
A：書籍情報の「配布時の刻印情報」に表示される数字などは、本の商品番号などであり、日付ではありません。

Q：音声の再生ができない
A：次のことを確認してみてください。
●音量が小さくなっていませんか。[シフト][🔊+]、[シフト][🔊ー]で調整してみてください。
●充電池の残量が不足の場合は、充電をしてください。
●イヤホンが接続されている場合はスピーカーから音が出ません。

Q：電源を入れたとき、「データに異常があったため製品を初期の状態にしました」と表示された
A：電源オフ処理中に強度の外来ノイズや強いショックを受けたりしたときに、単語帳や履歴/しおりなどの登録データに異常が

発生する場合があります。この場合は、電源を入れたときに製品を初期状態に戻します。

Q：英作ボードなどのツールを終了したい
A：アイコン化（最小化）しているときは、アイコンにタッチして最大化してから、[戻る]を押して終了してください。

Q：追加コンテンツはどこで購入できるの？
A：パソコンソフト「ブレーンライブラリー管理ソフト」を使って、専用のWebサイトでご購入・ダウンロードいただけます。（『ブレーンライブラリー管理ソフト』を参照）

Q：辞書などのデータをパソコンに取り込んだり、印刷することはできますか？
A：辞書などの内容は各出版社などの著作物であり、著作権保護の観点から、そのような機能はありません。

Q：手書き暗記メモをメモリーカードにコピー（登録）できませんか？
A：手書き暗記メモは辞書などの内容を利用したアプリです。辞書の内容は各出版社などの著作物となりますので、著作権保護の観点から、メモリーカードへのコピー（登録）はできない仕様になっています。

Q：旅ノート、カレンダーや「英作ボード スピーキングプラス」のデータを、パソコンにコピー（バックアップ）できませんか？

A：パソコンと接続し、旅ノートは「TRAVEL」フォルダから、カレンダーは「Calendar」フォルダから、「英作ボード スピーキングプラス」は「WritingBoard」フォルダから、それぞれパソコンへコピーしてください。
なお、市販のmicroSDメモリーカードにバックアップすることができます。詳しくは『ユーザーデータバックアップ』を参照してください。

Q：暗証番号を忘れた！
A：弊社では暗証番号の解除はできませんので、暗証番号は必ずお手元に控えてください。もし忘れてしまった場合は所有者情報の変更、削除ができなくなりますが、電子辞書はご使用になれます。

Q：韓国語文字（ハングル）の手書き入力で目的の文字候補が出ない
A：韓国語文字（ハングル）には、同じ文字が書体によって違った文字に見えるものがあります（例：잔と잔はㅈとㅈが異なって、違う文字に見えますが、同じ文字です）。

Q：縦表示を横表示に戻したい
A：操作タッチキーの[縦⇔横切替]にタッチすると、画面の縦表示が横表示に切り替わります。詳しくは『縦横表示切替について』を参照してください。

■故障かな？と思ったら

電源が入らない

- ●充電池の残量が不足の場合は、充電をしてください。

●上記でないときは本体裏側のリセットスイッチを押してください。
●充電池の残量がほとんどない状態でACアダプターを接続して[⏻]を押したとき、電池残量不足のメッセージを表示して電源が切れることがあります。しばらく充電してからご使用ください。

充電ができない
充電開始音が鳴らない
画面に「充電できません」と表示される

●付属のACアダプターとmicroUSBケーブルを使って充電してください。
●付属のmicroUSBケーブルが奥まで確実に差し込まれていることを確認してください。
●本体裏側のリセットスイッチを押してください。
●音量が0(小さい)に設定されているときは、microUSBケーブルを接続しても"ピピッ"と音が鳴りません。画面右上に表示される電池マークを確認してください。

自動的に電源が切れる

この製品には、しばらく使わないと自動的に電源が切れるオートパワーオフ機能がついています。電源が切れるまでの時間は、ホーム画面から「設定」－「オートパワーオフ時間設定」と選び、変更することができます。

すべてのキーが働かない

本体裏側のリセットスイッチを押してください（『異常が発生したときの処理』参照）。

手書き文字が正しく認識されない。手書き入力の方法は？

『手書き入力画面で文字を手書き入力する』を参照してください。

『手書き入力のご注意』に手書きするときにご注意いただきたい点も掲載しております。

電源を入れると、商品紹介や「写真」が表示される

ホーム画面で「設定」－「オープニング設定」と選び、「表示なし」に設定してください。

追加音声（MP3）の再生が途中で止まる

MP3データのビットレート（32～256kbps）を確認してください。ただし、可変ビットレート（VBR）のデータの再生はできません。

カードを装着して電源を入れるとすぐに電源が切れる

カードを装着しても「カードが入っていません」と表示される

充電池の残量が少なくなっていませんか。電池を充電してみてください。カードを認識しなかった場合は、電池を充電後カードを入れ直してみてください。

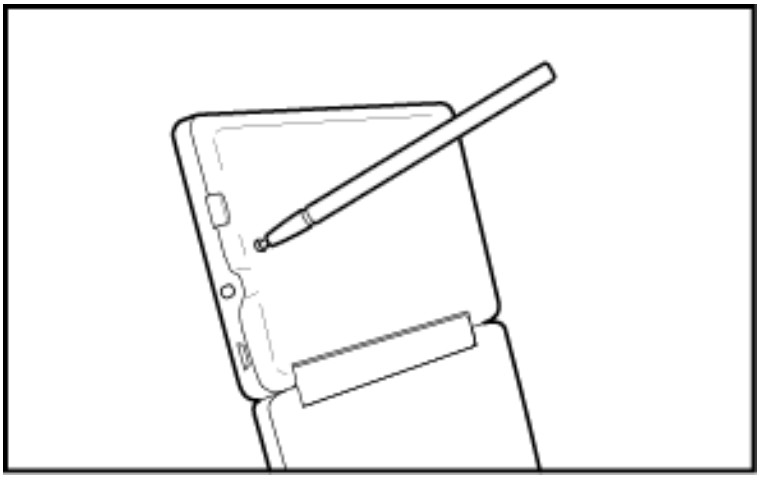
※これらを確かめても症状が発生する、また、これら以外の症状が発生した場合は故障が考えられます。取扱説明書に記載されているお客様ご相談窓口にお申し付けください。

異常が発生したときの処理

ご使用中に強度の外来ノイズや強いショックを受けた場合など、ごくまれにすべてのキーが働かなくなるなどの異常が発生することがあります。このときは、以下のリセット操作をしてください。

■リセット操作

1. 本体裏側のリセット（RESET）スイッチを付属のタッチペンまたはボールペンなどで2秒以上押します。
いったん電源が切れ、Brainのロゴマーク、「しばらくお待ちください」と表示された後、日付・時刻設定画面が表示されます。



●リセットスイッチの操作に、先の折れやすいものや先のとがったものは使用しないでください。
●上記操作を行っても異常が発生する場合は、後記の初期化の操作を行ってください。
●もし、日付・時刻設定画面の代わりに、「データに異常があったため製品を初期の状態に戻しました」と表示されたときは、お客様が登録されたデータに異常があったため、本体を初期の状態

に戻したことを示します。このときは［決定］を押し、画面に従って、日付・時刻設定などを行ってください。

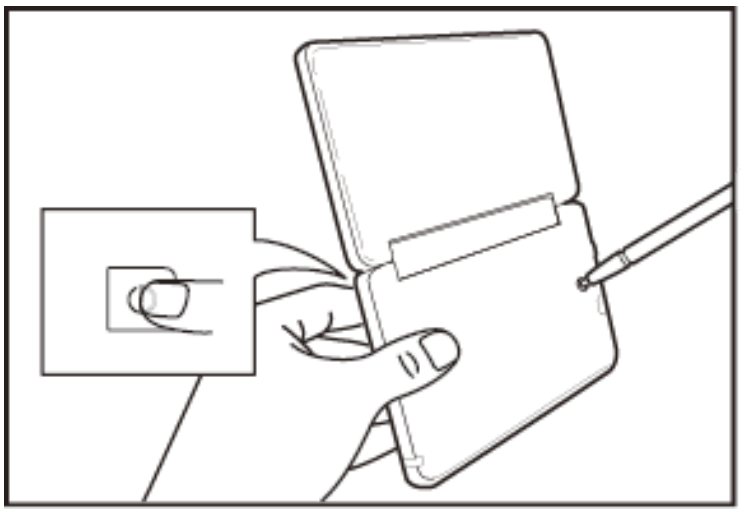
★注意★

本体のデータに異常があると、ダウンロードして本体のメモリーに記憶させた内容、My辞書登録、単語帳、履歴/しおりの内容、手書き暗記メモ、電卓のメモリー、通貨換算機能の設定、ツールで作成した内容などが消去され、「設定」などで設定した内容、電卓の消費税率などが初期の状態に戻ります。
なお、各コンテンツのデータや登録した所有者情報・暗証番号は消去されません。
ダウンロードして本体メモリーに記憶させたコンテンツなどが消去された場合は、再度パソコンから転送してください。他の記憶内容、設定内容が消えた場合は、必要に応じて再度、記憶、設定してください。

■ご購入直後の状態（初期状態）に戻したいときは

登録した内容などをすべて消去して、ご購入直後の状態に戻したいときは、次の操作で初期化を行います。

1. [⏻]を押したままタッチペンまたはボールペンなどで本体裏側のリセットスイッチを押し、タッチペンまたはボールペンを離した後、電源が入り"ピー"と音が鳴ったら[⏻]を離します。



●リセットスイッチの操作に、先の折れやすいものや先のとがったものは使用しないでください。
しばらくすると、初期化の確認画面が表示されます。

2. [Y]を押します。
画面に「初期化中です」「初期化しました」と一時表示したあと、日付・時刻設定画面が表示されます。
3. 画面に従って、日付・時刻設定を行ってください。

★注意★

この操作により、ダウンロードして本体のメモリーに記憶させた内容、My辞書登録、単語帳、履歴/しおりの内容、手書き暗記メモ、電卓のメモリー、通貨換算機能の設定、ツールで作成した内容などが消去され、「設定」などで設定した内容、電卓の消費税率などが初期の状態に戻ります。
なお、各コンテンツのデータや登録した所有者情報・暗証番号は消去されません。
ダウンロードして本体メモリーに記憶させたコンテンツなどが消去された場合は、再度パソコンから転送してください。他の記憶

内容、設定内容が消えた場合は、必要に応じて再度、記憶、設定してください。

ローマ字→かな変換表

本表は、電子辞書の検索文字などを入力するときに使用します。

あ	あ	い	う	え	お
	A	I	U	E	O
か	か	き	く	け	こ
	KA CA	KI	KU CU QU	KE	KO CO
さ	さ	し	す	せ	そ
	SA	SI SHI	SU	SE	SO
た	た	ち	つ	て	と
	TA	TI CHI	TU TSU	TE	TO
な	な	に	ぬ	ね	の
	NA	NI	NU	NE	NO
は	は	ひ	ふ	へ	ほ
	HA	HI	HU FU	HE	HO
ま	ま	み	む	め	も
	MA	MI	MU	ME	MO
や	や		ゆ		よ
	YA		YU		YO
ら	ら	り	る	れ	ろ
	RA	RI	RU	RE	RO
わ	わ	ゐ		ゑ	を
	WA	WYI		WYE	WO
ん	ん				
	N NN NX				

ゔ			ゔ		
			VU		
が	が	ぎ	ぐ	げ	ご
	GA	GI	GU	GE	GO
ざ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
	ZA	ZI JI	ZU	ZE	ZO
だ	だ	ぢ	づ	で	ど
	DA	DI	DU	DE	DO
ば	ば	び	ぶ	べ	ぼ
	BA	BI	BU	BE	BO
ぱ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
	PA	PI	PU	PE	PO

いぇ				いぇ	
				YE	
うぁ	うぁ	うぃ		うぇ	うぉ
	WHA	WI WHI		WE WHE	WHO
きゃ	きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ
	KYA	KYI	KYU	KYE	KYO
くぁ	くぁ	くぃ	くぅ	くぇ	くぉ
	QA KWA	QI KWI QWI	QWU	QE KWE QWE	QO KWO QWO
しゃ	しゃ	しぃ	しゅ	しぇ	しょ
	SHA SYA	SYI	SHU SYU	SHE SYE	SHO SYO
ちゃ	ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ
	CHA CYA TYA	CYI TYI	CHU CYU TYU	CHE CYE TYE	CHO CYO TYO
つぁ	つぁ	つぃ		つぇ	つぉ
	TSA	TSI		TSE	TSO
てゃ	てゃ	てぃ	てゅ	てぇ	てょ
	THA	THI	THU	THE	THO
とぅ			とぅ		
			TWU		

にゃ	にゃ	にぃ	にゅ	にぇ	にょ
	NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
ひゃ	ひゃ	ひぃ	ひゅ	ひぇ	ひょ
	HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
ふぁ	ふぁ	ふぃ		ふぇ	ふぉ
	FA HWA	FI HWI FYI		FE HWE FYE	FO HWO
ふゃ	ふゃ		ふゅ		ふょ
	FYA		FYU		FYO
みゃ	みゃ	みぃ	みゅ	みぇ	みょ
	MYA	MYI	MYU	MYE	MYO
りゃ	りゃ	りぃ	りゅ	りぇ	りょ
	RYA	RYI	RYU	RYE	RYO

ゔぁ	ゔぁ	ゔぃ		ゔぇ	ゔぉ
	VA	VI		VE	VO
ゔゅ			ゔゅ		
			VYU		
ぎゃ	ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ
	GYA	GYI	GYU	GYE	GYO
ぐぁ	ぐぁ	ぐぃ	ぐぅ	ぐぇ	ぐぉ
	GWA	GWI	GWU	GWE	GWO
じゃ	じゃ	じぃ	じゅ	じぇ	じょ
	JA JYA ZYA	JYI ZYI	JU JYU ZYU	JE JYE ZYE	JO JYO ZYO
ぢゃ	ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ
	DYA	DYI	DYU	DYE	DYO
でゃ	でゃ	でぃ	でゅ	でぇ	でょ
	DHA	DHI	DHU	DHE	DHO
どぅ			どぅ		
			DWU		
びゃ	びゃ	びぃ	びゅ	びぇ	びょ
	BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
ぴゃ	ぴゃ	ぴぃ	ぴゅ	ぴぇ	ぴょ
	PYA	PYI	PYU	PYE	PYO

小さい文字の単独入力

あ	ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ
	LA XA	LI XI LYI XYI	LU XU	LE XE LYE XYE	LO XO
つ			っ		
			LTU XTU		
や	ゃ		ゅ		ょ
	LYA XYA		LYU XYU		LYO XYO
わ	ゎ				
	LWA XWA				

★注意★

● 表中の行名は、つづりを探し易くするために便宜上つけた名称です。

● キーボードトレーニングのローマ字入力は、キーボードトレーニングの画面に表示される「ローマ字かな変換表はコチラ」をタッチして確認してください。詳しくは『キーボードトレーニングを使う』を参照してください。

撥音（はつおん）の入力

“ん”の次に母音または“Ｙ”がくるときや、“ん”で終わるときは“ＮＮ”と入力する。または“Ｎ”の後ろに“Ｘ”をつける。

ほんやく → HONNYAKU (HONXYAKU)

はんい → HANNI (HANXI)

ほん → HONN (HONX)

上記以外のとき

ほんき → HONKI

促音（そくおん）の入力

“N”以外の子音を重ねる。または“LTU”や“XTU”と入力する。

けっか → KEKKA (KELTUKAまたはKEXTUKA)

とっきゅう → TOKKYUU (TOLTUKYUU または TOXTUKYUU)

二参考二

変換できないローマ字のつづりを入れたときは

本製品はローマ字のつづりを入力する場合、１字入力ごとに、かなに変換できる候補の有無を確認し、一致すればかなに変換します。

もし候補がないときは、先頭の文字を削除して候補の有無を確認します。それでも候補がない場合は、もう１字削除して確認します。

	入力操作		表示
例１	[Q] [W]	→	qw
	[A]	→	わ（qが削除されwaを変換）
例２	[K] [Y]	→	ky
	[W]	→	w（kyが削除されwが残る）
	[O]	→	を（woを変換）

仕様

● 電源、外形寸法、質量などの仕様については、製品に付属の取扱説明書をご確認ください。

形　　名　　PW-A1

品　　名　　電子辞書

電卓機能　　計算桁数：12桁
電卓（税込／税抜計算、加減乗除、メモリー、パーセント計算など）、通貨換算、単位換算
時計機能　　時間制：12時間制
時計精度：平均月差±90秒以内（使用温度25℃のとき）
MP3プレーヤー機能
MP3データ再生（カードまたは本体メモリーに収録したMP3データを再生）
●再生可能ビットレート：32～256kbps（VBRは再生不可）
使用時間
約140時間
(連続表示した場合、カード非装着)※1
約70時間
(1時間あたり表示状態を55分、検索※2を5分間行った場合、カード非装着)※1
約14時間
(microSDメモリーカードに収録したMP3データを連続再生した場合、音量“5”)※1
※1 使用温度25℃。 表示の明るさは標準の“3”で、表示状態になった30秒後に表示が暗くなる場合。
※2 英和辞典で、1秒1キーで“dictionary”と入力し［決定］を押す操作の繰り返し。
注:使用環境や使用方法、カードの種類により、使用時間が短くなることがあります。
●本体メモリー
容　　量：約500MB

●本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報

ソフトウェア構成

本機に組み込まれているソフトウェアは、それぞれ当社または第三者の著作権が存在する、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成されています。

当社開発ソフトウェアとフリーソフトウェア

本機のソフトウェアコンポーネントのうち、当社が開発または作成したソフトウェアおよび付帯するドキュメント類には当社の著作権が存在し、著作権法、国際条約およびその他の関連する法律によって保護されています。また本機は、第三者が著作権を所有しフリーソフトウェアとして配布されているソフトウェアコンポーネントを使用しています。

・本製品は、Freetypeを使用しています。

Portions of this software are copyright (C) 1996-2000 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

・本製品には、GNU General Public License（以下、GPL）の適用を受けるソフトウェアコンポーネントが含まれています。

ソースコードの入手方法

フリーソフトウェアには、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、そのコンポーネントのソースコードの入手を可能にすることを求めるものがあります。GPLも、同様の条件を定めています。こうしたフリーソフトウェアのソースコードの入手方法ならびにGPLおよびその他のライセンス契約の確認方法については、以下のWEB サイトをご覧ください。

https://jp.sharp/support/dictionary/

なお、フリーソフトウェアのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。また当社が所有権を持つソフトウェアコンポーネントについては、ソースコードの提供対象ではありません。